

Survey on sports
県民の運動・スポーツに
関する調査報告書



令和5年3月

福岡県

目次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査設計	1
3. 調査企画と調査実施	1
4. 結果の記載方法及び利用上の注意	1
II. 標本構成	2
III. 調査結果	3
1. 基本項目	3
(1) 生活満足度	3
(2) 自分の時間の確保状況	4
(3) 運動不足を感じることの有無	5
2. 運動やスポーツの実施状況	6
(1) この1年間に運動やスポーツを行ったかどうか	6
(2) この1年間に行った運動やスポーツの種類	7
(3) この1年間に行った運動やスポーツの実施頻度	8
(4) (1年間に何らかのスポーツを行った人) 運動やスポーツを行った理由	10
(5) (まったく運動やスポーツを行わなかった人のみ) 行わなかった理由	12
(6) 運動やスポーツを行った場所	14
(7) 今後の運動やスポーツの実施(継続)意向	15
(8) 運動やスポーツを行う(継続する)ための条件	16
(9) 運動・スポーツのために1年間にかけた費用	18
(10) 新型コロナウイルス感染症が運動・スポーツに及ぼした影響	19
3. 総合型地域スポーツクラブについて	21
(1) 「総合型地域スポーツクラブ」の認知度	21
(2) 「総合型地域スポーツクラブ」の加入意向	22
(3) (加入意向ありの人のみ) 「総合型地域スポーツクラブ」の加入条件	23
4. 運動部活動について	24
(1) 学生時代の運動部活動やスポーツクラブ、体育会系のサークル等の活動有無	24
(2) 運動部活動の指導を誰が行うべきか	26
(3) (学校の教職員回答者) 運動部活動の指導は学校の教職員が行うべきと思う理由	27
(4) (学校の教職員以外) 運動部活動の指導に学校の教職員以外の地域の指導者が必要と思う理由	28
(5) よりよい運動部活動に必要なこと	29
5. スポーツの観戦や情報について	31
(1) この1年間にスポーツ観戦をした内容	31
(2) スポーツ観戦のために1年間にかける費用(スタジアム等での飲食代は除く)	32
(3) スポーツに関する情報の収集方法	33

(4) 今後、収集して活用したいスポーツに関する情報	35
6. スポーツ指導者について	37
(1) スポーツを行う上で必要な指導者	37
(2) スポーツ指導者は有資格者がよいと思うか	39
(3) 指導者に支払われる対価（謝金、給与等）の受益者負担について	40
7. ボランティアについて	41
(1) この1年間のスポーツにかかわるボランティア活動の有無	41
(2) (ボランティア活動がある人のみ) ボランティア活動に参加した理由	42
(3) スポーツにかかわるボランティア活動への参加意向	43
(4) ボランティア活動に参加するための条件	44
8. 大規模国際スポーツ大会について	45
(1) 「東京オリンピック・パラリンピック」の観戦の有無	45
(2) 「東京オリンピック・パラリンピック」を観戦して感じたこと	46
(3) 福岡県内で大規模国際スポーツ大会を継続的に開催することへの賛否	48
(4) (継続的な開催を望む人のみ) 大規模国際スポーツ大会に期待すること	49
9. スポーツを通じた地域活性化について	51
(1) スポーツが地域活性化に役立つと思うか	51
(2) スポーツを活かした方策として地方自治体に期待すること	52
10. 障がい者スポーツについて	54
(1) 障がい者スポーツへの関心の有無	54
(2) 障がいのある人と健常者がともにスポーツ活動を行う大会やプログラムの認知度	55
(3) (認知者のみ) 障がいのある人と健常者がともにスポーツ活動を行う大会やプログラムへの参加の有無	56
(4) 障がいのある方が、よりスポーツ活動に参加できるようにするために必要なこと	57
11. スポーツの価値について	59
(1) スポーツが個人や社会にもたらす効果	59
(2) 運動・スポーツへの価値観	60
12. eスポーツについて	61
(1) eスポーツの認知度	61
(2) (eスポーツ経験者、内容まで知っている人のみ) eスポーツの有益性	62

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本県における県民のスポーツの実態及びスポーツ振興に係る県民のニーズを把握し、令和5年度に策定する次期「福岡県スポーツ推進計画」の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査設計

- (1) **調査地域** 福岡県全域
- (2) **調査対象** 県内に居住する18歳以上の男女個人
- (3) **標本数** 4,000 サンプル≪4地域(北九州・福岡・筑豊・筑後)×1,000人≫
- (4) **標本抽出台帳** 選挙人名簿
- (5) **標本抽出方法** 層化二段無作為抽出法
 - <第1段> 県内4地域を層とし、地域ごとの人口総数を1とする人口構成比によって各市町村の合計が100地点になるように配分。ただし1市区町村に少なくとも1調査地点を配分するように各地域内の割り当てを再配分する。
 - <第2段> 調査地点ごとに「選挙人名簿」から1地点10人、合計4,000人を抽出。
- (6) **調査方法** 郵送・WEB併用(郵送配布、郵送回収及びWEB回収)
- (7) **調査期間** 令和4年10月28日(金)～11月20日(日)
- (8) **回収状況** 有効標本回収数(未達除く3,966)に対する有効回収数1,758(有効回収率44.3%)、郵送回収1,482、WEB回収276※有効回収数の15.7%
- (9) **集計方法** 実人口と回収数に比例した加重集計を行い、各地域の抽出率が等しくなるようにしたため、集計回答総数は4,851となっている。

3. 調査企画と調査実施

調査企画：福岡県人づくり・県民生活部スポーツ局 スポーツ企画課

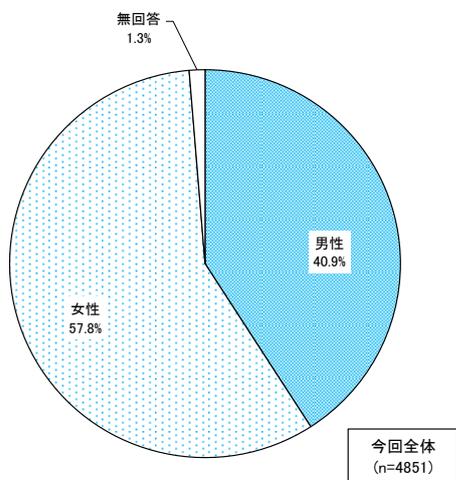
調査実施：株式会社日本統計センター調査部

4. 結果の記載方法及び利用上の注意

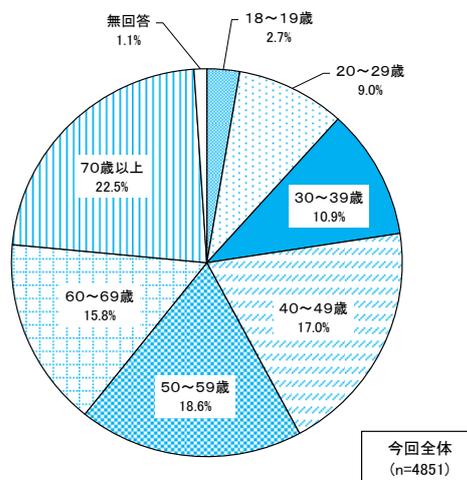
- ① 数表、図表、文中に示すnは、回答率算出上の標本数である。
- ② 数表、図表に示す選択肢はスペースの関係で文言を短縮して表記している場合がある。
- ③ 文中の選択肢の表記は、「」で行い、選択肢のうち、2つ以上のものをまとめて表す場合は『』で表記している。
- ④ 各選択肢の回答率(%)は、小数点以下第二位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- ⑤ 各設問とも、回答者数を回答率算出の基礎としているため、複数回答の設問では、各選択肢の回答率合計が100を超える場合がある。また、複数回答の数により、前回調査の回答率と乖離が生じる場合がある。
- ⑥ ウェイトバック集計を行っているため、数表に0%(表記の“-”)と0(0の近似値)を併記している。
- ⑦ 帯グラフでは数字が見つらいため、2.0%未満の数値を表示していない場合がある。
- ⑧ 前回調査は平成29年11月～12月に実施したものである。

II. 標本構成

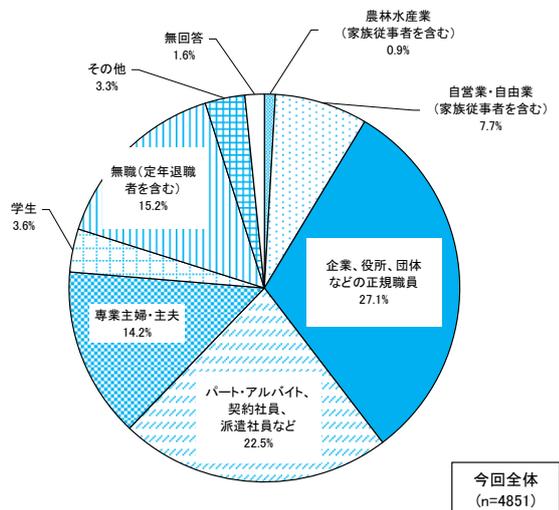
(1) 性別



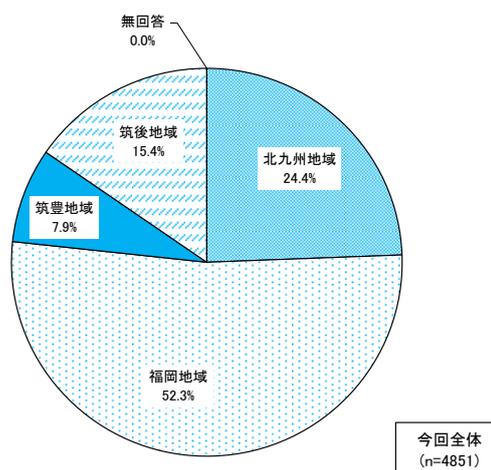
(2) 年齢別



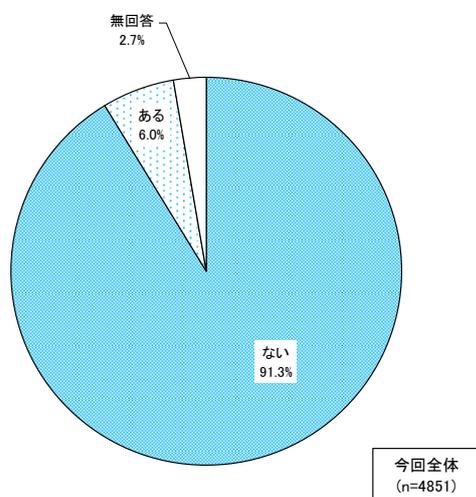
(3) 職業別



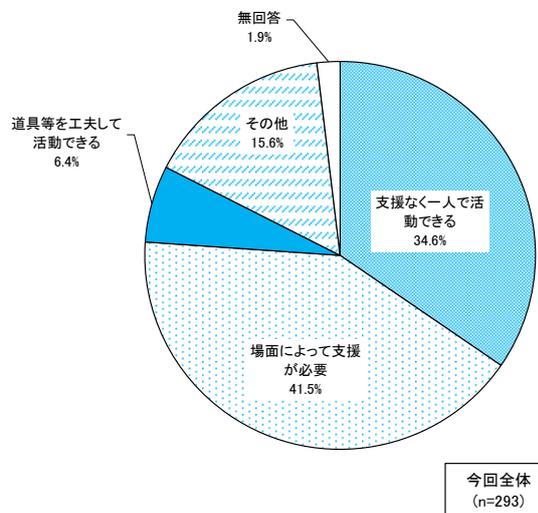
(4) 居住地域別



(5) 障がいの有無別



(6) 障がいの程度別



Ⅲ. 調査結果

1. 基本項目

(1) 生活満足度

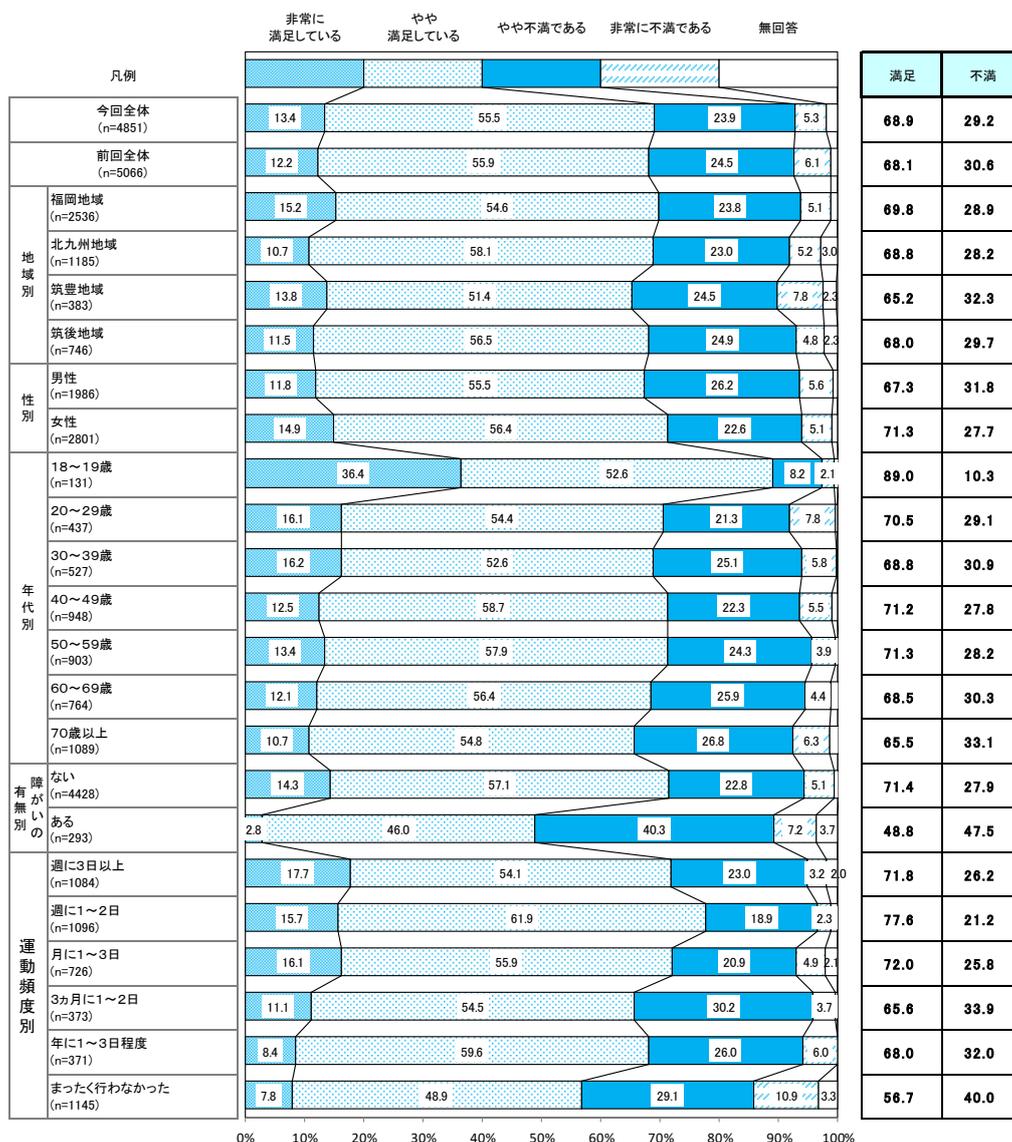
現在の生活に対する満足度は、『満足』（「非常に満足している」13.4%、「やや満足している」55.5%）が68.9%と約7割を占め、『不満』（「やや不満である」23.9%、「非常に不満である」5.3%）が29.2%と約3割である。前回と比較しても大きな違いはない。

年代別では、18～19歳で『満足』の割合が約9割を占め、「非常に満足している」（36.4%）の割合が3割を超えるなど満足感が高い。『満足』の割合が低いのは70歳以上で、65.5%となっている。

障がいの有無別では、障がいのある人の『満足』の割合は48.8%で、障がいのない人の『満足』の割合（71.4%）を大きく下回っている。

運動頻度別では、運動頻度が高いほど生活満足度も高い傾向がある。

生活満足度



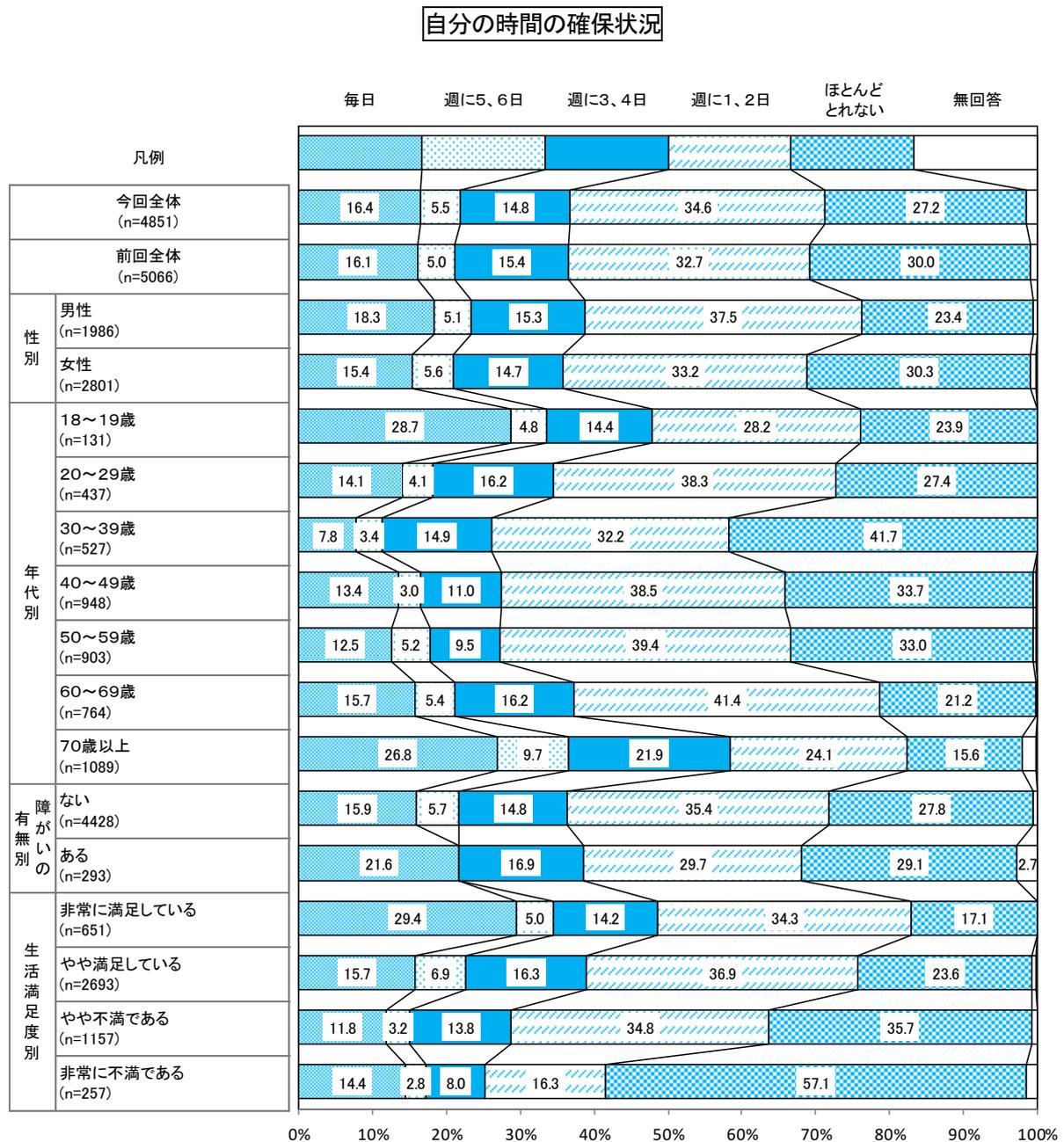
(2) 自分の時間の確保状況

普段の生活の中で、趣味（運動・スポーツを含む）や教養など、自分の時間の確保状況は「週に1、2日」（34.6%）が最も高く、次いで「ほとんどとれない」（27.2%）となっている。ほぼ毎日（週5日以上）自分の時間が確保できる割合は21.9%と約2割である。

ほぼ毎日（週5日以上）自分の時間が確保できる割合は、性別では大きな違いはない。年代別では、70歳以上と18～19歳の年代で高く、最も低いのは30代の11.2%である。

障がいの有無別では、障がいのない人も障がいのある人も、ほぼ毎日（週5日以上）自分の時間が確保できる割合は約2割で、大きな違いはない。

生活満足度別では、満足度が高いほど自分のための時間が確保できている。



(3) 運動不足を感じることの有無

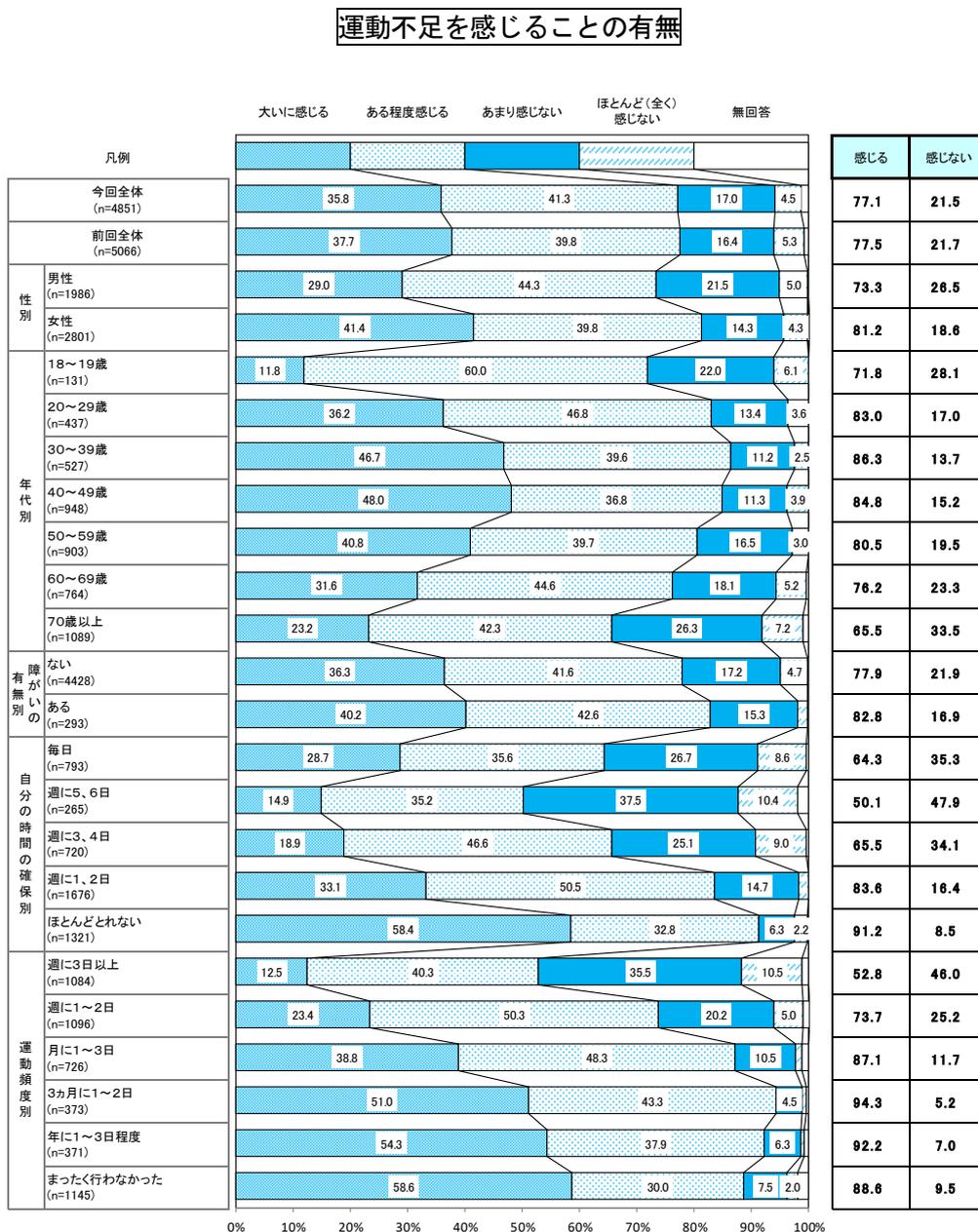
『運動不足を感じている』（「大いに感じる」35.8%、「ある程度感じる」41.3%）が77.1%、『運動不足を感じない』（「あまり感じない」17.0%、「ほとんど（全く）感じない」4.5%）が21.5%で、約8割の人が運動不足を感じている。この割合は前回と大きな違いはない。

年代別では、20代から50代で『運動不足を感じている』割合が8割を超えており、最も『運動不足を感じている』割合が低いのは70歳以上（65.5%）である。

障がいの有無別では、障がいのない人に比べて、障がいのある人で『運動不足を感じている』割合が高く、『運動不足を感じている』（82.8%）が8割を超えている。

自分の時間の確保別では、自分の時間がほとんどとれない人で『運動不足を感じている』（91.2%）が9割を超えている。

運動頻度別では、運動頻度が高いほど『運動不足を感じている』割合も低くなっている。



2. 運動やスポーツの実施状況

(1) この1年間に運動やスポーツを行ったかどうか

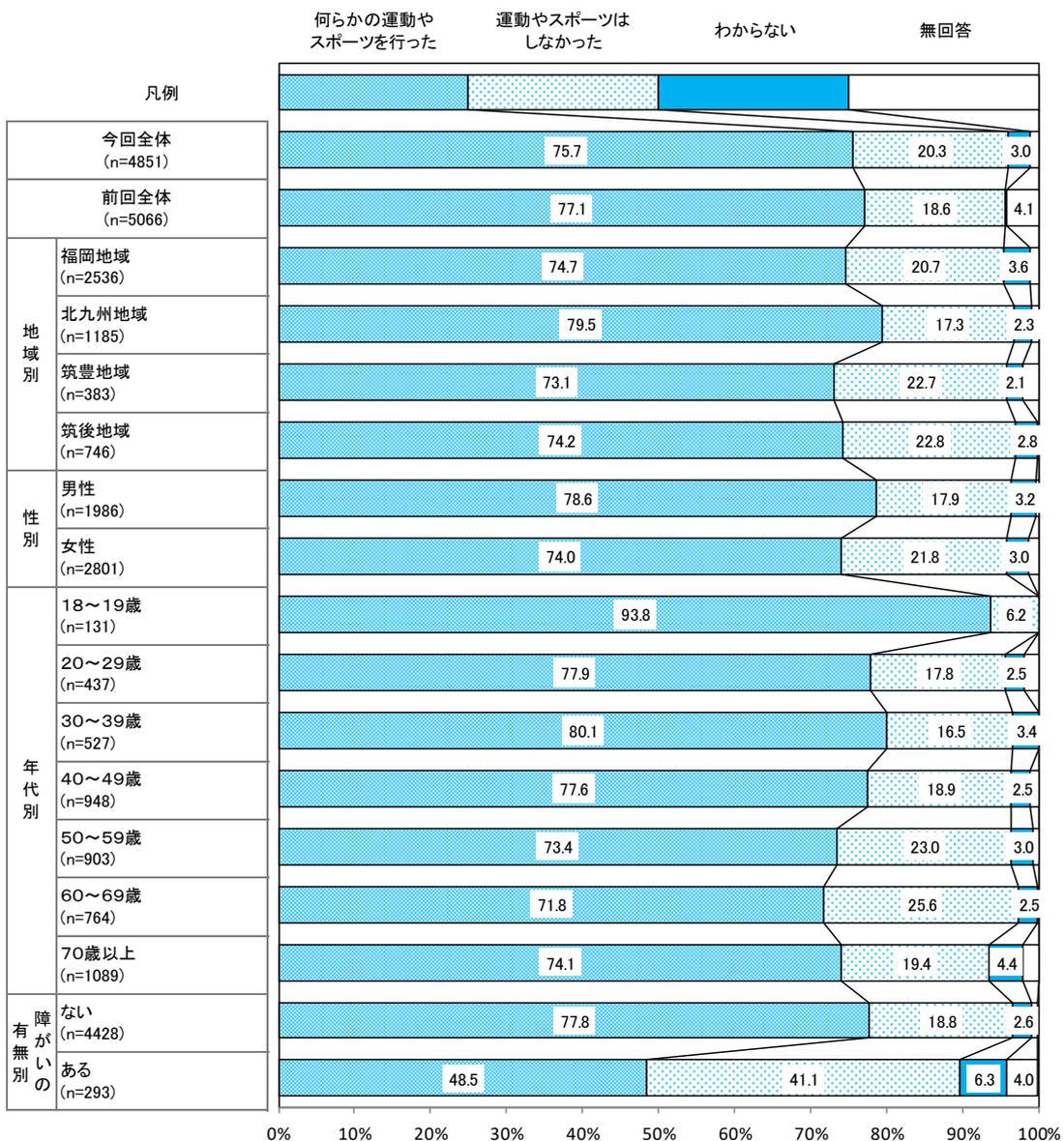
※ここでいう「運動やスポーツ」とは、一般的なスポーツ活動のほか、通勤時のウォーキングなど、健康の保持増進や体力の向上のために行う活動も含めている。

この1年間に何らかの運動やスポーツを行った人は75.7%である。

運動やスポーツの実施状況を見ると、「何らかの運動やスポーツを行った」割合は、性別では男性（78.6%）、年代別では18～19歳（93.8%）で高い。

障がいの有無別では、障がいのある人で「何らかの運動やスポーツを行った」割合は48.5%で、前回（59.3%）より10.8ポイント減少している。

この1年間に運動やスポーツを行ったかどうか

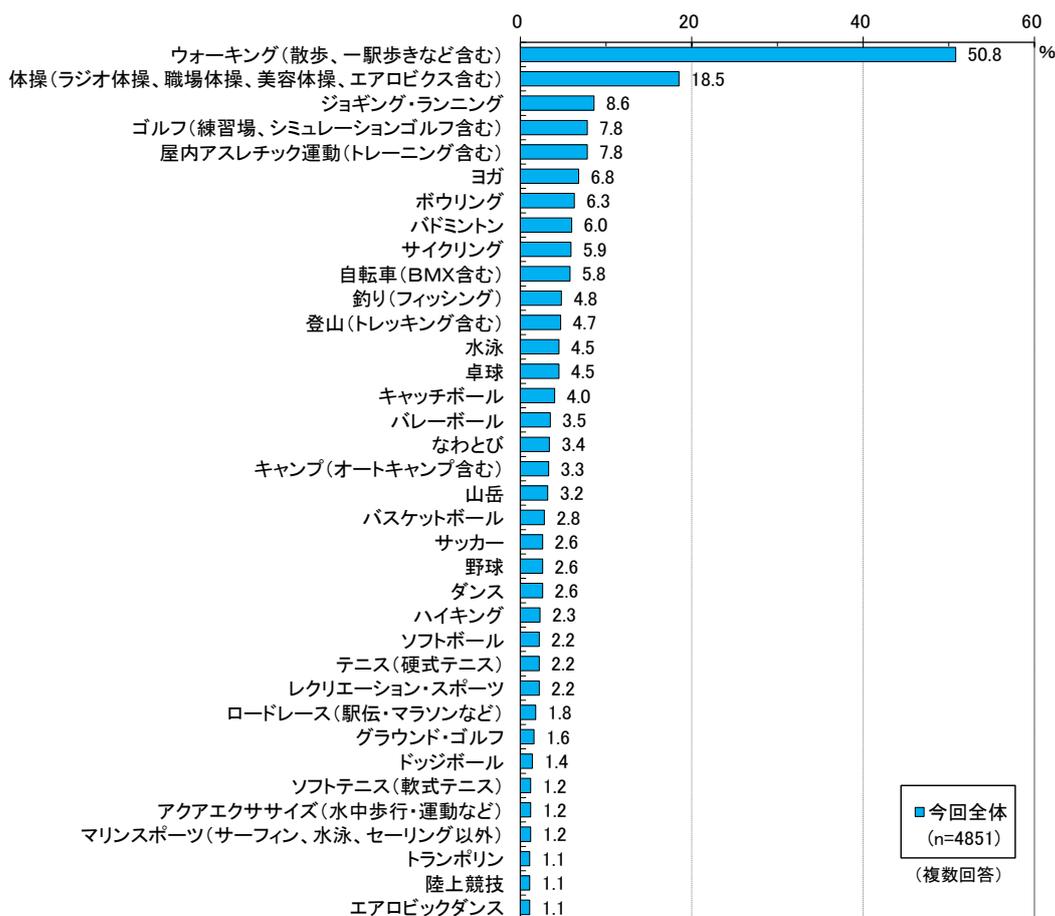


(2) この1年間に行った運動やスポーツの種類

この1年間に行った運動やスポーツの種類では、「ウォーキング（散歩、一駅歩きなど含む）」（50.8%）が5割を超え、前回（32.8%）に比べると大幅に上昇している。

次が「体操（ラジオ体操、職場体操、美容体操、エアロビクス含む）」（18.5%）で、ウォーキングと体操がこの1年間に行った運動・スポーツの主流となっている。

この1年間に行った運動やスポーツの種類



(注) 1.0%未満の項目は表示していない。表示していない項目は次のとおり。

＜主に屋内で行う競技スポーツ＞ アイススケート、アイスホッケー、ウエイトリフティング、空手道、弓道、剣道、銃剣道、柔道、少林寺拳法、相撲、体操競技（器械体操）・新体操、テコンドー、なぎなた、ハンドボール、フェンシング、フットサル、プレイキン（ブレイクダンス）、ボクシング、ライフル射撃、レスリング、主に屋内で行うその他の競技スポーツ

＜主に屋外で行う競技スポーツ＞ カヌー、クレー射撃、サーフィン、スキー、スケートボード、スノーボード、スポーツクライミング、セーリング、トライアスロン、馬術、ホッケー、ボート・漕艇、ラグビー、主に屋外で行うその他の競技スポーツ

＜比較的軽いスポーツ・運動・レクリエーション＞ ウォークラリー、オリエンテーリング、グライダー、ゲートボール、乗馬、ソフトバレーボール、太極拳、ターゲット・バードゴルフ、チアリーディング、バウンドテニス、フットベースボール、ローラースケート（インラインスケート）、ワンダーフォーゲル、その他の軽い運動・スポーツ

＜主な障がい者スポーツ＞ 車いすテニス、車いすバスケットボール、車いすフェンシング、車いすラグビー、グランドソフトボール、ゴルフ（ブラインドゴルフ等）、ゴールボール、サウンドテーブルテニス、サッカー（ブラインドサッカー以外）、シッティングバレーボール、ソフトボール、バスケットボール（知的、ツイン等）、パラアーチェリー、パラカヌー、パラサイクリング（自転車競技）、パラ射撃、パラ柔道、パラ水泳、パラ卓球（サウンドテーブルテニス除く）、パラテコンドー、パラトライアスロン、パラ馬術、パラバドミントン、パラパワーリフティング、パラ陸上、パラローイング（ボート競技）、バレーボール（シッティングバレー以外）、フットベースボール、フライングディスク、ブラインドサッカー、ボウリング、ボッチャ、その他の障がい者スポーツ

(3) この1年間に行った運動やスポーツの実施頻度

この1年間に行った運動やスポーツの頻度では、『週1回以上』（「週に1～2日」22.6% 「週に3日以上」22.4%）が45.0%で、前々回（36.3%）、前回（40.6%）と上昇傾向にある。

性別では、『週1回以上』の割合はほぼ同程度であるが、「まったく行わなかった」の割合は女性（24.7%）が高く、男性を3.2ポイント上回っている。

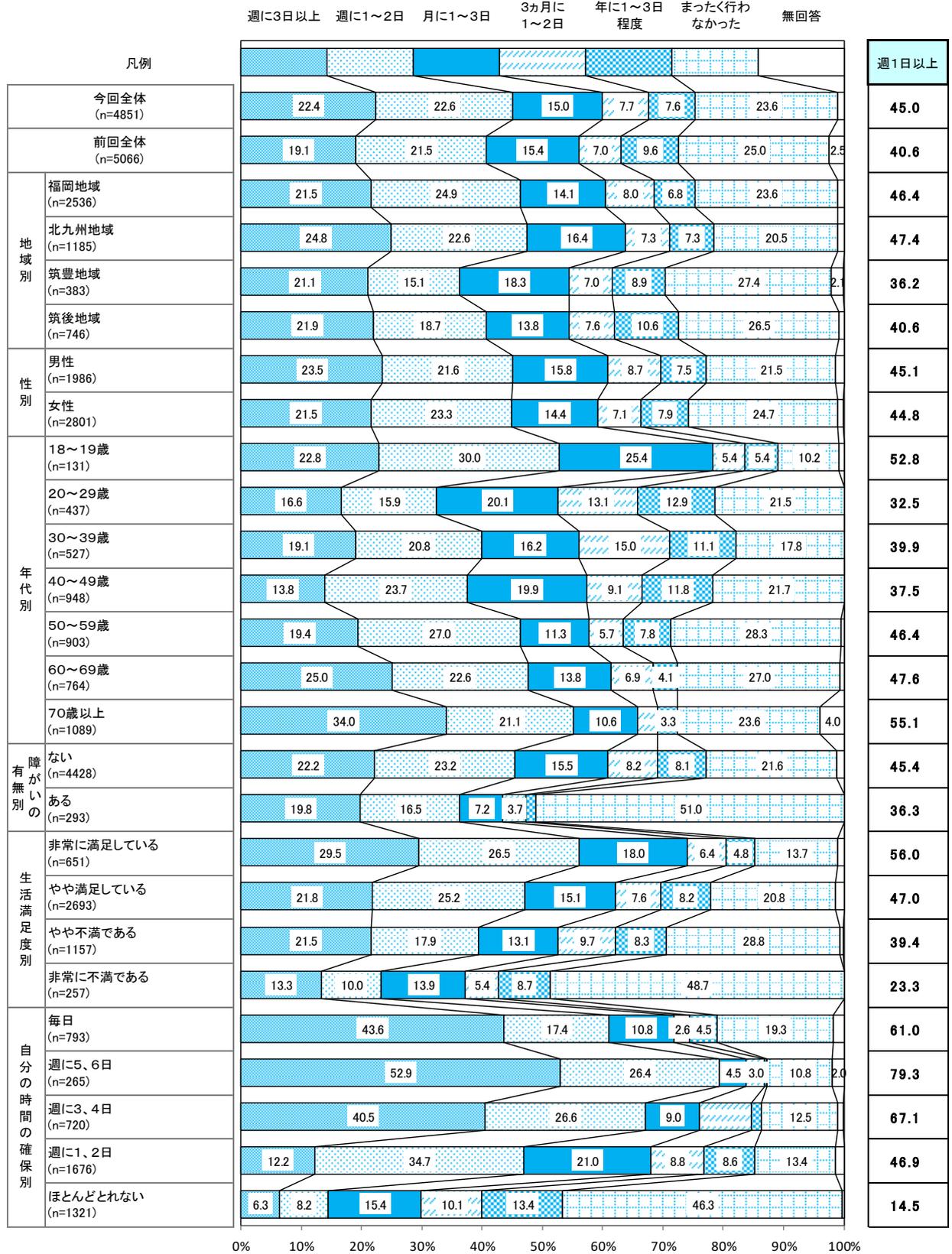
年代別では、年代が高くなるほど『週1回以上』運動やスポーツをする人の割合が上昇傾向にある。70代以上では『週1回以上』（55.1%）が5割を超え、「週3日以上」（34.0%）の割合も他の年代の中で最も高いなど、高齢になるほど日常的に運動やスポーツに取り組んでいる状況が見られる。

障がいの有無別では、障がいのある人で『週1回以上』運動やスポーツをする人の割合は36.3%で、「まったく行わなかった」（51.0%）が約5割を占めている。

生活満足度別では、満足度が高くなるほど運動頻度も高くなる傾向があり、「非常に不満である」では「まったく行わなかった」（48.7%）が約5割を占めている。

自分の時間の確保別では、週3日以上自分の時間を確保できている人は、「週3日以上」運動やスポーツをする人の割合が4割を超えている。

この1年間に行った運動やスポーツの実施頻度



(4) (1年間に何らかのスポーツを行った人) 運動やスポーツを行った理由

運動やスポーツを行った理由では、「健康・体力づくりのため」(40.1%)が最も高く、次いで「運動不足を感じるから」(32.0%)、「楽しみや気晴らしとして」(29.6%)となっている。前回と比べて大きな違いはないが、「運動不足を感じるから」は前回から7.1ポイント上昇した。

地域別では、福岡地域で「健康・体力づくりのため」「楽しみや気晴らしとして」、北九州地域で「運動不足を感じるから」「美容や肥満解消のため」、筑後地域で「友人や仲間との交流のため」の割合が他地域に比べて高い。

性別では、男性に「健康・体力づくりのため」「楽しみや気晴らしとして」「友人や仲間との交流のため」の割合が高く、女性に「運動不足を感じるから」「美容や肥満解消のため」「家族との触れ合いのため」の割合が高い。

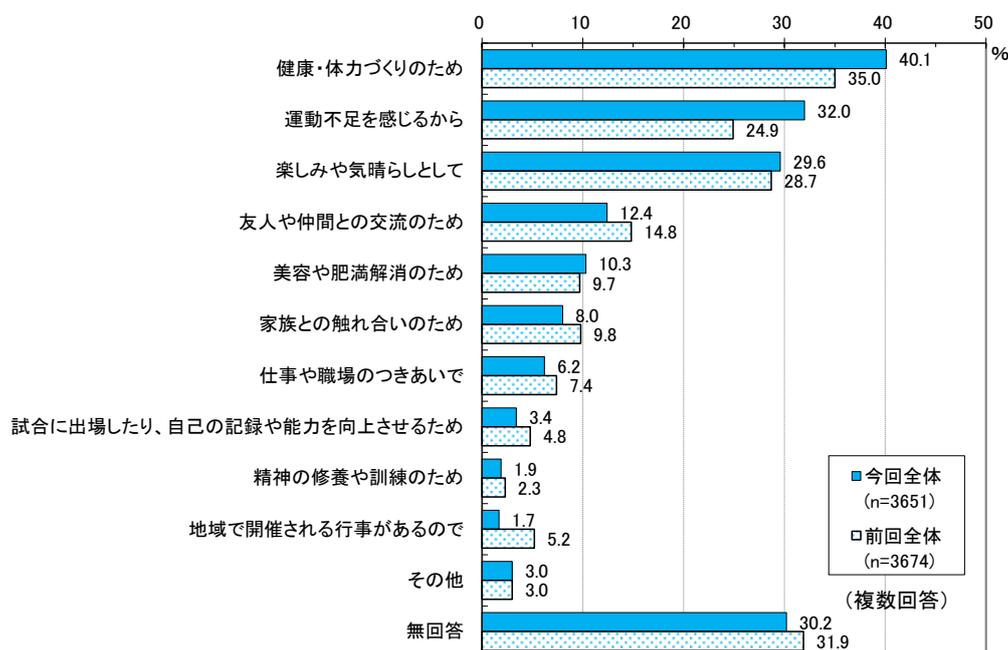
年代別では、年代が高くなるほど「健康・体力づくりのため」「運動不足を感じるから」の割合が上昇している。一方、「楽しみや気晴らしとして」の割合は若い年代ほど高い。

障がいの有無別に見ると、障がいのある人は障がいのない人に比べて「健康・体力づくりのため」、「運動不足を感じるから」の割合が高い。

運動頻度別では、週3日以上運動している人で「健康・体力づくりのため」「運動不足を感じるから」「楽しみや気晴らしとして」の割合が高く、年に1～3日程度の人では「友人や仲間との交流のため」「家族との触れ合いのため」の割合が高い。

運動・スポーツの価値では、大切と考える人で「健康・体力づくりのため」「楽しみや気晴らしとして」の割合が高く、運動・スポーツは心身ともに健康な状態を保つために大切だと感じている。

(1年間に何らかのスポーツを行った人) 運動やスポーツを行った理由



(1年間に何らかのスポーツを行った人) 運動やスポーツを行った理由

		サンプル数	健康・体力づくりのため	運動不足を感じるから	楽しみや気晴らしとして	友人や仲間との交流のため	美容や肥満解消のため	家族との触れ合いのため	仕事や職場のつきあいで	試合に出場したり、自己の記録や能力を向上させるため	精神の修養や訓練のため	地域で開催される行事があるので	その他	無回答
今回全体		n=3651	40.1	32.0	29.6	12.4	10.3	8.0	6.2	3.4	1.9	1.7	3.0	30.2
前回全体		n=3674	35.0	24.9	28.7	14.8	9.7	9.8	7.4	4.8	2.3	5.2	3.0	31.9
地域別	福岡地域	n=1910	41.2	31.7	32.2	11.8	8.7	7.0	5.6	4.2	2.2	0.8	3.6	30.0
	北九州地域	n=929	41.0	34.3	24.7	11.3	14.2	9.6	7.8	2.3	1.5	1.5	2.3	31.7
	筑豊地域	n=270	41.1	32.6	27.4	13.0	11.1	11.1	4.4	1.5	1.9	3.0	4.1	25.2
	筑後地域	n=542	34.3	28.9	29.8	16.5	8.6	7.3	6.0	3.5	1.3	4.8	1.3	31.1
性別	男性	n=1531	41.0	30.4	34.4	16.2	7.1	5.9	8.5	5.1	2.2	2.1	2.5	27.4
	女性	n=2082	39.7	33.1	25.9	9.5	12.7	9.7	4.5	2.3	1.7	1.5	3.4	32.1
年齢別	18～19歳	n=117	14.7	16.1	42.5	27.1	-	6.9	13.8	12.4	5.4	0.9	3.8	34.4
	20～29歳	n=343	37.2	30.0	39.4	18.7	16.8	10.1	8.0	4.9	1.8	0.5	4.0	17.5
	30～39歳	n=433	35.3	26.5	31.7	10.8	10.3	13.8	12.4	4.5	1.5	-	6.2	28.2
	40～49歳	n=743	36.9	30.1	33.2	9.6	12.7	14.4	7.1	2.0	3.4	1.4	2.3	30.5
	50～59歳	n=642	42.9	34.8	26.5	8.1	15.2	5.2	2.9	4.2	0.8	1.8	2.7	32.7
	60～69歳	n=553	39.4	34.4	23.3	7.7	6.5	5.1	5.2	1.5	-	1.5	1.1	37.2
	70歳以上	n=789	49.1	35.6	25.4	17.9	5.6	2.7	3.4	3.0	2.4	3.9	3.0	28.8
障がいの有無別	ない	n=3418	39.5	31.3	30.1	12.6	10.5	8.4	6.5	3.3	1.9	1.8	2.8	30.3
	ある	n=144	56.9	37.8	19.3	6.9	6.3	3.7	2.6	3.7	2.4	1.9	9.3	27.7
運動頻度別	週に3日以上	n=1084	73.1	48.2	36.4	13.3	18.2	5.6	7.1	6.5	3.0	2.1	5.6	2.2
	週に1～2日	n=1096	30.1	24.6	23.8	6.8	8.9	3.2	4.2	3.2	1.1	0.1	1.6	54.4
	月に1～3日	n=726	27.4	25.6	27.1	13.6	4.0	9.8	5.6	1.5	3.1	1.1	2.6	42.4
	3か月に1～2日	n=373	18.3	28.0	26.6	11.6	6.1	13.4	6.0	2.4	0.3	1.9	-	38.8
	年に1～3日程度	n=371	19.8	22.8	34.8	25.4	7.7	20.1	10.7	-	-	6.7	3.2	8.3
運動への価値観	大切	n=1478	46.9	29.7	33.8	14.2	10.6	7.5	6.4	6.2	2.9	1.9	2.1	30.8
	まあ大切	n=1648	37.8	35.1	28.1	11.9	9.7	10.0	5.4	1.9	0.8	1.3	3.3	28.8
	あまり大切でない	n=206	19.8	22.2	21.4	8.8	10.0	4.1	10.4	-	1.3	1.3	8.8	34.4
	大切でない	n=34	39.5	36.7	26.5	5.0	15.8	10.9	5.0	-	-	15.7	-	23.8
	わからない	n=82	31.2	37.4	17.3	6.5	5.4	1.2	7.8	-	-	3.3	5.7	25.2

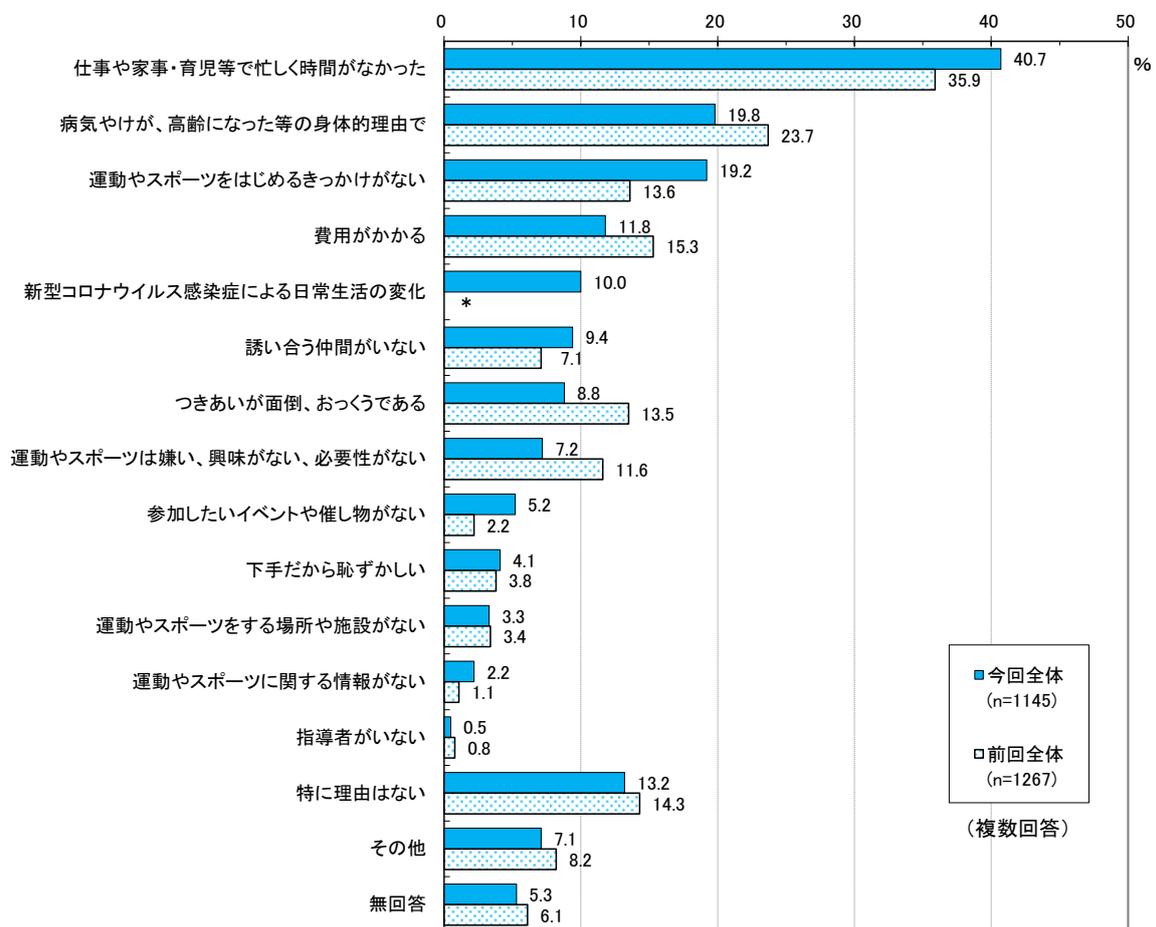
(注)属性ごとに、全体(平均)よりも高い数値に薄い青色、最も高い数値に青色を付している。

(5) (まったく運動やスポーツを行わなかった人のみ) 行わなかった理由

この1年間にまったく運動やスポーツを行わなかった理由では「仕事や家事・育児等で忙しく時間がなかった」(40.7%)が最も高く、次いで「病気やけが、高齢になった等の身体的理由で」(19.8%)、「運動やスポーツをはじめるきっかけがない」(19.2%)、「費用がかかる」(11.8%)、「新型コロナウイルス感染症による日常生活の変化」(10.0%)となっている。

前回と比べると「運動やスポーツをはじめるきっかけがない」が5.6ポイント高く、「費用がかかる」が3.5ポイント低くなっている。

(まったく運動やスポーツを行わなかった人のみ) 行わなかった理由



(注) * 「新型コロナウイルス感染症による日常生活の変化」は今回追加した項目

性別では、女性で「仕事や家事・育児等で忙しく時間がなかった」(44.0%)の割合が高い。年代別では、若い年代ほど「運動やスポーツをはじめるきっかけがない」の割合が高い。「仕事や家事・育児等で忙しく時間がなかった」の割合が最も高いのは30代(63.9%)で6割を超えている。

障がいの有無別では、障がいのある人で「病気やけが、高齢になった等の身体的理由で」(34.8%)の割合が最も高い。

運動不足感では、大いに感じる人で「運動やスポーツをはじめるきっかけがない」「費用がかかる」「誘い合う仲間がいない」の割合が高い。運動やスポーツを継続したくない(続けたくない)では「新型コロナウイルス感染症による日常生活の変化」(18.2%)の割合が高い。

(まったく運動やスポーツを行わなかった人のみ) 行わなかった理由

	サンプル数	仕事や家事・育児等で忙しく時間がなかった	病気やけが、高齢になった等の身体的理由で	運動やスポーツをはじめるきっかけがない	費用がかかる	新型コロナウイルス感染症による日常生活の変化	誘い合う仲間がいない	つきあいが面倒、おっくうである	運動やスポーツは嫌い、興味が無い、必要性がない	参加したいイベントや催し物がない	手だから恥ずかしい	運動やスポーツをする場所や施設がない	運動やスポーツに関する情報がない	指導者がいない	特に理由はない	その他	無回答	(%)
今回全体	n=1145	40.7	19.8	19.2	11.8	10.0	9.4	8.8	7.2	5.2	4.1	3.3	2.2	0.5	13.2	7.1	5.3	
前回全体	n=1267	35.9	23.7	13.6	15.3	*	7.1	13.5	11.6	2.2	3.8	3.4	1.1	0.8	14.3	8.2	6.1	
地域別	福岡地域	n=599	43.8	20.5	23.2	12.5	8.0	12.5	8.0	8.0	3.6	5.4	2.7	-	10.7	7.1	2.7	
	北九州地域	n=243	33.3	16.7	15.6	12.2	12.2	4.4	11.1	6.7	1.1	5.6	1.1	2.2	1.1	15.6	6.7	11.1
	筑豊地域	n=105	30.5	17.1	13.3	4.8	15.2	6.7	6.7	7.6	3.8	-	2.9	-	1.0	21.9	6.7	11.4
	筑後地域	n=198	46.1	22.6	14.8	13.0	10.4	7.8	9.6	5.2	2.6	6.1	-	1.7	0.9	13.0	7.8	2.6
性別	男性	n=428	34.2	21.7	19.5	12.8	6.0	9.2	10.0	5.4	4.6	5.2	4.2	1.9	1.0	16.3	6.0	3.9
	女性	n=693	44.0	18.5	18.9	11.6	12.8	9.8	8.2	8.6	5.8	3.6	2.9	2.4	0.1	11.3	8.1	5.9
年齢別	18～19歳	n=13	-	-	39.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60.1	-	-
	20～29歳	n=94	47.6	14.3	27.6	1.8	8.6	15.1	7.5	16.9	1.1	1.8	5.7	-	2.9	12.5	1.8	9.6
	30～39歳	n=94	63.9	1.8	20.0	20.8	4.0	11.8	10.4	12.5	-	11.4	17.1	1.8	-	6.8	7.5	1.1
	40～49歳	n=205	50.4	3.4	29.1	25.2	12.2	13.8	14.3	6.6	6.0	9.5	0.5	3.5	-	13.6	1.3	6.7
	50～59歳	n=255	54.5	13.3	18.5	8.7	12.9	12.6	10.9	10.5	10.5	1.7	1.1	6.3	0.7	10.2	7.7	4.2
	60～69歳	n=206	33.9	24.8	21.5	14.2	13.4	5.7	4.3	6.2	7.5	2.1	2.6	-	-	16.3	6.1	3.1
	70歳以上	n=257	13.6	44.2	5.6	4.2	6.7	4.2	7.0	0.8	1.7	2.4	2.9	-	0.4	13.4	14.6	7.4
障がいの有無別	ない	n=958	44.7	16.7	20.9	13.2	11.6	9.8	9.1	8.0	5.5	4.5	3.9	2.0	0.6	14.2	4.0	3.8
	ある	n=149	15.7	34.8	10.3	5.9	1.3	9.7	5.4	4.3	3.6	1.2	-	3.6	-	4.3	28.7	15.7
運動不足感別	大いに感じる	n=671	41.0	23.2	24.2	15.8	11.9	11.7	9.1	7.8	6.7	5.5	5.1	2.4	0.3	8.7	6.4	6.3
	ある程度感じる	n=344	43.1	13.7	10.0	7.2	6.1	7.5	8.3	7.2	2.8	2.4	1.1	2.6	1.1	15.7	6.0	2.8
	あまり感じない	n=86	25.8	11.4	20.8	5.5	7.4	3.2	13.4	6.3	6.2	2.0	-	-	-	34.5	19.7	8.9
	ほとんど(全く)感じない	n=23	22.8	34.3	-	-	30.1	-	-	-	-	-	-	-	-	27.1	4.3	15.7
今後の運動やスポーツの実施意向	ぜひしてみたい(続けたい)	n=177	51.1	10.5	20.1	12.1	-	6.0	6.1	3.0	1.0	15.6	4.5	22.6	11.6	9.5	7.0	6.6
	どちらかといえばしてみたい(続けたい)	n=514	49.8	16.7	24.9	12.2	4.2	5.3	8.7	5.3	0.5	4.5	3.3	15.1	12.8	8.8	8.8	4.4
	どちらかといえばしたくない(続けたくない)	n=220	24.5	30.6	15.9	8.5	12.4	-	10.9	1.2	-	2.1	-	4.0	6.7	25.5	1.4	3.5
	したくない(続けたくない)	n=187	28.4	22.5	11.0	2.9	18.2	-	11.5	6.1	0.5	-	-	4.7	2.0	17.6	7.6	3.4

(注)属性ごとに、全体(平均)よりも高い数値に薄青色、最も高い数値に青色を付している。

(6) 運動やスポーツを行った場所

「公園や広場」(20.5%)が最も高く、次いで「自宅」(16.4%)、「その他」(13.5%)、「民間スポーツ施設」(10.8%)、「公共スポーツ施設」(10.0%)となっている。

性別では、女性で「自宅」(19.6%)の割合が男性を7.6ポイント上回っている。

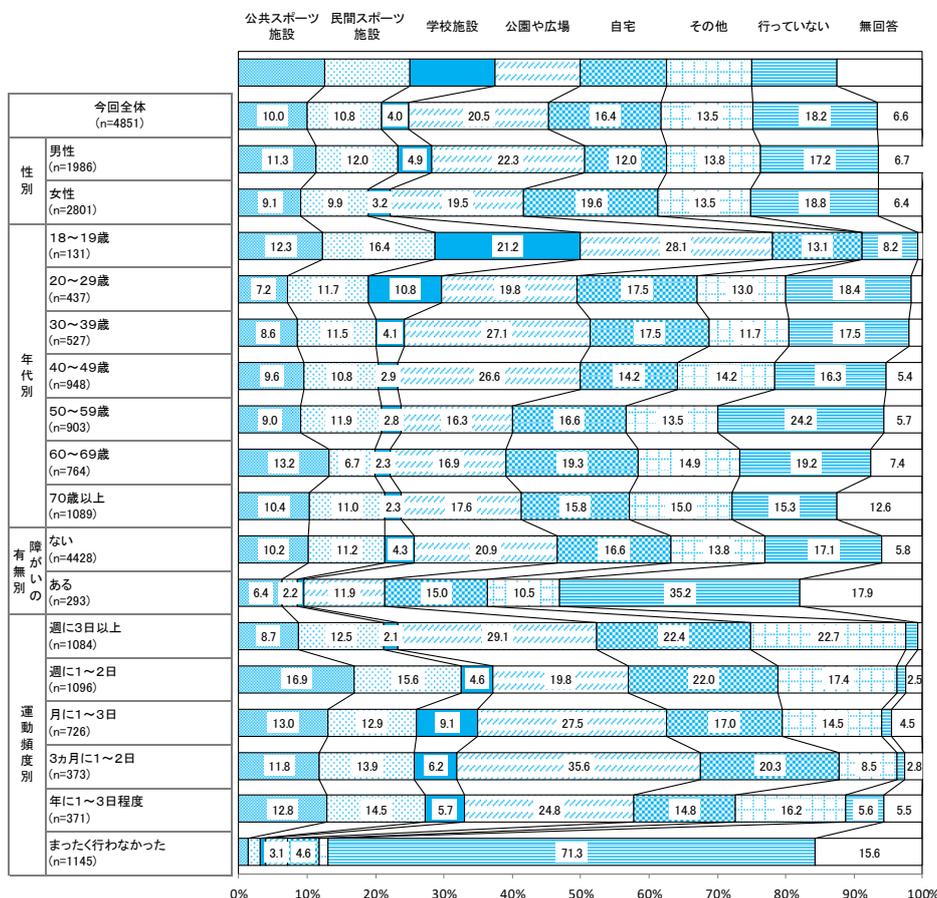
年代別では18～19歳、20代は他の年代に比べて「学校施設」の割合が高い。30代、40代では「公園や広場」の割合が高く、25%を超えている。

障がいの有無別に見ると、障がいのある人では「行っていない」が35.2%で最も高いが、場所の中では「自宅」(15.0%)の割合が最も高い。

運動頻度別では、週に3日以上運動やスポーツを行う人では「公園や広場」「自宅」が合わせて51.5%と5割を超えており、日常的に運動を行っている人では、施設を利用するよりも身近な場所で運動やスポーツを行っている状況が見られる。週に1～2日運動やスポーツを行う人は「自宅」(22.0%)が最も高いものの、「公園や広場」(19.8%)、「公共スポーツ施設」(16.9%)、「民間スポーツ施設」(15.6%)など、多様な場所で運動やスポーツを行っている。

※その他の記入内容は、「自宅周辺、家の近所」「海、川(河川敷)、山、山道」「歩道・道路」「職場(通勤途中)」「ジム・練習場・教室」「公民館、市民センターなど」である。

運動やスポーツを行った場所



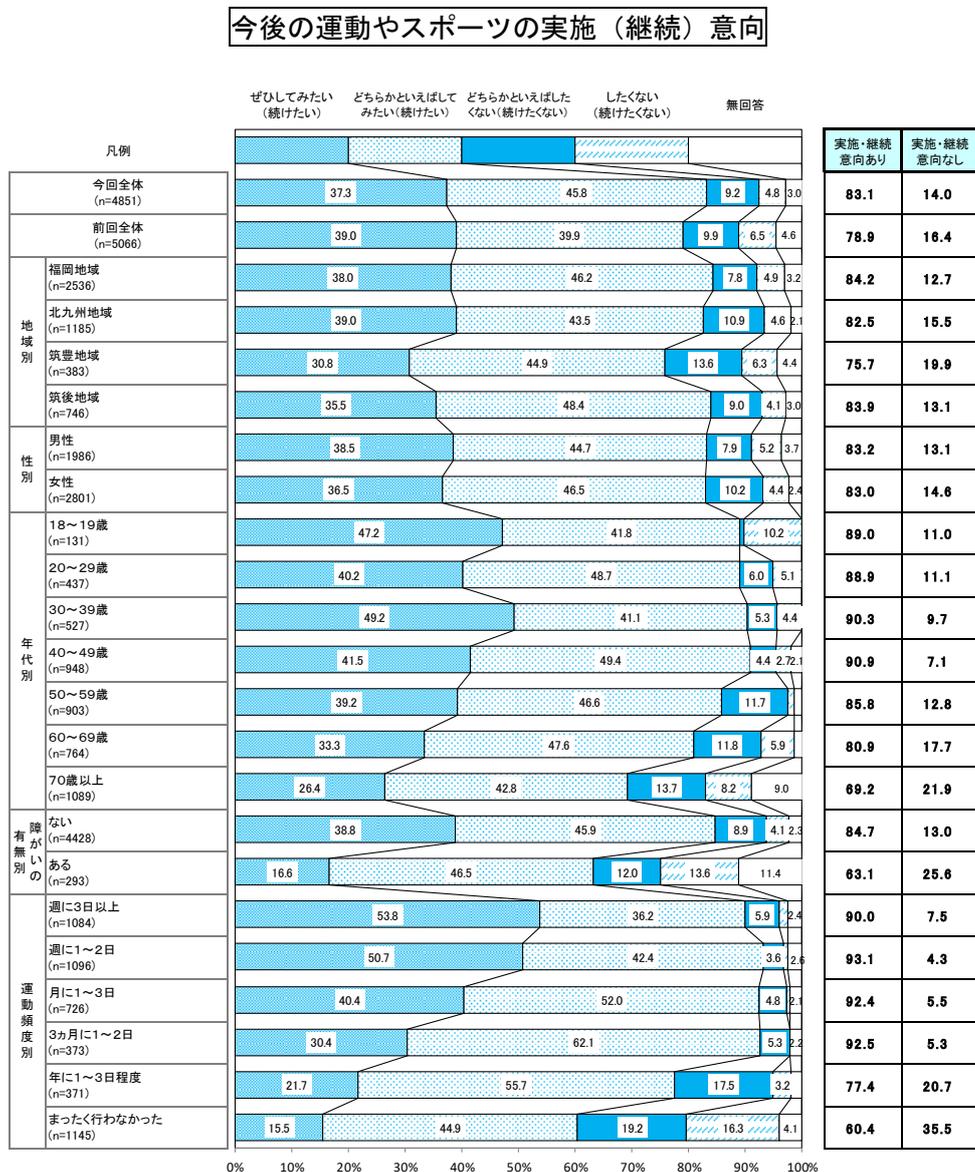
(7) 今後の運動やスポーツの実施（継続）意向

『実施（継続）意向あり』（「ぜひしてみたい（続けたい）」37.3%、「どちらかといえはしてみたい（続けたい）」45.8%）が83.1%と8割を超え、前回から4.2ポイント上昇した。

年代別では、70歳以上を除けば『実施（継続）意向あり』の割合に大きな違いはないが、「ぜひしてみたい（続けたい）」という強い継続意向を持つ人の割合は若い年代で高く、特に30代で「ぜひしてみたい（続けたい）」（49.2%）の割合が高い。

障がいの有無別では、障がいのある人は障がいのない人より『実施（継続）意向あり』が低いものの、6割の人が今後も運動やスポーツをしてみたい（続けたい）と思っている。

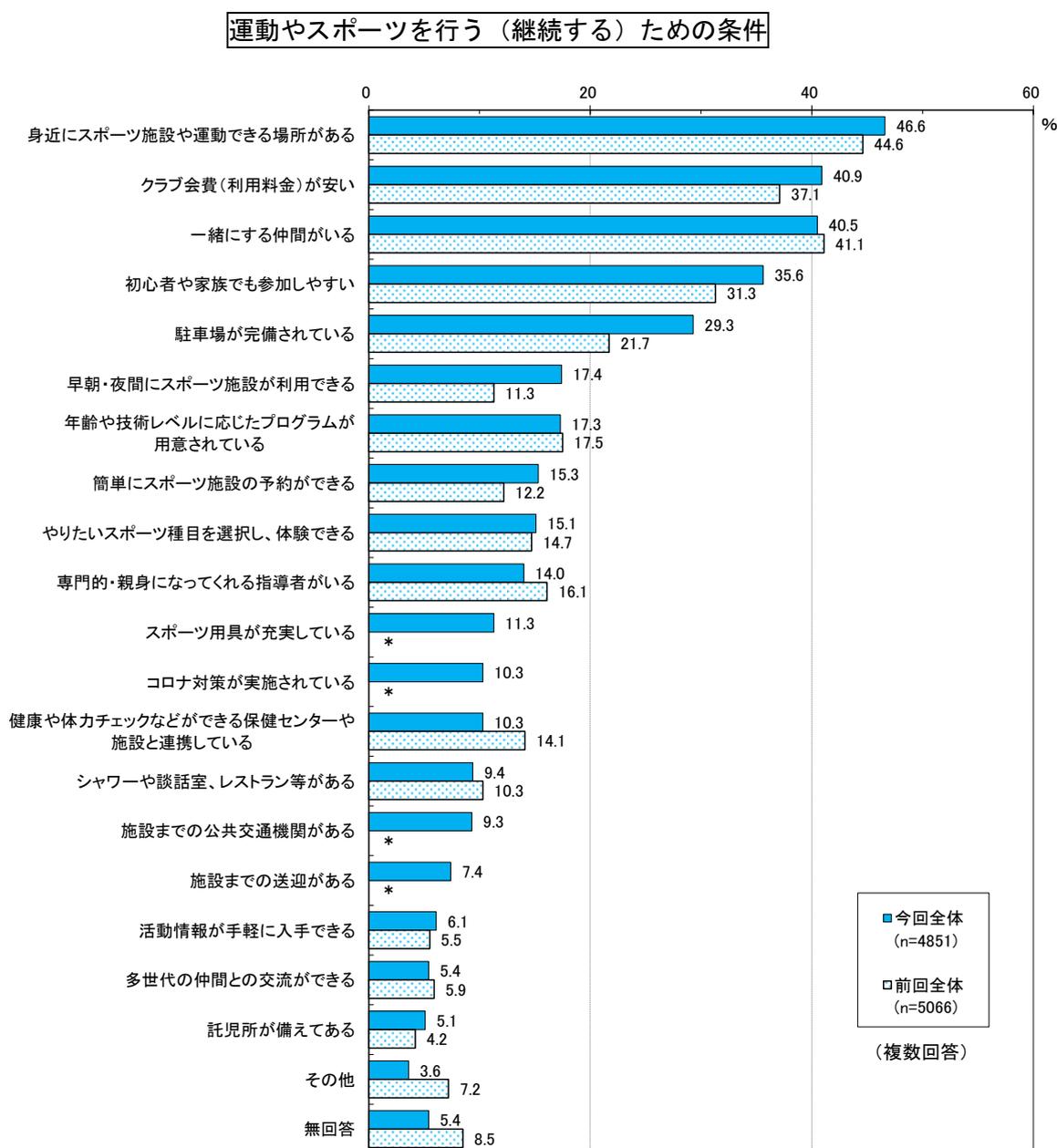
また、運動頻度が多いほど「ぜひしてみたい（続けたい）」という強い継続意向を持つ人の割合が高い。



(8) 運動やスポーツを行う（継続する）ための条件

「身近にスポーツ施設や運動できる場所がある」(46.6%)、「クラブ会費（利用料金）が安い」(40.9%)、「一緒にする仲間がいる」(40.5%)で4割を超え、次いで「初心者や家族でも参加しやすい」(35.6%)、「駐車場が完備されている」(29.3%)となっている。

前回と比べ傾向に大きな変化はないが、「駐車場が完備されている」は、今回7.6ポイント、「早朝・夜間にスポーツ施設が利用できる」は今回6.1ポイント上昇しており、駐車場があることや人が少ない時間帯に利用可能なことが、運動やスポーツを継続するための条件として重視されている。



(注) * 「スポーツ用具が充実している」「コロナ対策が実施されている」「施設までの公共交通機関がある」「施設までの送迎がある」は今回追加した項目

性別では、男性より女性に必要な条件が多くあげられており、特に「初心者や家族でも参加しやすい」(42.5%)で男性を16.5ポイント、「クラブ会費(利用料金)が安い」(45.5%)で男性を11.4ポイント上回っている。

年代別では、年代によって必要条件が違っているが、若い年代ほど「一緒にする仲間がいる」、「簡単にスポーツ施設の予約ができる」の割合が高く、年代が高くなるほど「年齢や技術レベルに応じたプログラムが用意されている」、「専門的・親身になってくれる指導者がいる」の割合が高くなる傾向がある。

障がいの有無別では、障がいのある人は障がいのない人に比べて「施設までの送迎がある」(19.1%)、「施設までの公共交通機関がある」(18.9%)「専門的・親身になってくれる指導者がいる」(17.8%)、「コロナ対策が実施されている」(16.9%)の割合が高く、運動やスポーツを行う条件として、寄り添ってくれる指導者の有無や感染予防策ができているか、施設への行きやすさなどが重視されている。

運動やスポーツを行う(継続する)ための条件

		サンプル数	身近にスポーツ施設や運動できる場所がある	クラブ会費(利用料金)が安い	一緒にする仲間がいる	初心者や家族でも参加しやすい	駐車場が完備されている	早朝・夜間にスポーツ施設が利用できる	年齢や技術レベルに応じたプログラムが用意されている	簡単にスポーツ施設の予約ができる	やりたいスポーツ種目を選択し、体験できる	専門的・親身になってくれる指導者がいる	スポーツ用具が充実している	健康や体力アップなどができる	保健センターや施設と連携している	コロナ対策が実施されている	シャワーや談話室、レストラン等がある	施設までの公共交通機関がある	施設までの送迎がある	活動情報が手軽に入手できる	多世代の仲間との交流ができる	託児所が備わっている	その他	無回答
今回全体		n=4851	46.6	40.9	40.5	35.6	29.3	17.4	17.3	15.3	15.1	14.0	11.3	10.3	10.3	9.4	9.3	7.4	6.1	5.4	5.1	3.6	5.4	
前回全体		n=5066	44.6	37.1	41.1	31.3	21.7	11.3	17.5	12.2	14.7	16.1	-	14.1	-	10.3	-	-	5.5	5.9	4.2	7.2	8.5	
地域別	福岡地域	n=2536	47.0	41.4	40.1	33.8	28.7	17.7	17.1	15.6	15.8	13.1	11.6	9.1	9.3	9.3	11.4	6.3	6.1	4.6	5.5	4.2	5.7	
	北九州地域	n=1185	47.8	44.0	42.4	39.9	31.9	18.5	17.5	16.2	13.4	15.5	11.2	10.7	11.4	7.5	8.7	9.8	5.9	6.8	5.5	3.2	3.9	
	筑豊地域	n=383	44.6	36.3	36.6	36.6	27.2	16.2	16.7	11.5	15.9	15.1	10.4	10.7	12.3	9.4	6.3	9.7	6.3	6.3	4.2	2.9	7.8	
	筑後地域	n=746	44.0	36.9	41.0	34.8	28.6	15.0	17.7	14.7	14.7	14.1	10.8	13.8	10.8	12.7	5.1	6.0	6.2	5.5	3.5	2.5	5.8	
性別	男性	n=1986	45.7	34.1	43.3	26.0	29.7	19.8	13.5	17.0	11.6	10.0	15.6	11.0	6.1	10.7	6.7	3.8	4.4	6.7	2.2	4.5	7.4	
	女性	n=2801	47.2	45.5	38.8	42.5	28.9	15.3	19.6	14.0	17.6	16.8	8.2	10.0	13.2	8.0	11.1	10.0	7.2	4.7	7.1	3.1	4.0	
年代別	18~19歳	n=131	63.1	35.6	69.3	36.9	5.4	23.3	5.4	30.8	16.5	7.1	22.0	4.1	8.9	8.8	32.0	7.7	2.6	6.9	-	2.1	-	
	20~29歳	n=437	48.0	49.3	54.3	28.8	25.0	21.6	4.3	20.2	25.1	7.2	15.7	4.2	8.0	15.5	7.2	0.6	9.2	9.8	10.6	2.9	0.6	
	30~39歳	n=527	45.7	50.7	51.3	48.0	28.9	30.3	9.2	13.3	17.8	12.9	13.5	7.8	9.3	7.3	6.9	5.1	6.3	3.6	23.8	4.1	1.3	
	40~49歳	n=948	47.8	46.5	37.5	40.5	36.6	25.4	11.8	20.4	15.0	12.0	11.8	6.2	9.8	11.6	5.9	3.2	5.9	4.9	5.7	3.9	2.7	
	50~59歳	n=903	51.9	44.3	35.0	33.7	37.3	20.6	21.7	18.8	19.0	18.4	9.4	9.7	9.9	12.6	8.5	6.3	7.1	4.8	0.6	4.9	2.0	
	60~69歳	n=764	44.8	40.7	39.1	35.1	29.2	9.1	25.6	10.6	11.6	19.7	9.5	16.1	12.3	4.9	12.6	6.6	7.9	5.1	1.2	2.0	3.8	
	70歳以上	n=1089	39.5	25.7	34.4	30.8	20.5	4.0	21.9	7.9	9.0	12.6	9.3	15.0	10.9	6.0	9.7	16.3	3.5	5.9	0.2	3.9	16.4	
障がいの有無別	ない	n=4428	47.8	42.1	41.1	36.8	29.9	18.3	16.8	15.9	16.0	13.8	11.8	10.1	9.6	9.5	8.6	6.5	6.2	5.4	5.4	3.6	4.2	
	ある	n=293	30.3	27.3	32.0	22.9	19.5	6.4	18.7	9.2	3.8	17.8	4.6	13.9	16.9	5.5	18.9	19.1	4.3	5.5	1.5	5.4	20.7	
運動頻度別	週に3日以上	n=1084	54.8	41.2	37.3	34.3	29.4	13.5	20.1	13.4	15.3	13.9	11.2	9.6	9.6	10.0	10.6	5.4	5.2	7.6	1.1	4.0	4.3	
	週に1~2日	n=1096	50.4	47.0	42.9	34.4	30.7	21.7	17.3	18.6	14.8	18.5	13.0	8.6	10.0	10.7	8.9	9.1	7.2	3.5	4.4	3.3	3.5	
	月に1~3日	n=726	52.0	44.5	45.7	37.7	31.6	16.5	18.7	17.1	14.0	10.7	16.6	12.4	10.4	7.7	9.3	3.2	5.6	6.0	4.6	4.1	2.6	
	3ヵ月に1~2日	n=373	59.3	43.4	52.0	34.2	30.5	25.3	10.5	22.5	17.0	22.6	10.7	7.7	7.0	6.4	5.7	7.0	8.1	3.1	10.6	0.7	1.4	
	年に1~3日程度	n=371	40.5	37.3	43.2	46.0	46.0	20.0	11.4	14.3	13.4	7.7	9.6	6.3	11.1	12.2	5.5	3.2	6.9	6.9	14.0	0.7	4.3	
	まったく行わなかった	n=1145	29.8	33.3	33.2	33.9	21.1	14.4	17.3	10.7	16.5	11.3	7.0	12.8	12.0	9.0	10.3	11.4	4.9	5.1	5.3	5.2	10.8	

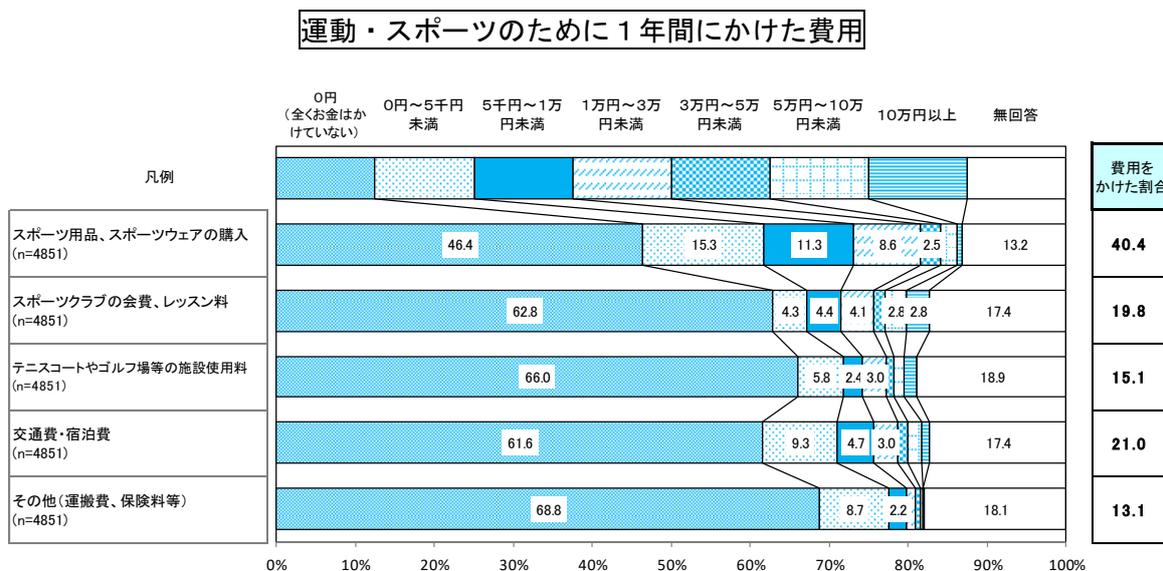
(注)属性ごとに、全体(平均)よりも高い数値に薄青色、最も高い数値に青色を付している。

(9) 運動・スポーツのために1年間にかけた費用

運動・スポーツのために1年間にかけた費用（飲料・サプリメント代等は除く）で、費用を支出した割合は、『スポーツ用品、スポーツウェアの購入』（40.4%）が最も高く、『交通費・宿泊費』（21.0%）、『スポーツクラブの会費、レッスン料』（19.8%）、『テニスコートやゴルフ場等の施設使用料』（15.1%）、『その他（運搬費、保険料等）』（13.1%）となっている。

支出した費用は、年間1万円未満の金額帯の割合が最も高く、『スポーツ用品、スポーツウェアの購入』で26.6%、『交通費・宿泊費』が14.0%、『その他（運搬費、保険料等）』が10.9%、『スポーツクラブの会費、レッスン料』が8.7%、『テニスコートやゴルフ場等の施設使用料』が8.2%となっている。

年に3万円以上支出した割合が高いのは『スポーツクラブの会費、レッスン料』（7.0%）である。



(10) 新型コロナウイルス感染症が運動・スポーツに及ぼした影響

新型コロナウイルス感染症の発生前後で運動・スポーツの面でどのような変化や事態が生じたかでは、新型コロナウイルス感染症の発生によって、約5割の人が運動・スポーツの面で何らかの影響を受けている。

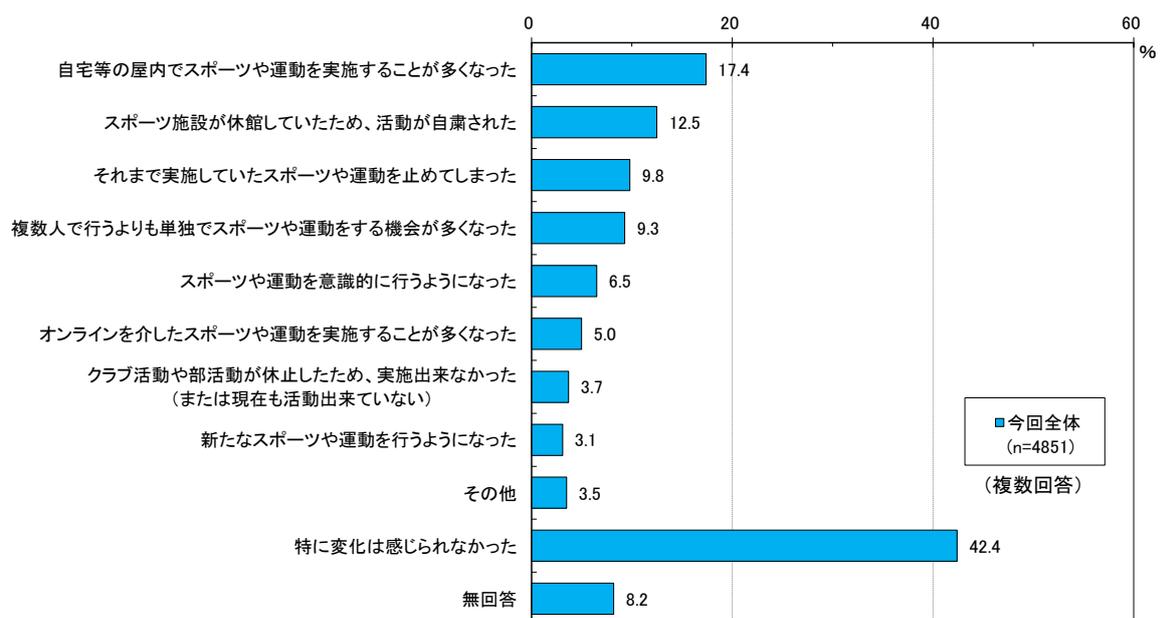
影響を受けた内容では、「自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった」(17.4%)が最も高く、次いで「スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛された」(12.5%)、「それまで実施していたスポーツや運動を止めてしまった」(9.8%)、「複数人で行うよりも単独でスポーツや運動をする機会が多くなった」(9.3%)となっている。

年代別では、18～19歳で「スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛された」(24.6%)、「クラブ活動や部活動が休止したため、実施出来なかった(または現在も活動出来ていない)」(18.5%)などの施設の休館や活動停止の影響を受けた割合が高い。20代、30代では「自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった」の割合が高い。

運動頻度別では、運動頻度が高くなるほど「自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった」「複数人で行うよりも単独でスポーツや運動をする機会が多くなった」「スポーツや運動を意識的に行うようになった」の割合が上昇しており、運動が生活習慣となっている人では、運動やスポーツを止めるよりも、インドアスポーツや一人でも行える運動に移行するなど、意識的に運動に取り組んでいる状況が見られる。

自宅で運動を行う人では、「自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった」(46.6%)が施設や屋外で運動やスポーツを行った人より高い割合となっており、新型コロナウイルスの発生がインドアスポーツへの移行に影響していると思われる。

新型コロナウイルス感染症が運動・スポーツに及ぼした影響



新型コロナウイルス感染症が運動・スポーツに及ぼした影響

(%)

	サンプル数	自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった	スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛された	それまで実施していたスポーツや運動を止めてしまった	複数人で行うよりも単独でスポーツや運動をする機会が多くなった	スポーツや運動を意識的に行うようになった	オンラインを介したスポーツや運動を実施することが多くなった	クラブ活動や部活動が休止したため、実施出来なかった(または現在も活動出来ていない)	新たなスポーツや運動を行うようになった	その他	特に変化は感じられなかった	無回答	
今回全体	n=4851	17.4	12.5	9.8	9.3	6.5	5.0	3.7	3.1	3.5	42.4	8.2	
性別	男性	n=1986	13.1	12.6	10.7	11.4	7.6	1.5	5.0	3.4	3.0	45.2	7.1
	女性	n=2801	20.6	12.5	9.4	7.7	5.7	7.3	2.5	2.9	3.9	40.3	9.0
年代別	18～19歳	n=131	21.2	24.6	12.3	15.9	6.1	1.3	18.5	8.2	2.1	27.4	-
	20～29歳	n=437	23.4	8.4	15.3	9.2	10.6	6.5	8.9	4.0	2.7	43.3	0.4
	30～39歳	n=527	24.1	12.0	7.5	3.9	5.2	10.5	4.0	4.0	3.2	49.9	0.4
	40～49歳	n=948	18.0	10.7	13.3	15.0	8.3	5.8	4.8	3.1	1.8	43.7	2.8
	50～59歳	n=903	14.0	12.9	10.3	5.7	7.1	9.4	1.3	3.9	3.4	49.1	3.7
	60～69歳	n=764	13.6	16.1	8.6	11.5	5.5	1.1	2.0	2.1	4.2	39.1	10.4
	70歳以上	n=1089	16.8	11.8	6.3	7.4	4.2	-	1.9	1.6	5.2	35.4	23.0
障がいの有無別	ない	n=4428	18.0	13.1	10.4	9.5	6.6	5.1	3.8	3.2	15.2	13.0	6.9
	ある	n=293	9.3	8.3	2.4	6.8	4.0	3.4	2.5	0.6	10.5	4.8	19.9
運動頻度別	週に3日以上	n=1084	23.8	11.4	5.1	14.1	11.6	4.5	2.4	5.8	4.5	38.3	5.0
	週に1～2日	n=1096	22.6	23.4	9.1	11.0	9.5	7.7	4.6	4.1	3.8	29.8	4.3
	月に1～3日	n=726	18.5	13.4	13.7	12.3	9.0	4.2	6.1	4.2	3.4	37.7	3.7
	3か月に1～2日	n=373	23.0	11.3	16.3	8.9	2.4	8.4	3.9	0.7	2.9	38.7	6.2
	年に1～3日程度	n=371	15.3	13.0	18.7	10.2	3.6	6.4	4.6	1.4	4.6	43.6	4.4
	まったく行わなかった	n=1145	4.7	3.0	7.0	1.4	-	1.9	2.2	0.2	2.1	63.0	18.3
運動やスポーツを行った場所	公共スポーツ施設	n=483	13.1	43.7	11.7	11.2	6.8	4.3	8.6	5.8	1.7	24.9	2.4
	民間スポーツ施設	n=525	14.9	21.4	10.5	8.0	18.7	1.9	3.2	9.2	5.3	32.7	2.6
	学校施設	n=194	8.2	21.4	12.8	10.2	5.0	6.4	29.8	1.9	2.3	27.0	2.8
	公園や広場	n=994	22.1	7.7	11.6	16.5	9.3	6.6	0.4	3.6	3.8	42.0	4.8
	自宅	n=795	46.6	6.1	8.6	8.3	3.5	10.4	1.0	1.4	3.5	29.4	4.6
	その他	n=654	8.9	10.1	8.9	11.3	6.3	4.3	3.0	3.3	5.6	54.0	4.7
	行っていない	n=885	3.5	2.0	8.2	1.7	0.8	1.9	2.5	-	2.0	66.8	14.3

(注) 属性ごとに、全体(平均)よりも高い数値に薄い青色、最も高い数値に青色を付している。

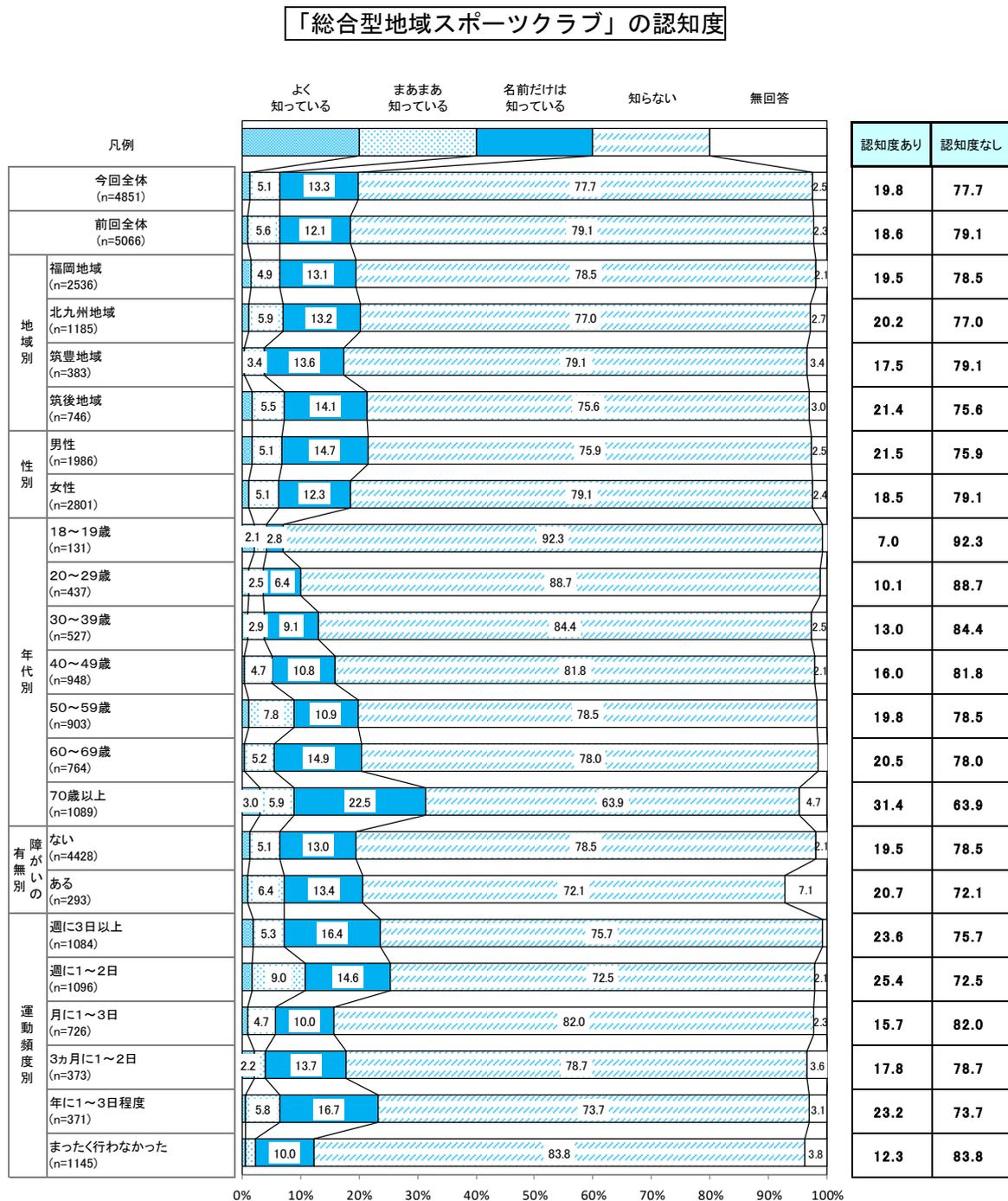
3. 総合型地域スポーツクラブについて

(1) 「総合型地域スポーツクラブ」の認知度

『知っている』（「よく知っている」1.4%、「まあまあ知っている」5.1%、「名前だけは知っている」13.3%）が19.8%で、「知らない」（77.7%）が約8割を占めている。

『知っている』の割合は前回とほぼ同率で、依然として認知度は低い。

運動頻度別では、週3日以上、週1～2日以上、運動やスポーツを行っている人の『知っている』の割合が2割を超えており、運動頻度が高いほど認知度も高い傾向がある。



(2) 「総合型地域スポーツクラブ」の加入意向

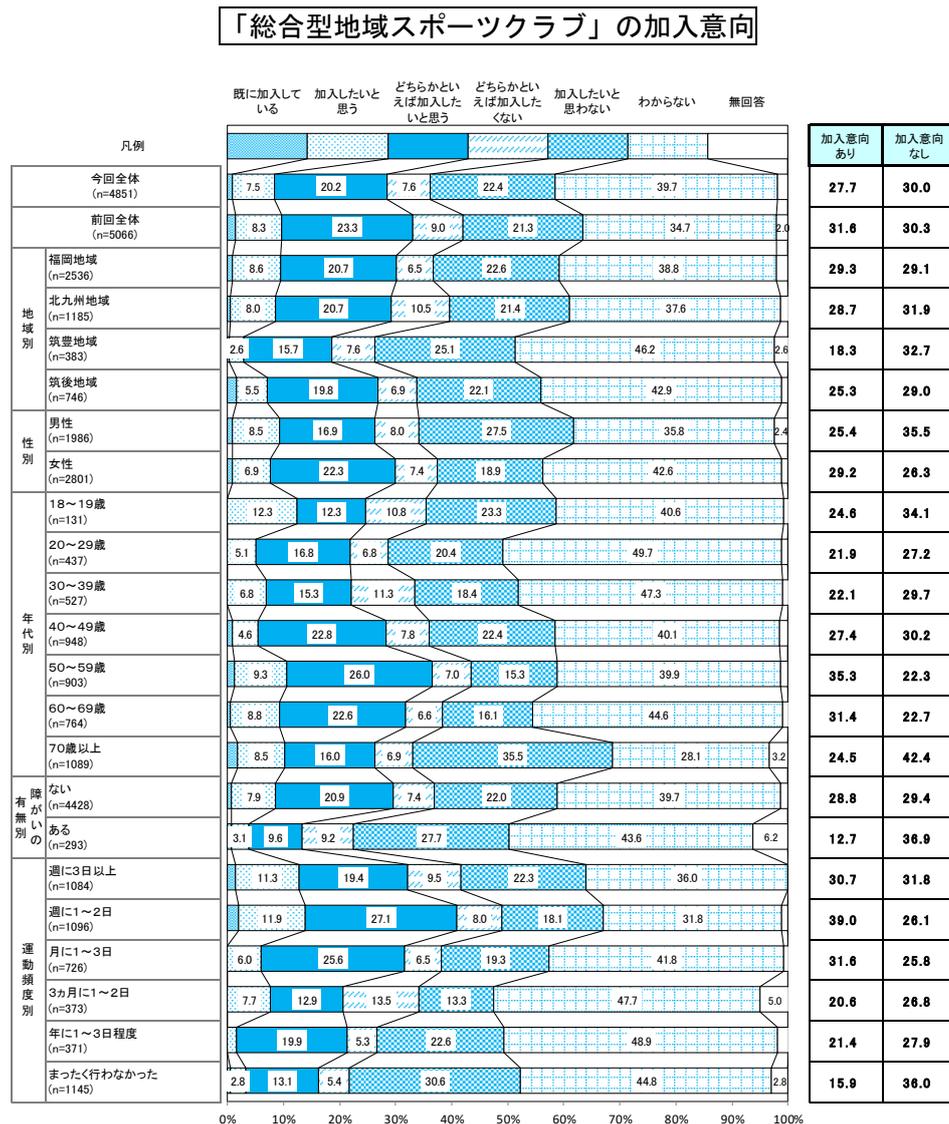
『加入意向あり』（「加入したいと思う」7.5%、「どちらかといえば加入したいと思う」20.2%）が27.7%、『加入意向なし』（「どちらかといえば加入したくない」7.6%、「加入したいと思わない」22.4%）が30.0%となっている。前回と比べて『加入意向あり』は3.9ポイント減少した。

地域別では、筑豊地域で『加入意向あり』を『加入意向なし』が14.4ポイント下回るなど、加入意向の低さが目立っている。

性別では、男性で『加入意向あり』が『加入意向なし』を10.1ポイント下回っており、女性に比べて加入に消極的である。

年代別では、『加入意向あり』が『加入意向なし』を上回っているのは50代、60代のみである。

障がいの有無別では、障がいのある人の『加入意向あり』（12.7%）は約1割で、障がいのない人の『加入意向あり』（28.8%）を大きく下回っている。

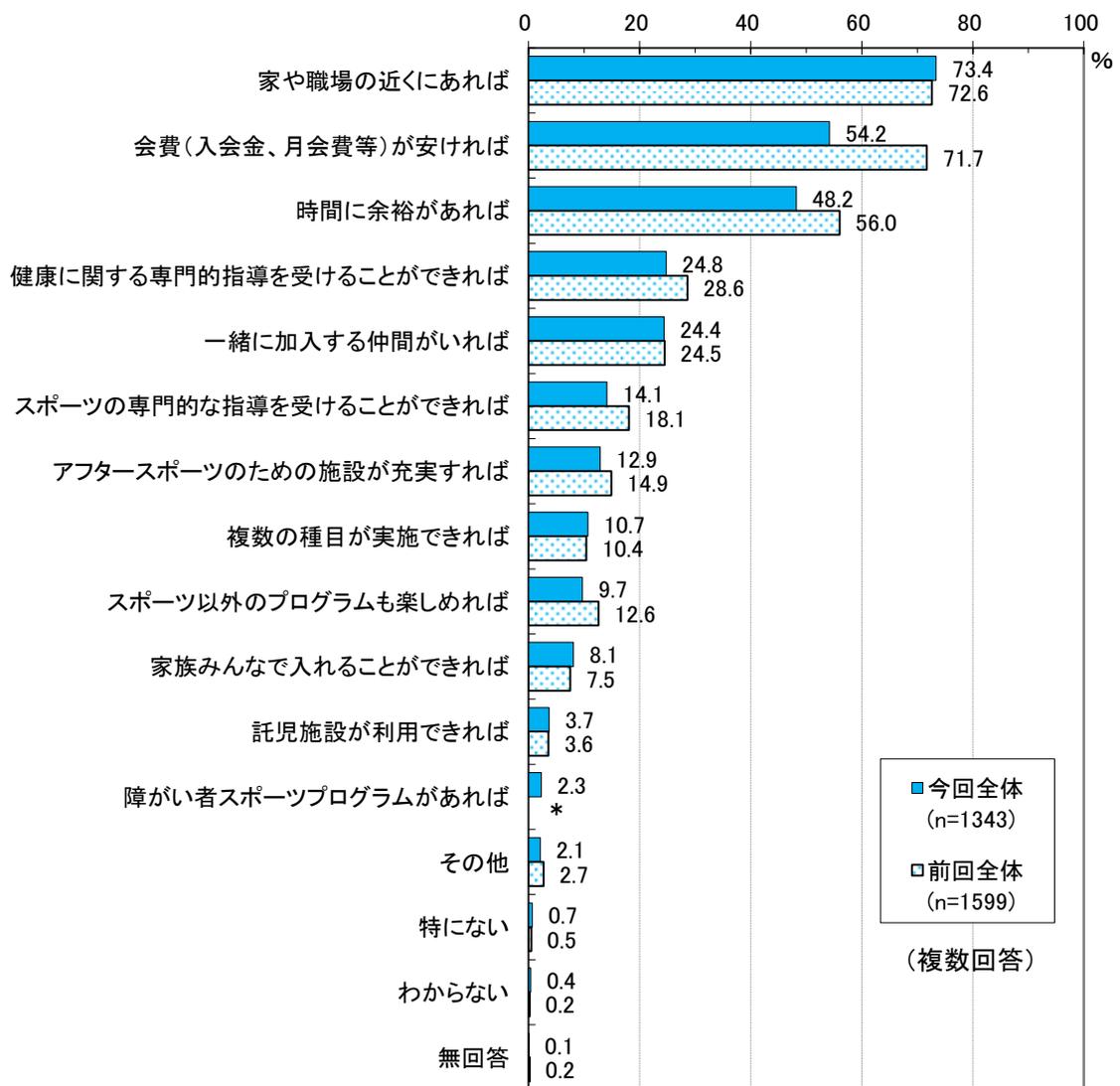


(3) (加入意向ありの人のみ)「総合型地域スポーツクラブ」の加入条件

「家や職場の近くにあれば」(73.4%)が最も高く、次いで、「会費(入会金、月会費等)が安ければ」(54.2%)、「時間に余裕があれば」(48.2%)、「健康に関する専門的指導を受けられることができれば」(24.8%)、「一緒に加入する仲間がいれば」(24.4%)となっている。

前回と比べると、「会費(入会金、月会費等)が安ければ」が17.5ポイント、「時間に余裕があれば」が7.8ポイント減少した。

(加入意向ありの人のみ)「総合型地域スポーツクラブ」の加入条件



(注) * 「障がい者スポーツプログラムがあれば」は今回追加した項目

4. 運動部活動について

(1) 学生時代の運動部活動やスポーツクラブ、体育会系のサークル等の活動有無

「中学校時代に活動していた」(59.3%) が最も多く、次いで「高校時代に活動していた」(36.1%)、「小学校時代に活動していた」(33.5%) となっている。

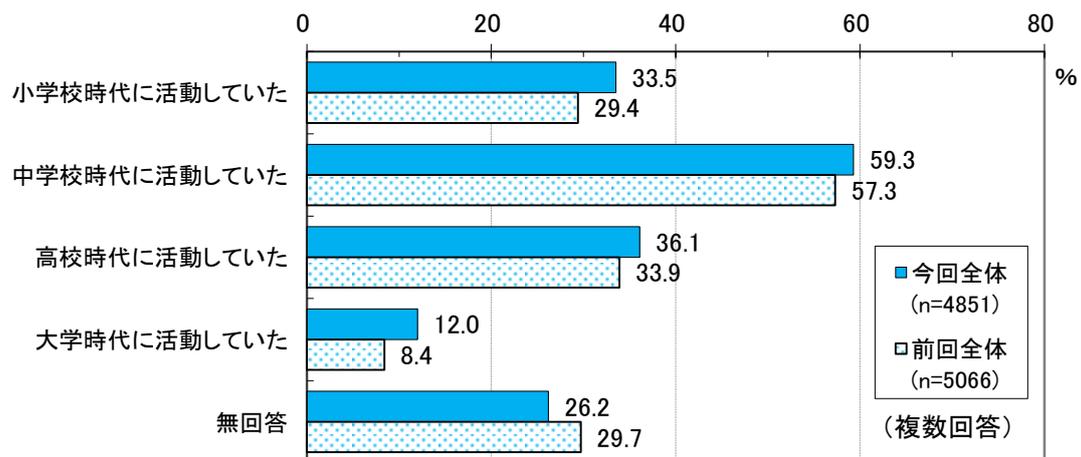
前回と比べても大きな違いはない。

性別では、男性の学生時代の運動部活動の割合は、いずれの時代も女性を上回っている。

年代別では、若い年代ほど学生時代の運動部活動の割合が高い傾向があり、小学校時代の運動部活動の割合は50歳未満で5割を大きく超えているが、50代以上は大幅に低くなっている。20代では「大学時代に活動していた」の割合が22.2%あり、比較的最近まで運動部活動を行っていた人が2割を超えている。

運動頻度別では、何らかの運動を行っている人の方が、まったく行わなかった人より運動部活動を行っていた割合が高い。

学生時代の運動部活動やスポーツクラブ、体育会系のサークル等の活動有無



学生時代の運動部活動やスポーツクラブ、体育会系のサークル等の活動有無

(%)

		サン プル 数	活小 動学 し校 て時 い代 たに	活中 動学 し校 て時 い代 たに	活高 動校 し時 て代 いに た	活大 動学 し時 て代 いに た	無 回 答
今回全体		n=4851	33.5	59.3	36.1	12.0	26.2
前回全体		n=5066	29.4	57.3	33.9	8.4	29.7
地域別	福岡地域	n=2536	33.3	59.7	36.3	13.5	25.7
	北九州地域	n=1185	36.0	56.3	34.2	10.9	27.1
	筑豊地域	n=383	25.8	51.4	33.4	6.3	35.0
	筑後地域	n=746	34.1	66.6	40.1	11.5	21.7
性別	男性	n=1986	40.1	68.3	49.8	17.9	16.4
	女性	n=2801	29.0	52.6	26.2	7.9	33.3
年代別	18～19歳	n=131	63.6	73.2	49.8	15.1	16.6
	20～29歳	n=437	52.8	65.2	47.4	22.2	18.4
	30～39歳	n=527	52.4	59.2	33.1	14.4	21.1
	40～49歳	n=948	53.6	69.2	41.5	15.1	18.5
	50～59歳	n=903	33.5	63.5	35.1	12.4	22.6
	60～69歳	n=764	17.5	61.8	30.0	8.0	25.9
	70歳以上	n=1089	7.5	40.5	31.4	6.8	43.1
障がいの有無別	ない	n=4428	34.7	59.9	36.3	12.4	25.5
	ある	n=293	22.2	49.3	35.2	8.6	36.1
運動頻度別	週に3日以上	n=1084	28.3	57.3	36.3	13.7	27.8
	週に1～2日	n=1096	37.1	62.5	38.1	11.2	24.7
	月に1～3日	n=726	36.8	62.8	41.9	14.9	21.8
	3か月に1～2日	n=373	43.4	63.7	46.3	18.1	15.7
	年に1～3日程度	n=371	46.0	64.9	38.8	12.7	17.9
	まったく行わなかった	n=1145	26.7	53.5	25.6	7.5	35.4
よりために運動部活動に必要な活動とする	学校と保護者との連携	n=1898	34.0	62.9	38.0	12.2	23.3
	学校と地域との連携	n=1838	33.9	62.8	39.6	12.9	23.0
	指導力向上のための研修	n=1516	35.5	66.2	40.6	14.9	21.2
	健康・体づくりを目指した部活動の設置	n=1484	31.5	59.1	37.4	9.6	26.4
	活動日を選択できる部活動の設置	n=1284	37.9	62.6	37.2	11.8	21.5
	複数の種目を実施できる部活動	n=685	44.7	68.2	41.0	17.1	17.3
	施設等の活動場所の確保	n=1679	39.0	60.0	39.0	13.7	22.9

(注)属性ごとに、全体(平均)よりも高い数値に薄い青色、最も高い数値に青色を付している。

(2) 運動部活動の指導を誰が行うべきか

「スポーツクラブや地域の指導者」(43.6%)が最も高く、次いで「学校の教職員とスポーツクラブや地域の指導者の両方」(41.5%)、「学校の教職員」(6.6%)となっている。

前回に比べると、「学校の教職員とスポーツクラブや地域の指導者の両方」を「スポーツクラブや地域の指導者」が上回り、「学校の教職員」の割合も低下している。

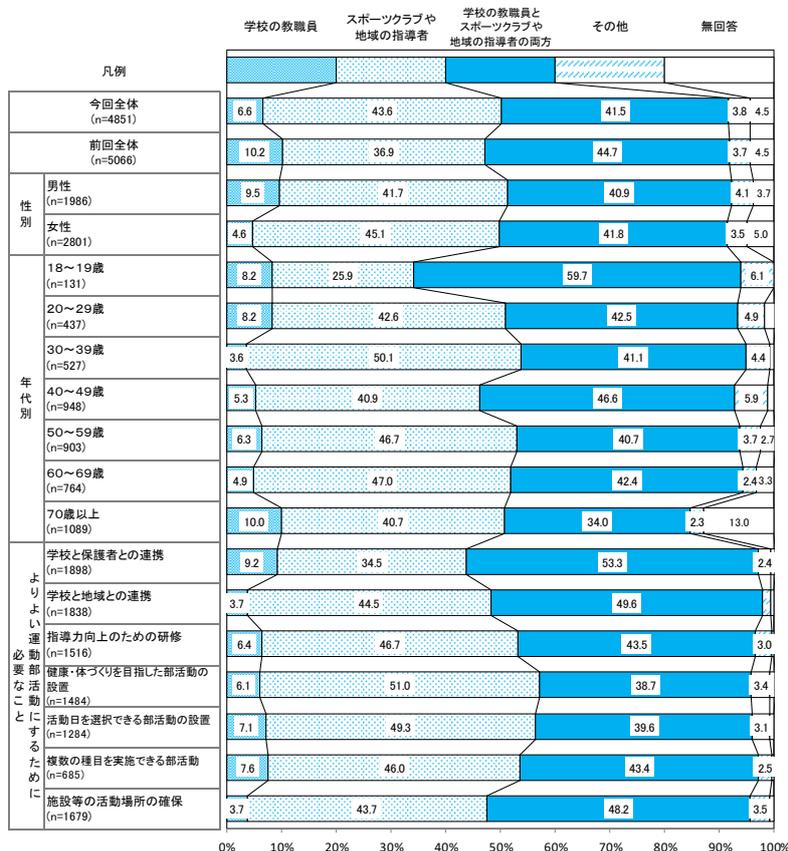
性別では、男女とも「スポーツクラブや地域の指導者」が最も高く、特に女性で「スポーツクラブや地域の指導者」の割合が高い。

年代別では、18～19歳では「学校の教職員とスポーツクラブや地域の指導者の両方」(59.7%)が約6割を占め、「スポーツクラブや地域の指導者」(25.9%)を大きく上回っている。30代では5割が「スポーツクラブや地域の指導者」(50.1%)が指導するべきだと考えている。

よりよい運動部活動に必要なことで、学校と保護者の連携、学校と地域の連携、施設等の活動場所の確保など、保護者や地域との連携、活動場所の確保をあげた人は「学校の教職員とスポーツクラブや地域の指導者の両方」の割合が高い。

指導力向上のための研修、健康・体づくりを目指した部活動の設置、活動日を選択できる部活動の設置、複数の種目を実施できる部活動など、運動活動のレベルや活動の幅を広げる内容をあげた人は「スポーツクラブや地域の指導者」の割合が高い。

運動部活動の指導を誰が行うべきか



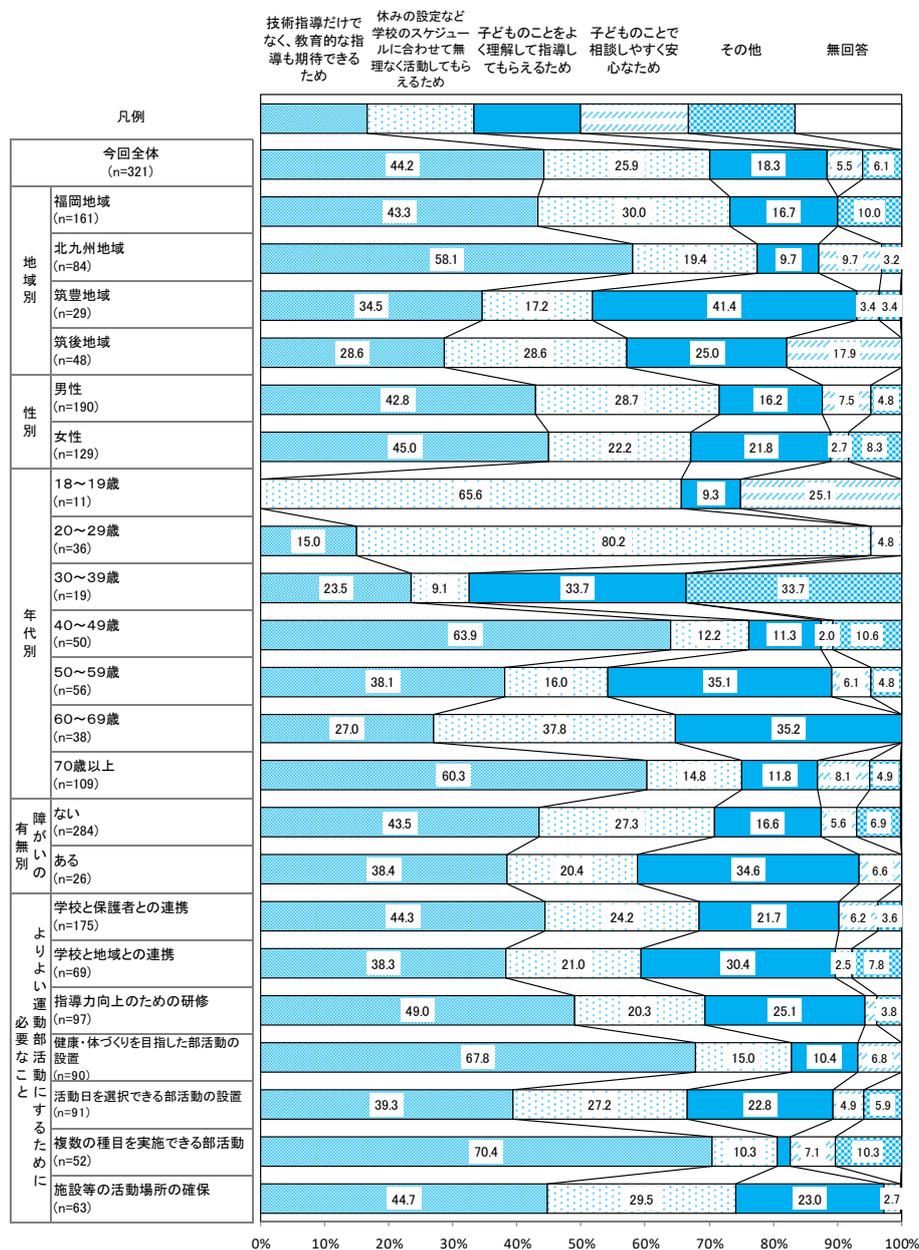
(3) (学校の教職員回答者) 運動部活動の指導は学校の教職員が行うべきと思う理由

「技術指導だけでなく、教育的な指導も期待できるため」(44.2%) が最も高く、次いで「休みの設定など学校のスケジュールに合わせて無理なく活動してもらえるため」(25.9%)、「子どものことをよく理解して指導してもらえるため」(18.3%)、「子どものことで相談しやすく安心なため」(5.5%) となっている。

性別では、男女とも「技術指導だけでなく、教育的な指導も期待できるため」の割合が高い。

よりよい運動部活動にするために必要なことでは、全ての項目で「技術指導だけでなく、教育的な指導も期待できるため」の割合が高い。

(学校の教職員回答者) 運動部活動の指導は学校の教職員が行うべきと思う理由



(4) (学校の教職員以外) 運動部活動の指導に学校の教職員以外の地域の指導者が必要と思う理由

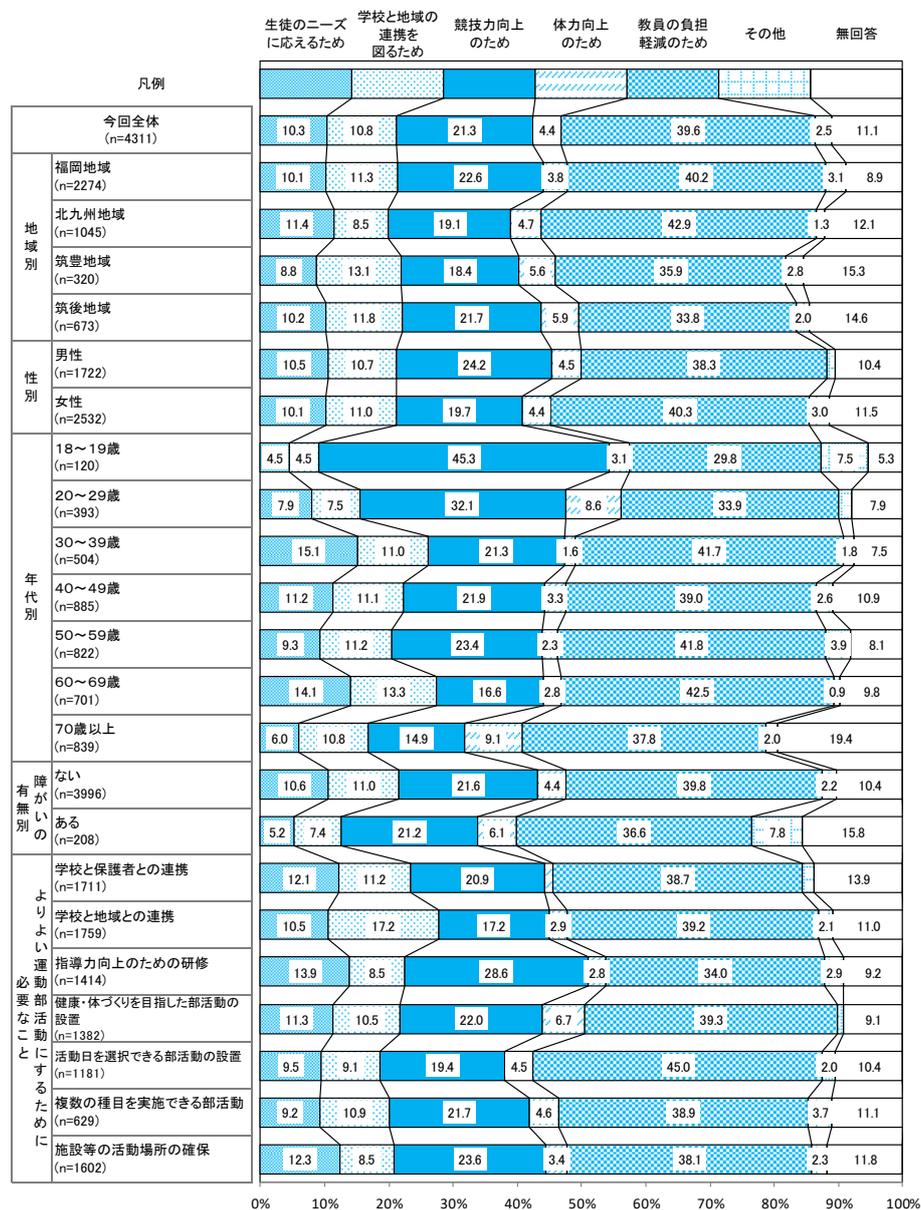
「教員の負担軽減のため」(39.6%)が最も高い。次いで「競技力向上のため」(21.3%)、「学校と地域の連携を図るため」(10.8%)、「生徒のニーズに応えるため」(10.3%)、「体力向上のため」(4.4%)となっている。

性別では、相対的に見て男性で「競技力向上のため」(24.2%)の割合が高い。

年代別では、若い年代ほど「競技力向上のため」の割合が高い傾向があり、18～19歳では「競技力向上のため」が45.3%を占めている。

よりよい運動部活動にするために必要なことでは、全ての項目で「教員の負担軽減のため」の割合が高い。

(学校の教職員以外) 運動部活動の指導に学校の教職員以外の地域の指導者が必要と思う理由



(5) よりよい運動部活動に必要なこと

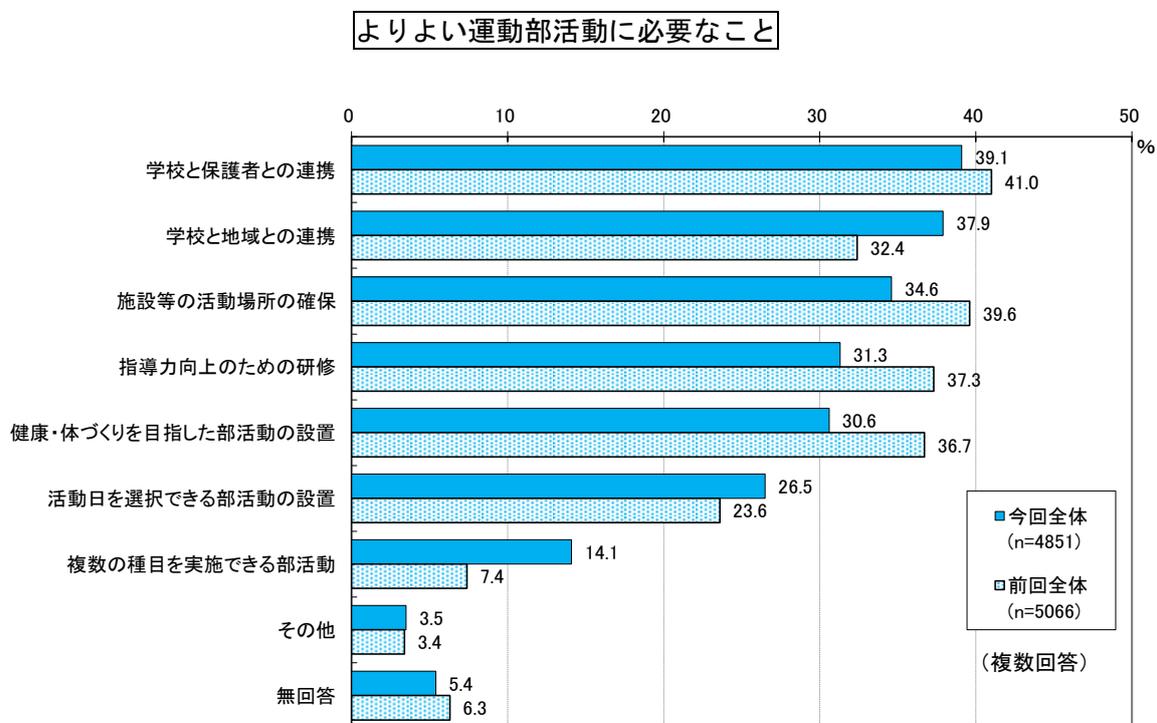
「学校と保護者との連携」(39.1%)が最も高く、次いで「学校と地域との連携」(37.9%)、「施設等の活動場所の確保」(34.6%)、「指導力向上のための研修」(31.3%)、「健康・体づくりを目指した部活動の設置」(30.6%)となっている。

性別では、男性は「学校と地域との連携」(40.5%)が最も高く、女性は「学校と保護者との連携」(40.2%)が最も高い。

年代別では、20代で「活動日を選択できる部活動の設置」(34.7%)、30代で「施設等の活動場所の確保」(42.8%)、「学校と地域との連携」(42.5%)、「複数の種目を実施できる部活動」(22.0%)、50代で「学校と保護者との連携」(45.7%)、「指導力向上のための研修」(37.4%)、70歳以上で「健康・体づくりを目指した部活動の設置」(34.6%)の割合が高い。

運動頻度別では、運動頻度が多いほど「健康・体づくりを目指した部活動の設置」の割合が高い傾向がある。

運動部活動の指導を誰が行うべきかでは、学校の教職員を望む人で「学校と保護者との連携」(54.5%)の割合が高い。スポーツクラブや地域の指導者を望む人では「健康・体づくりを目指した部活動の設置」(35.8%)、「指導力向上のための研修」(33.5%)、「活動日を選択できる部活動の設置」(30.0%)が、学校の教職員とスポーツクラブや地域の指導者の両方を望む人では「学校と地域との連携」(45.3%)、「施設等の活動場所の確保」(40.3%)の割合が高い。



(注)「学校と保護者との連携」は前回「保護者との連携」、「学校と地域との連携」は前回「地域との連携」、「複数の種目を実施できる部活動」は前回「シーズン制等による複数種目実施の部活動の設置」と表現が違うが、参考までに前回数値を掲載している。

よりよい運動部活動に必要なこと

(%)

	サンプル数	学校と保護者との連携	学校と地域との連携	施設等の活動場所の確保	指導力向上のための研修	健康・体づくりを旨とした部活動の設置	部活動の日を選択できる	複数の種目を実施できる	その他	無回答	
今回全体	n=4851	39.1	37.9	34.6	31.3	30.6	26.5	14.1	3.5	5.4	
前回全体	n=5066	41.0	32.4	39.6	37.3	36.7	23.6	7.4	3.4	6.3	
地域別	福岡地域	n=2536	37.1	36.3	38.0	32.3	29.5	26.8	14.1	3.4	4.9
	北九州地域	n=1185	44.0	43.1	30.3	31.0	32.6	27.6	14.1	3.2	4.8
	筑豊地域	n=383	42.8	37.3	32.9	29.8	32.4	21.4	14.1	3.9	10.2
	筑後地域	n=746	36.4	35.5	30.9	29.0	30.2	26.3	14.1	3.9	5.8
性別	男性	n=1986	37.2	40.5	32.8	31.1	29.8	24.8	15.1	2.9	4.3
	女性	n=2801	40.2	36.3	36.1	31.2	31.2	27.9	13.2	3.9	6.2
年代別	18～19歳	n=131	33.6	22.0	35.7	15.1	28.2	25.3	10.3	10.2	-
	20～29歳	n=437	44.8	37.9	41.5	31.5	32.0	34.7	15.5	1.6	2.6
	30～39歳	n=527	35.0	42.5	42.8	30.8	30.3	28.8	22.0	3.6	1.2
	40～49歳	n=948	36.5	37.9	40.5	33.8	25.8	31.1	18.3	5.6	1.8
	50～59歳	n=903	45.7	40.4	35.1	37.4	28.5	24.6	11.1	4.3	2.7
	60～69歳	n=764	43.8	37.8	30.5	32.7	33.3	26.7	12.3	3.2	3.9
	70歳以上	n=1089	32.1	36.2	25.5	24.6	34.6	19.9	9.9	1.2	15.7
運動頻度別	週に3日以上	n=1084	38.4	33.0	36.4	35.9	33.2	19.8	11.1	2.8	6.4
	週に1～2日	n=1096	37.2	39.0	32.6	33.1	32.2	27.0	12.7	3.0	5.4
	月に1～3日	n=726	42.9	43.0	38.7	28.8	28.9	25.3	20.0	3.8	2.7
	3か月に1～2日	n=373	46.7	45.4	47.1	36.3	27.2	37.6	24.5	0.5	0.7
	年に1～3日程度	n=371	36.4	41.6	40.0	28.6	31.6	32.4	14.8	5.0	1.7
	まったく行わなかった	n=1145	37.6	33.5	27.3	26.7	28.2	27.6	11.4	4.9	8.4
運動中の有無	加入していなかった(いない)	n=183	26.8	35.6	28.3	21.8	42.3	27.3	15.6	2.0	3.0
	加入していた(いる)	n=3046	41.5	40.2	35.3	34.8	30.7	27.9	16.0	3.3	2.4
がの運 か行指 う導部 べを活 き誰動	学校の教職員	n=321	54.5	21.4	19.6	30.3	28.0	28.4	16.2	1.4	2.7
	スポーツクラブや地域の指導者	n=2114	31.0	38.7	34.7	33.5	35.8	30.0	14.9	3.6	1.1
	学校の教職員とスポーツクラブや地域の指導者の両方	n=2012	50.3	45.3	40.3	32.8	28.5	25.3	14.8	1.9	1.4
員導運 がは動 うは学 う部 べの校 き活 の動 と教の 職指	技術指導だけでなく、教育的指導も期待できるため	n=142	54.7	18.5	19.8	33.6	42.9	25.3	25.8	1.9	1.2
	学校のスケジュールに合わせて無理なく活動してもらえるため	n=83	51.0	17.3	22.3	23.8	16.2	29.9	6.4	-	-
	子どものことをよく理解して指導してもらえるため	n=59	64.6	35.4	24.6	41.6	15.9	35.4	1.7	-	2.9
	子どものことで相談しやすく安心なため	n=18	61.1	9.7	9.7	9.7	34.7	25.1	20.9	9.7	-
地学運 域校動 との部 指教活 う導職 理者の 由が指 必外導 要のに	生徒のニーズに応えるため	n=446	46.4	41.5	44.1	44.0	35.1	25.1	13.0	1.6	0.6
	学校と地域との連携を図るため	n=467	41.0	64.9	29.2	25.8	31.2	23.1	14.6	2.1	1.0
	競技力向上のため	n=919	38.9	32.8	41.2	44.1	33.1	25.0	14.8	2.5	0.7
	体力向上のため	n=192	12.5	26.2	28.5	21.0	48.2	27.9	14.9	0.9	1.4
	教員の負担軽減のため	n=1705	38.8	40.4	35.8	28.2	31.9	31.2	14.3	3.5	0.8

(注)属性ごとに、全体(平均)よりも高い数値に薄青色、最も高い数値に青色を付している。

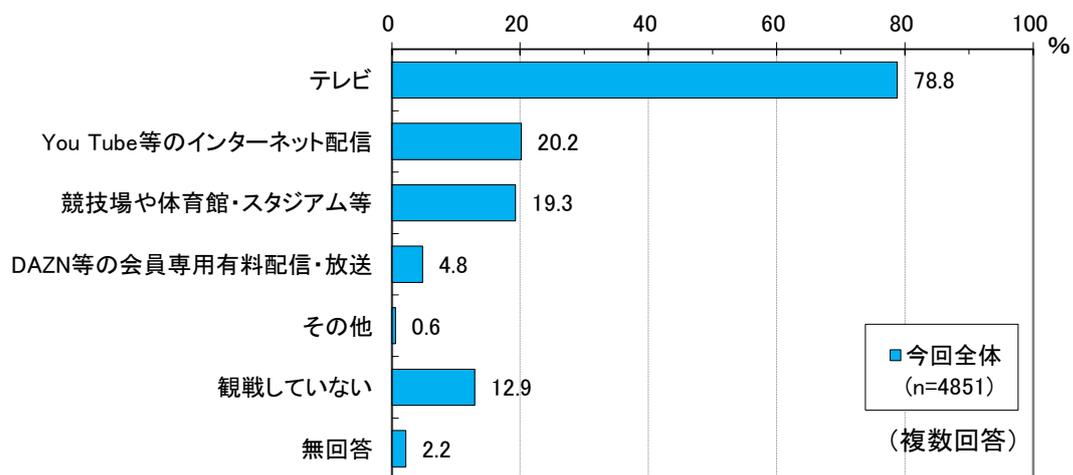
5. スポーツの観戦や情報について

(1) この1年間にスポーツ観戦をした内容

「テレビ」(78.8%)が圧倒的に高く、「You Tube等のインターネット配信」(20.2%)、「競技場や体育館・スタジアム等」(19.3%)、「DAZN等の会員専用有料配信・放送」(4.8%)となっており、「観戦していない」が12.9%である。

年代別では、いずれの年代でも「テレビ」が6割を超えているが、「テレビ」は年代が高くなるほど割合が上昇しており、50歳以上の年代で8割を超えている。「You Tube等のインターネット配信」は若い年代ほど高く、18～19歳、20代で3割を超えている。20代では他の年代の中で「観戦していない」(21.5%)の割合が最も高い。

この1年間にスポーツ観戦をした内容



この1年間にスポーツ観戦をした内容

		サンプル数	テレビ	You Tube等のインターネット配信等の	競技場や体育館・スタジアム等の	DAZN等の会員専用有料配信・放送	その他	観戦していない	無回答
今回全体		n=4851	78.8	20.2	19.3	4.8	0.6	12.9	2.2
性別	男性	n=1986	80.5	29.2	21.5	6.0	0.6	10.1	1.7
	女性	n=2801	77.7	13.9	17.9	4.2	0.5	14.7	2.5
年代別	18～19歳	n=131	65.0	34.4	22.6	4.8	-	16.5	4.1
	20～29歳	n=437	65.1	34.0	20.8	10.6	-	21.5	0.6
	30～39歳	n=527	72.5	24.2	14.7	3.2	-	18.9	0.8
	40～49歳	n=948	77.1	29.6	25.1	5.7	0.7	14.1	1.2
	50～59歳	n=903	80.0	17.7	23.5	7.5	0.6	10.5	2.7
	60～69歳	n=764	80.4	18.8	17.6	3.4	0.7	11.7	2.6
	70歳以上	n=1089	88.6	6.2	13.6	1.6	0.9	7.3	3.3

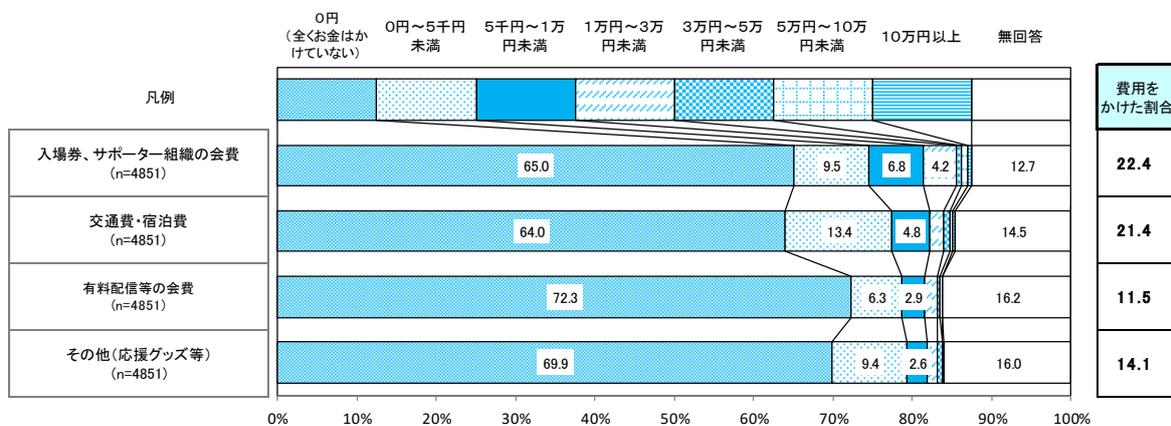
(注)属性ごとに、全体(平均)よりも高い数値に薄い青色、最も高い数値に青色を付している。

(2) スポーツ観戦のために1年間にかける費用（スタジアム等での飲食代は除く）

運動・スポーツを観戦するために1年間に何らかの費用（スタジアム等での飲食代は除く）を支出した割合は、『入場券、サポーター組織の会費』（22.4%）が最も高く、次いで『交通費・宿泊費』（21.4%）、『その他（応援グッズ等）』（14.1%）、『有料配信等の会費』（11.5%）、となっている。

支出した費用は、年間1万円未満の金額帯の割合が最も高く、『交通費・宿泊費』が18.2%、『入場券、サポーター組織の会費』が16.3%で、『その他（応援グッズ等）』（12.0%）、『有料配信等の会費』（9.2%）となっている。

スポーツ観戦のために1年間にかける費用（スタジアム等での飲食代は除く）



(3) スポーツに関する情報の収集方法

「テレビ・ラジオ」(78.4%)が最も高く、次いで「インターネット」(50.1%)、「新聞・雑誌」(25.3%)、「家族、友人、知人等からの口コミ」(24.3%)、「SNS (Twitter、Instagram、Facebook など)」(19.1%)となっている。

性別では、相対的に見て男性で「テレビ・ラジオ」(80.8%)、「インターネット」(59.5%)、「新聞・雑誌」(30.5%)の割合が高く、女性で「家族、友人、知人等からの口コミ」(28.4%)、「SNS (Twitter、Instagram、Facebook など)」(21.8%)の割合が高いなど、女性は男性に比べて、身近なコミュニティから情報収集している割合が高い。

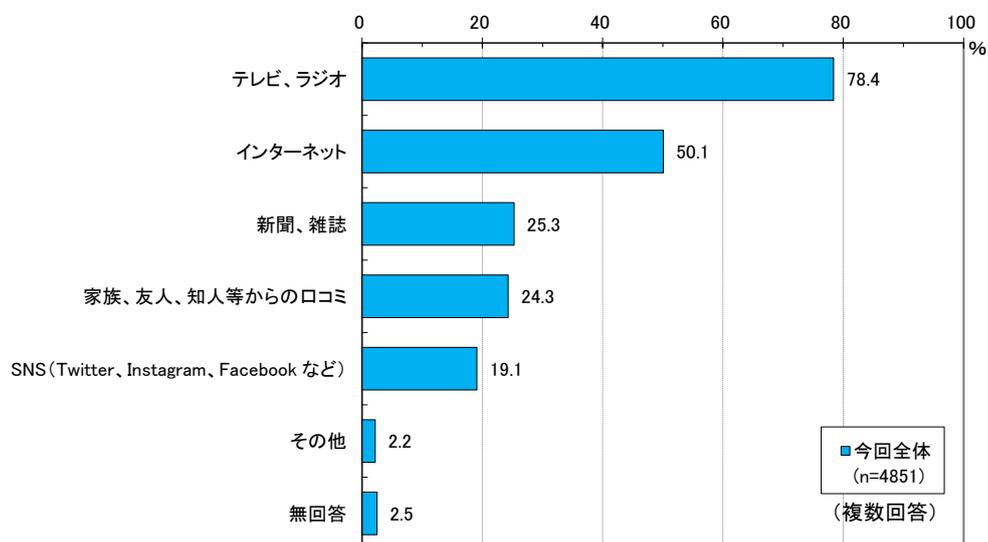
年代別では、年代が高くなるほど「テレビ・ラジオ」の割合が上昇しており、50歳以上の年代で8割を超えている。18～19歳、20代では50%以上が「インターネット」「SNS (Twitter、Instagram、Facebook など)」から情報収集しており、「テレビ・ラジオ」を上回っている。「SNS (Twitter、Instagram、Facebook など)」から情報収集している割合が高いのは40歳未満までで、40代では「SNS (Twitter、Instagram、Facebook など)」の割合が大きく低下し、「インターネット」(65.4%)の割合が最も高い。

障がいの有無別では、障がいのない人に比べて、障がいのある人で「新聞・雑誌」(31.5%)の割合が高い。

運動頻度別では、運動頻度が高いほど「テレビ・ラジオ」「新聞・雑誌」の割合が高い。

競技場や体育館・スタジアム等でスポーツ観戦をした人では「家族、友人、知人等からの口コミ」(42.5%)から情報収集している割合が、テレビでスポーツ観戦をした人では「テレビ・ラジオ」(88.0%)、「新聞・雑誌」(29.7%)から情報収集している割合が高い。DAZN等の会員専用有料配信・放送、YouTube等のインターネット配信でスポーツ観戦した人では「インターネット」「SNS (Twitter、Instagram、Facebook など)」から情報収集している割合が高い。

スポーツに関する情報の収集方法



スポーツに関する情報の収集方法

(%)

		サンプル数	テレビ、ラジオ	インターネット	新聞、雑誌	家族、友人、知人等からの口コミ	F I S N S (Twitter、Facebook、Instagramなど)	その他	無回答
今回全体		n=4851	78.4	50.1	25.3	24.3	19.1	2.2	2.5
地域別	福岡地域	n=2536	78.1	54.0	23.0	24.3	20.0	2.3	2.1
	北九州地域	n=1185	77.9	50.1	25.1	24.1	18.7	2.3	2.7
	筑豊地域	n=383	81.5	40.5	27.9	25.3	16.2	1.8	6.0
	筑後地域	n=746	79.0	41.7	32.0	24.2	18.2	2.1	1.8
性別	男性	n=1986	80.8	59.5	30.5	18.6	15.3	1.3	2.5
	女性	n=2801	76.8	43.9	21.5	28.4	21.8	2.9	2.5
年代別	18～19歳	n=131	58.3	62.8	8.2	33.0	62.3	6.1	-
	20～29歳	n=437	52.8	61.9	2.9	26.0	53.7	5.5	1.5
	30～39歳	n=527	72.5	59.5	2.9	26.4	41.2	3.6	2.6
	40～49歳	n=948	73.5	65.4	14.6	29.3	18.1	0.6	1.7
	50～59歳	n=903	81.8	63.6	22.2	23.2	16.1	2.1	2.7
	60～69歳	n=764	86.6	45.0	38.1	19.9	8.2	1.8	1.1
	70歳以上	n=1089	89.7	19.3	50.2	21.4	0.7	1.7	4.8
障がいの有無別	ない	n=4428	78.9	52.0	24.7	24.8	20.2	2.0	1.9
	ある	n=293	67.8	31.8	31.5	17.1	8.2	5.5	11.5
運動頻度別	週に3日以上	n=1084	82.4	45.0	34.0	24.4	18.8	1.7	0.8
	週に1～2日	n=1096	81.1	53.7	26.1	25.2	19.2	1.1	3.1
	月に1～3日	n=726	81.4	58.2	23.6	28.0	21.7	0.7	0.4
	3か月に1～2日	n=373	76.1	63.6	21.5	25.9	24.2	2.2	0.7
	年に1～3日程度	n=371	76.9	53.4	12.9	31.9	28.0	1.4	1.2
	まったく行わなかった	n=1145	71.1	41.2	21.0	18.5	14.0	5.0	5.6
この1年間にスポーツ観戦をした内容	競技場や体育館・スタジアム等	n=937	78.3	62.6	26.2	42.5	28.0	1.0	0.3
	テレビ	n=3820	88.0	51.8	29.7	25.0	19.2	0.5	0.7
	YouTube等のインターネット配信	n=981	72.3	83.7	18.2	28.3	36.2	0.7	0.2
	DAZN等の会員専用有料配信・放送	n=235	80.9	84.9	23.6	26.0	45.1	-	-
	観戦していない	n=627	49.1	37.1	8.5	18.4	15.0	12.4	4.8

(注)属性ごとに、全体(平均)よりも高い数値に薄い青色、最も高い数値に青色を付している。

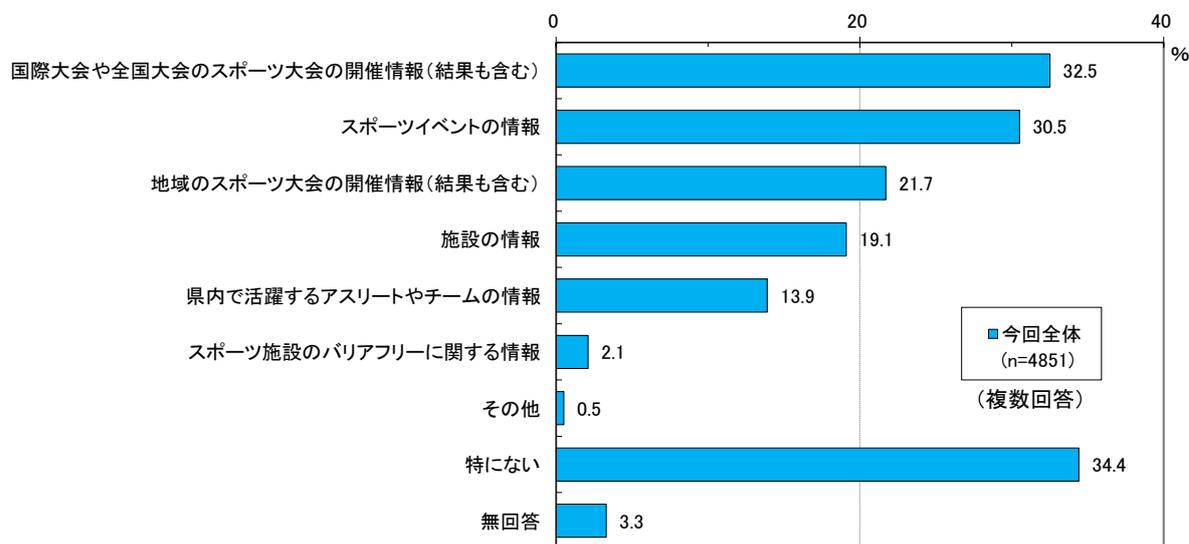
(4) 今後、収集して活用したいスポーツに関する情報

活用したいスポーツに関する情報では、「国際大会や全国大会のスポーツ大会の開催情報（結果も含む）」(32.5%)、「スポーツイベントの情報」(30.5%)が3割を超えている。次いで「地域のスポーツ大会の開催情報（結果も含む）」(21.7%)、「施設の情報」(19.1%)、「県内で活躍するアスリートやチームの情報」(13.9%)、「スポーツ施設のバリアフリーに関する情報」(2.1%)となっている。

年代別では、年代が高くなるほど「地域のスポーツ大会の開催情報（結果も含む）」の割合が上昇しており、70歳以上で29.8%とほぼ3割に達している。50代では他の年代の中で、「国際大会や全国大会のスポーツ大会の開催情報（結果も含む）」(37.3%)、「施設の情報」(24.2%)、「県内で活躍するアスリートやチームの情報」(17.4%)の割合が最も高い。

スポーツに関わる情報収集方法では、SNSで情報収集している人は、「国際大会や全国大会のスポーツ大会の開催情報（結果も含む）」「県内で活躍するアスリートやチームの情報」が、家族、友人、知人等からの口コミで情報収集している人は「スポーツイベントの情報」「施設の情報」が、新聞・雑誌で情報収集している人は「地域のスポーツ大会の開催情報（結果も含む）」の活用意向が高い。

今後、収集して活用したいスポーツに関する情報



今後、収集して活用したいスポーツに関する情報

(%)

		サンプル数	国際大会や全国大会の開催情報（結果も含む）	スポーツイベントの情報	地域のスポーツ大会の開催情報（結果も含む）	施設の情報	県内で活躍するアスリートやチームの情報	スポーツ施設のバリアフリーに関する情報	その他	特になし	無回答
今回全体		n=4851	32.5	30.5	21.7	19.1	13.9	2.1	0.5	34.4	3.3
地域別	福岡地域	n=2536	33.3	31.6	21.9	19.4	14.8	1.9	0.6	31.6	3.6
	北九州地域	n=1185	30.8	26.9	20.7	21.2	10.9	2.1	-	39.2	2.3
	筑豊地域	n=383	29.0	24.0	19.6	15.7	12.3	2.6	0.8	41.3	6.3
	筑後地域	n=746	34.1	35.5	23.3	16.6	16.4	2.5	0.9	32.7	2.5
性別	男性	n=1986	35.9	33.0	27.2	18.7	14.2	1.4	0.6	30.4	3.0
	女性	n=2801	30.5	28.9	17.9	19.3	14.0	2.5	0.5	36.7	3.6
年代別	18～19歳	n=131	27.4	21.8	6.2	4.9	2.1	-	-	49.4	-
	20～29歳	n=437	34.1	23.8	15.5	13.8	10.2	-	-	39.1	1.2
	30～39歳	n=527	31.8	28.7	16.5	16.3	15.1	2.4	0.5	39.2	1.5
	40～49歳	n=948	31.3	32.3	18.7	22.1	14.5	1.8	0.6	37.6	1.5
	50～59歳	n=903	37.3	33.5	23.4	24.2	17.4	4.0	0.6	28.2	3.3
	60～69歳	n=764	30.6	38.8	22.4	21.7	11.9	1.1	0.4	28.8	2.9
	70歳以上	n=1089	32.0	25.9	29.8	15.7	14.8	2.3	0.9	33.5	7.5
障がいの有無別	ない	n=4547	26.3	23.6	25.7	22.1	15.9	17.1	14.7	7.1	5.4
	ある	n=474	17.7	7.5	10.3	15.1	14.7	9.8	13.3	4.6	3.0
運動頻度別	週に3日以上	n=1084	35.1	31.1	22.9	19.7	18.8	2.4	0.2	33.9	2.7
	週に1～2日	n=1096	33.1	31.4	24.3	21.0	12.9	2.7	-	29.8	4.2
	月に1～3日	n=726	38.1	31.6	25.2	25.8	8.5	1.6	0.3	29.9	1.2
	3か月に1～2日	n=373	37.5	36.5	21.4	24.2	15.8	1.9	-	27.5	0.7
	年に1～3日程度	n=371	29.8	33.1	13.1	14.1	17.4	0.9	2.4	35.2	3.8
	まったく行わなかった	n=1145	25.1	24.7	17.6	12.9	12.2	1.9	1.2	44.6	4.7
情報の収集方法	テレビ、ラジオ	n=3805	36.3	32.4	23.4	20.4	15.1	2.3	0.5	31.1	1.9
	家族、友人、知人等からの口コミ	n=1179	38.4	39.6	25.8	24.7	17.8	3.2	0.5	27.4	2.2
	新聞、雑誌	n=1226	39.1	38.0	33.3	22.3	18.7	2.7	0.7	26.3	2.9
	インターネット	n=2430	40.6	38.6	23.6	24.1	16.2	2.3	0.4	26.3	0.6
	SNS	n=928	41.3	36.8	22.8	22.9	18.9	1.9	1.1	28.8	0.9

(注)属性ごとに、全体(平均)よりも高い数値に薄い青色、最も高い数値に青色を付している。

6. スポーツ指導者について

(1) スポーツを行う上で必要な指導者

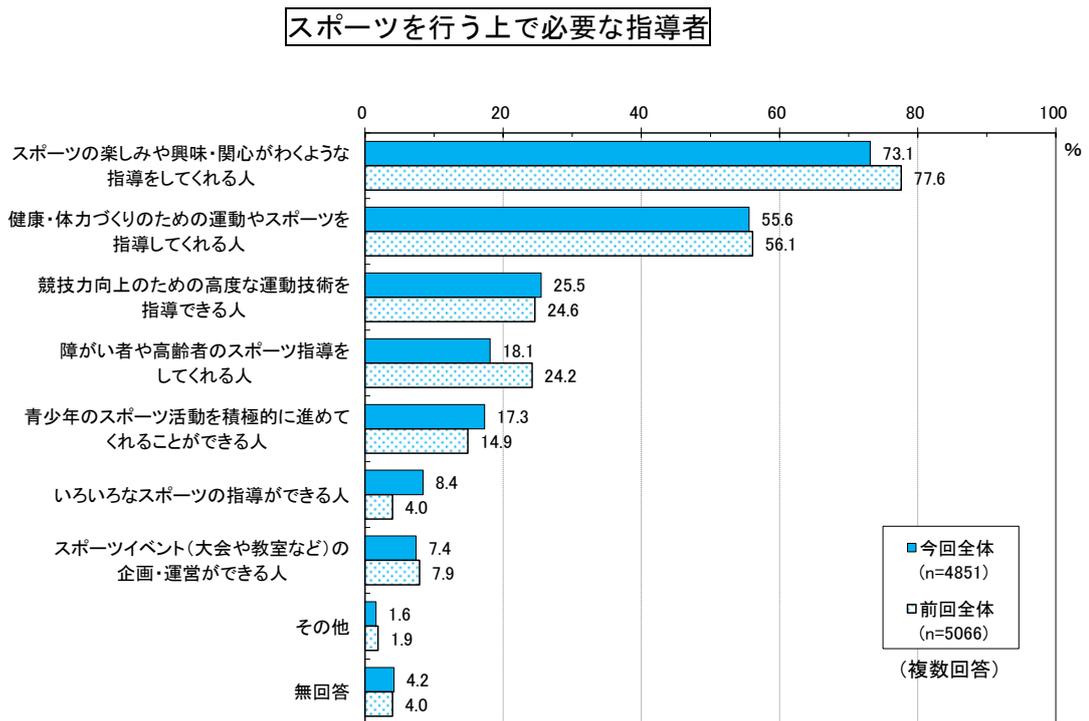
「スポーツの楽しみや興味・関心がわくような指導をしてくれる人」(73.1%)が最も高く、次いで「健康・体力づくりのための運動やスポーツを指導してくれる人」(55.6%)、「競技力向上のための高度な運動技術を指導できる人」(25.5%)となっている。

前回と比べても大きな違いはない。

年代別では、若い年代ほど「スポーツの楽しみや興味・関心がわくような指導をしてくれる人」「競技力向上のための高度な運動技術を指導できる人」「いろいろなスポーツの指導ができる人」の割合が高く、年代が高くなるほど「健康・体力づくりのための運動やスポーツを指導してくれる人」の割合が高くなる傾向がある。

障がいの有無別では、障がいのある人は障がいのない人に比べて「障がい者や高齢者のスポーツ指導をしてくれる人」(41.7%)の割合が高い。

運動頻度別では、運動頻度が高い人で「健康・体力づくりのための運動やスポーツを指導してくれる人」「競技力向上のための高度な運動技術を指導できる人」の割合が高い。



(注) 「いろいろなスポーツの指導ができる人」は前回「いろいろなニュースポーツの指導ができる人」と表現が違うが、参考までに前回数値を掲載している。

スポーツを行う上で必要な指導者

(%)

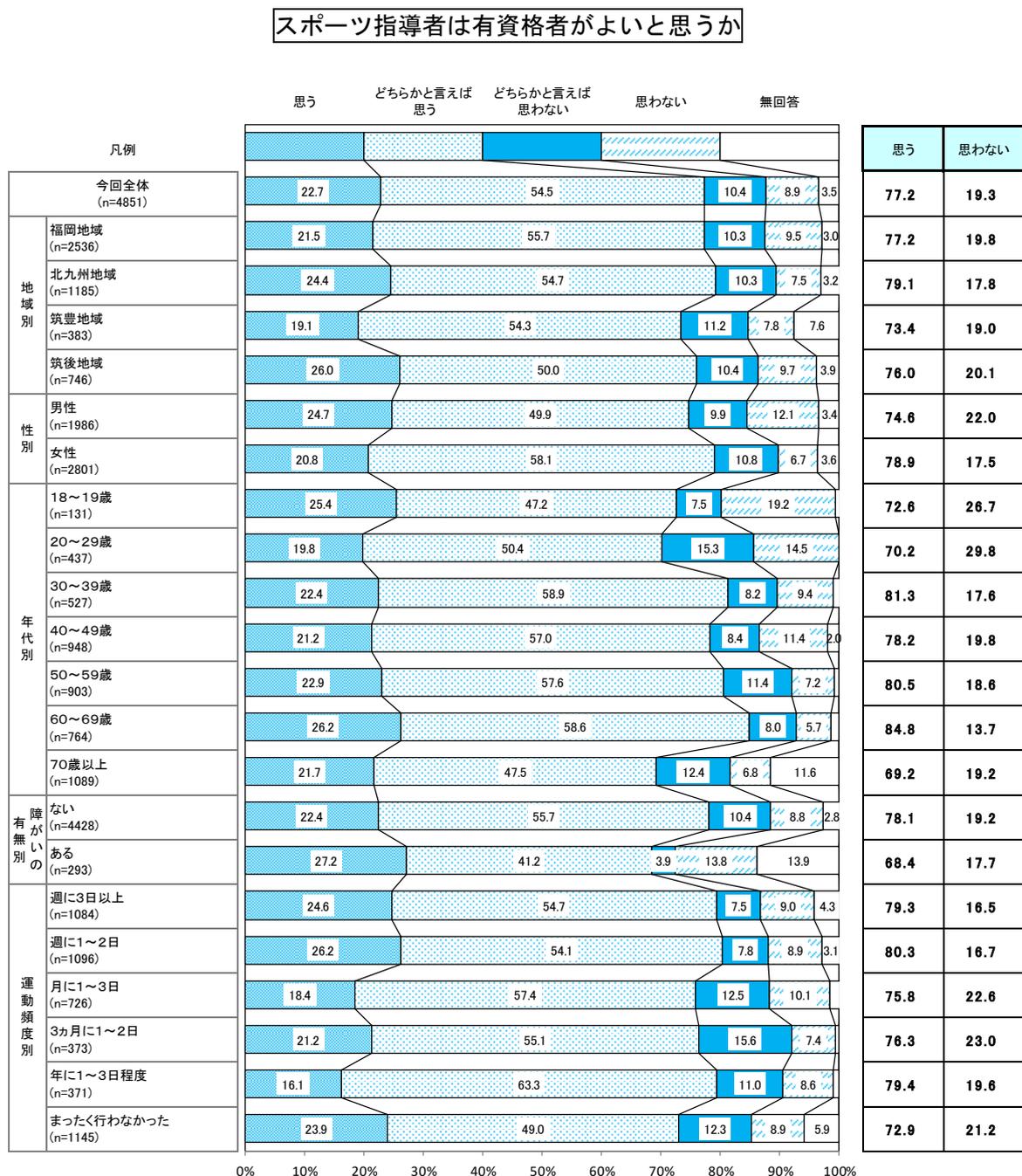
		サンプル数	わくスポーツの楽しみや興味・関心が	健康・体力づくりのための運動や	競技力向上のための高度な	障がい者や高齢者のスポーツ指導	進めてくれるスポーツ活動が積極的に	いろいろなスポーツの指導ができる人	スポーツイベント（大会や教室など）の企画・運営ができる人	その他	無回答
今回全体		n=4851	73.1	55.6	25.5	18.1	17.3	8.4	7.4	1.6	4.2
前回全体		n=5066	77.6	56.1	24.6	24.2	14.9	4.0	7.9	1.9	4.0
地域別	福岡地域	n=2536	74.7	56.8	27.2	17.5	17.1	7.6	7.6	1.5	3.4
	北九州地域	n=1185	70.8	55.1	25.3	18.5	16.9	9.3	8.4	1.8	4.3
	筑豊地域	n=383	66.6	50.9	20.4	18.5	14.6	8.4	6.3	2.3	8.6
	筑後地域	n=746	74.9	55.1	22.6	19.1	19.8	9.4	6.0	1.4	4.4
性別	男性	n=1986	70.0	50.4	30.4	15.7	21.5	9.1	6.7	1.9	4.1
	女性	n=2801	75.0	59.8	22.1	19.6	14.2	7.6	8.1	1.5	4.2
年代別	18～19歳	n=131	78.7	34.1	27.4	7.0	22.1	12.3	6.1	6.1	0.8
	20～29歳	n=437	83.3	39.2	42.7	11.2	14.3	10.6	5.8	0.4	0.6
	30～39歳	n=527	78.8	45.8	35.1	8.0	22.7	5.6	12.1	2.4	1.2
	40～49歳	n=948	80.3	51.4	30.2	12.0	22.8	9.9	12.7	0.7	1.9
	50～59歳	n=903	74.4	63.2	31.3	14.2	17.1	7.0	8.5	3.0	0.7
	60～69歳	n=764	72.6	67.3	17.1	25.2	13.3	7.4	6.6	1.1	2.3
	70歳以上	n=1089	58.0	59.2	10.8	30.2	13.7	8.1	1.5	1.3	13.7
障がいの有無別	ない	n=4428	74.4	56.8	26.3	16.5	17.5	8.2	8.1	1.4	3.4
	ある	n=293	53.2	43.1	10.8	41.7	16.8	5.4	1.5	3.0	15.5
運動頻度別	週に3日以上	n=1084	70.5	59.0	28.9	21.8	12.2	8.1	3.9	1.7	4.6
	週に1～2日	n=1096	76.7	61.9	27.2	19.7	14.2	5.5	6.5	1.2	3.9
	月に1～3日	n=726	76.2	53.2	27.4	11.2	22.6	12.1	8.0	2.4	1.5
	3か月に1～2日	n=373	84.0	58.8	28.1	8.1	28.4	6.0	12.2	0.3	-
	年に1～3日程度	n=371	80.7	49.1	27.4	7.7	21.8	11.1	16.3	1.4	0.9
	まったく行わなかった	n=1145	65.0	49.2	19.1	23.0	16.4	8.5	7.3	2.0	7.6

(注)属性ごとに、全体(平均)よりも高い数値に薄い青色、最も高い数値に青色を付している。

(2) スポーツ指導者は有資格者がよいと思うか

スポーツの指導者は『有資格者がよい』(「思う」22.7%、「どちらかと言えば思う」54.5%)が77.2%、『有資格者がよいと思わない』(「どちらかと言えば思わない」10.4%、「思わない」8.9%)が19.3%で、約8割がスポーツの指導者は有資格者がよいと考えている。

年代別では、18～19歳、20代で、『有資格者がよいと思わない』の割合が高く、25%を超えている。

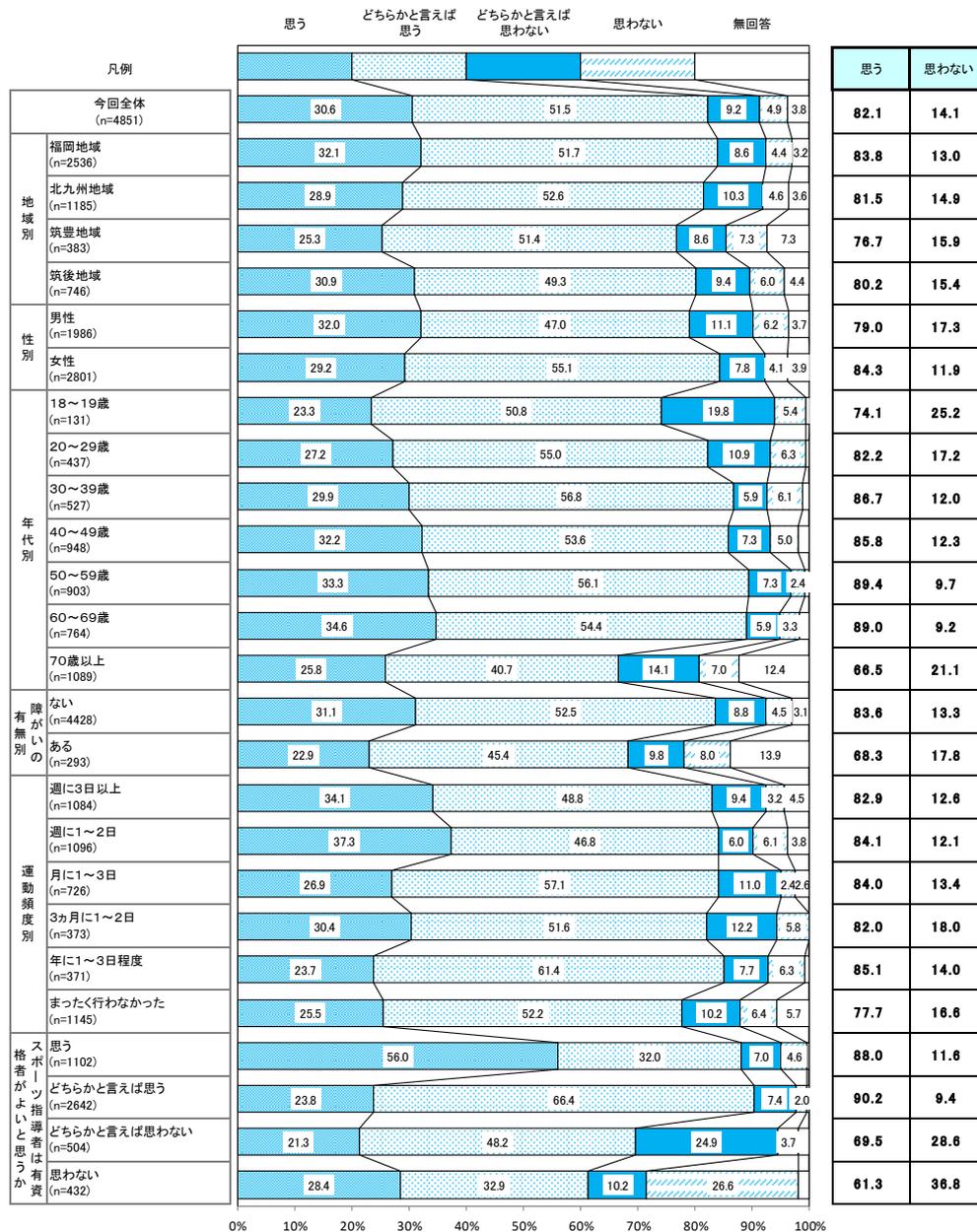


(3) 指導者に支払われる対価（謝金、給与等）の受益者負担について

スポーツの指導者に対する対価（謝金、礼金）を受益者が『支払うべき』（「思う」30.6%、「どちらかと言えば思う」51.5%）が82.1%、『支払うべきとは思わない』（「どちらかと言えば思わない」9.2%、「思わない」4.9%）が14.1%で、スポーツの指導者に対する対価（謝金、礼金）を受益者が支払うべきが8割を超えている。

性別では、受益者が『支払うべき』の割合は女性（84.3%）が男性を5.3ポイント上回っている。年代別では、18～19歳と70歳以上の両端で、受益者が『支払うべきとは思わない』が2割を超えており、他の年代に比べて受益者負担について否定的な考えを持つ人の割合が高い。

指導者に支払われる対価（謝金、給与等）の受益者負担について



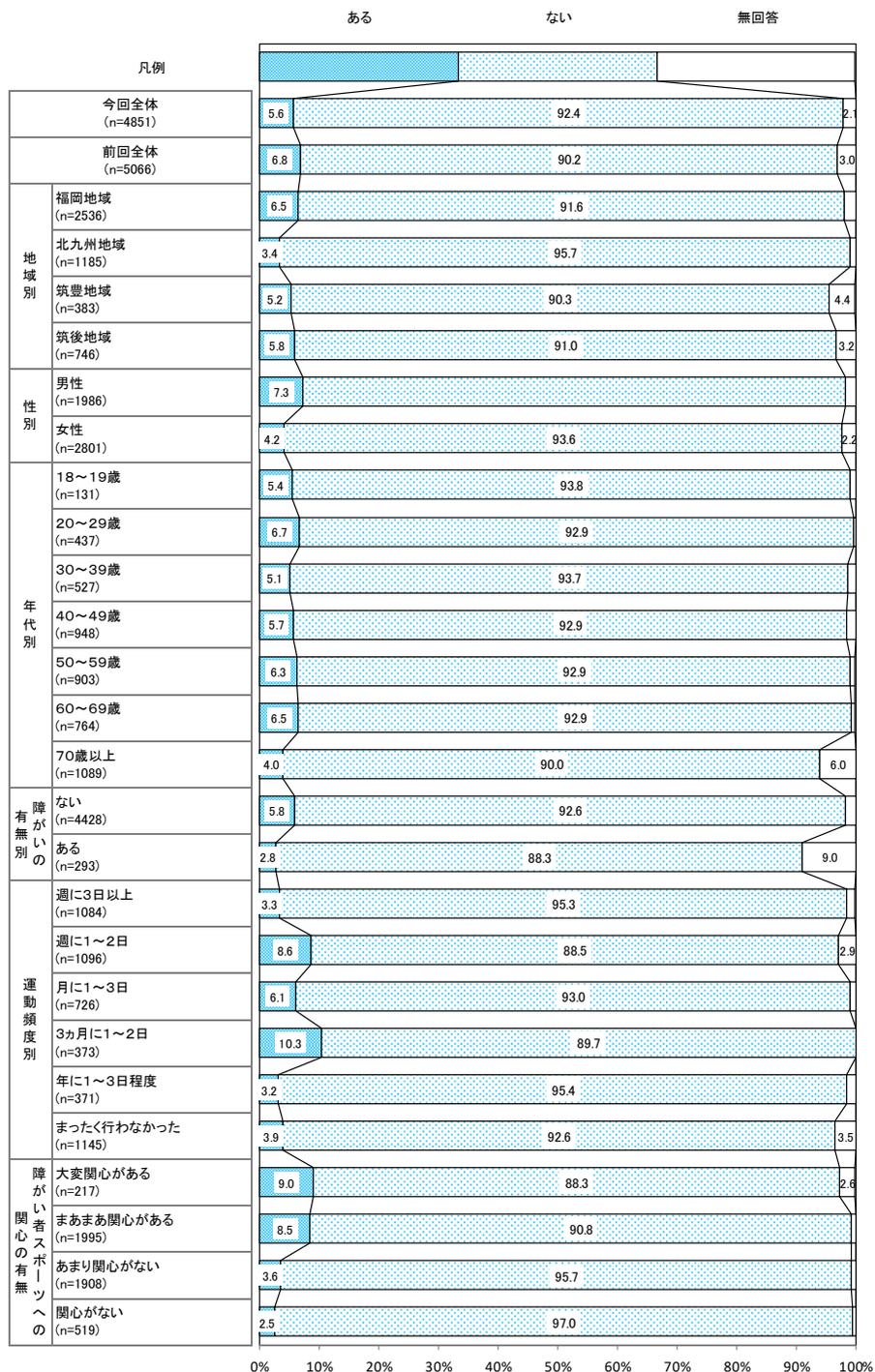
7. ボランティアについて

(1) この1年間のスポーツにかかわるボランティア活動の有無

この1年間に何らかのスポーツにかかわるボランティア活動をしたことが「ある」の割合は5.6%で、前回と比べてやや減少した。

障がい者スポーツへの関心がある人ほど、ボランティア活動への参加率が高い。

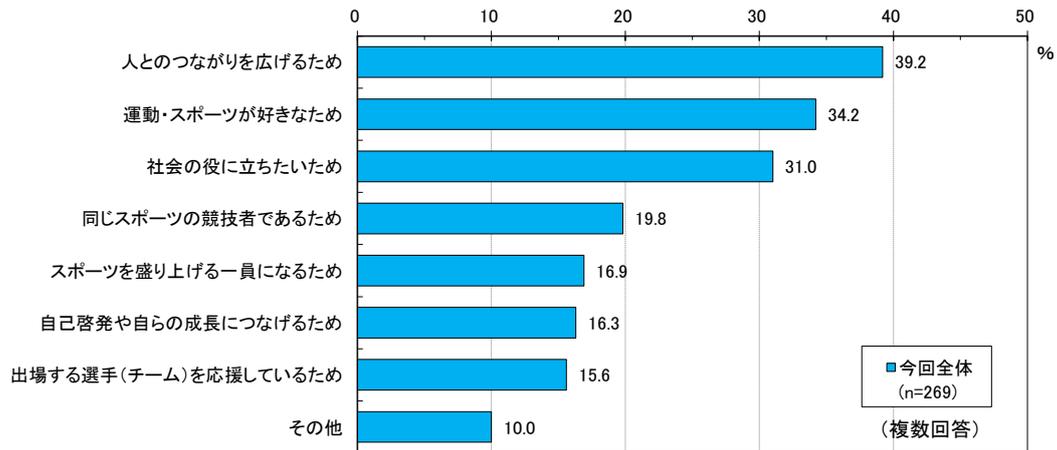
この1年間のスポーツにかかわるボランティア活動の有無



(2) (ボランティア活動がある人のみ) ボランティア活動に参加した理由

「人とのつながりを広げるため」(39.2%)の割合が最も高く、次いで「運動・スポーツが好きのため」(34.2%)、「社会の役に立ちたいため」(31.0%)が続いている。

(ボランティア活動がある人のみ) ボランティア活動に参加した理由



(ボランティア活動がある人のみ) ボランティア活動に参加した理由

		サンプル数	人とのつながりを広げるため	運動・スポーツが好きのため	社会の役に立ちたいため	同じスポーツの競技者であるため	スポーツを盛り上げるため	自己啓発や自らの成長につなげるため	出場する選手(チーム)を応援しているため	その他	無回答
今回全体		n=269	39.2	34.2	31.0	19.8	16.9	16.3	15.6	10.0	-
地域別	福岡地域	n=166	35.5	32.3	29.0	16.1	16.1	16.1	12.9	12.9	-
	北九州地域	n=41	40.0	46.7	40.0	13.3	20.0	13.3	20.0	6.7	-
	筑豊地域	n=20	50.0	30.0	35.0	20.0	10.0	25.0	20.0	5.0	-
	筑後地域	n=43	48.0	32.0	28.0	40.0	20.0	16.0	20.0	4.0	-
性別	男性	n=144	35.6	46.5	43.0	27.0	23.4	24.3	16.1	3.7	-
	女性	n=119	45.8	16.7	18.1	12.1	9.8	7.6	15.8	17.2	-
年代別	18~19歳	n=7	75.7	-	75.7	24.3	-	-	-	-	-
	20~29歳	n=29	27.4	78.5	27.4	24.0	18.2	18.2	18.2	18.2	-
	30~39歳	n=27	13.8	20.2	30.0	19.9	26.3	3.7	23.8	-	-
	40~49歳	n=54	26.1	29.2	14.8	21.2	3.2	18.5	13.2	9.9	-
	50~59歳	n=57	40.4	46.9	45.0	26.4	26.4	31.0	11.1	9.3	-
	60~69歳	n=50	39.2	19.6	14.3	6.9	17.6	8.9	10.7	8.9	-
	70歳以上	n=43	72.9	25.6	48.1	21.0	17.0	12.5	26.5	12.3	-
運動頻度別	週に3日以上	n=36	77.5	30.0	42.8	24.5	22.5	15.0	7.5	-	-
	週に1~2日	n=94	34.9	35.9	24.3	14.0	20.7	11.4	5.7	11.4	-
	月に1~3日	n=44	48.6	60.6	34.9	26.5	22.0	26.5	22.6	14.3	-
	3か月に1~2日	n=38	28.1	28.1	70.0	32.4	21.0	27.9	11.5	-	-
	年に1~3日程度	n=12	-	37.6	-	-	-	8.5	8.5	45.5	-
	まったく行わなかった	n=44	28.0	12.0	6.1	15.9	-	9.9	41.8	9.9	-

(注)属性ごとに、全体(平均)よりも高い数値に薄い青色、最も高い数値に青色を付している。

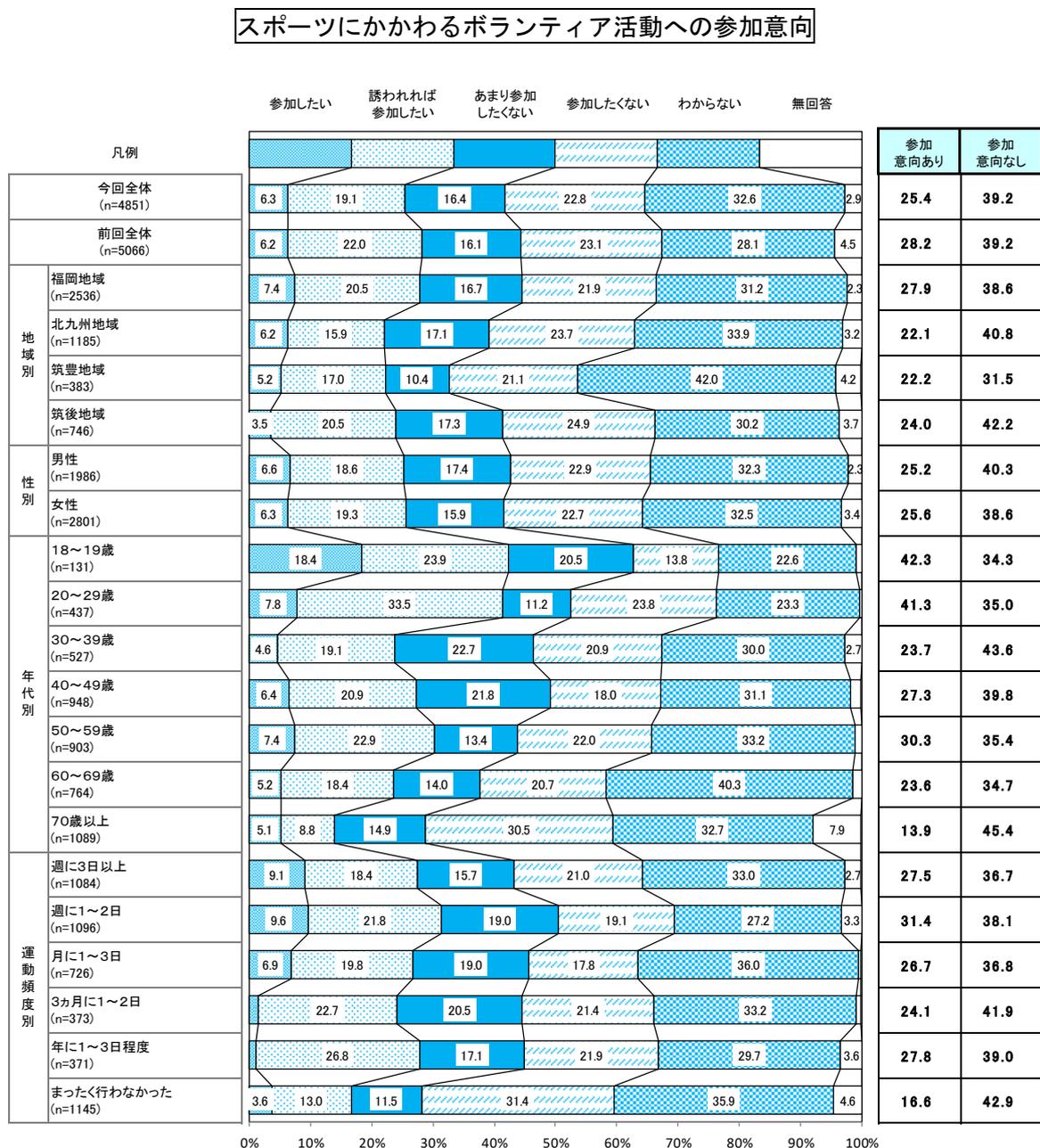
(3) スポーツにかかわるボランティア活動への参加意向

『参加意向あり』（「参加したい」6.3%、「誘われれば参加したい」19.1%）が25.4%で、『参加意向なし』（「あまり参加したくない」16.4%、「参加したくない」22.8%）の39.2%を下回っている。

前回と比べても大きな違いはない。

性別では、大きな違いはない。年代別では、『参加意向あり』は、18～19歳、20代で4割を超えるなど若い年代で参加意向が高い。

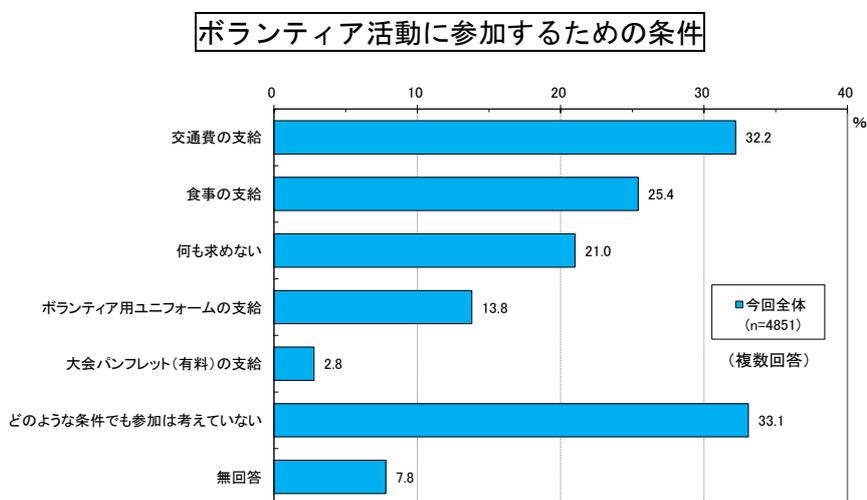
運動頻度別では、『参加意向あり』の割合が最も高いのは、週に1～2日運動やスポーツを行っている人で31.4%となっている。



(4) ボランティア活動に参加するための条件

「交通費の支給」(32.2%)が最も高く、次いで「食事の支給」(25.4%)、「何も求めない」(21.0%)、「ボランティア用ユニフォームの支給」(13.8%)、「大会パンフレット(有料)の支給」(2.8%)となっている。「どのような条件でも参加は考えていない」は33.1%である。

年代別では、70歳以上で「どのような条件でも参加は考えていない」(42.2%)が4割を超えている。18～19歳では「何も求めない」(36.4%)の割合が高い。20代、30代では他の年代に比べて「交通費の支給」「食事の支給」の割合が高い。「ボランティア用ユニフォームの支給」は若い年代ほど高い割合となっている。



ボランティア活動に参加するための条件

(%)

	サンプル数	交通費の支給	食事の支給	何も求めない	ボランティア用ユニフォームの支給	大会パンフレット(有料)の支給	どのような条件でも参加は考えていない	無回答	
今回全体	n=4851	32.2	25.4	21.0	13.8	2.8	33.1	7.8	
地域別	福岡地域	n=2536	37.6	28.1	18.8	15.4	3.2	30.4	7.4
	北九州地域	n=1185	26.0	21.0	21.9	12.5	3.2	39.0	7.1
	筑豊地域	n=383	23.0	17.8	27.7	10.2	2.1	33.4	12.5
	筑後地域	n=746	28.6	27.2	23.7	12.4	1.6	33.2	8.1
性別	男性	n=1986	31.5	29.1	25.4	14.6	3.1	29.6	7.6
	女性	n=2801	32.7	22.7	17.6	12.9	2.7	35.9	8.0
年代別	18～19歳	n=131	34.1	30.1	36.4	19.2	6.2	25.4	4.1
	20～29歳	n=437	47.7	36.5	16.8	18.6	2.5	28.9	1.2
	30～39歳	n=527	41.9	31.1	12.3	17.5	2.2	40.6	2.5
	40～49歳	n=948	37.1	30.2	21.7	15.9	3.6	27.1	4.6
	50～59歳	n=903	39.7	28.2	19.8	14.8	3.8	31.5	4.3
	60～69歳	n=764	28.7	22.3	27.1	12.3	1.9	28.8	6.8
	70歳以上	n=1089	12.9	13.2	20.6	7.5	2.3	42.2	20.0
障がいの有無別	ない	n=4428	32.7	25.7	21.5	14.0	3.1	33.3	6.5
	ある	n=293	22.6	21.4	13.6	8.6	-	35.2	23.7

(注) 属性ごとに、全体(平均)よりも高い数値に薄い青色、最も高い数値に青色を付している。

8. 大規模国際スポーツ大会について

(1) 「東京オリンピック・パラリンピック」の観戦の有無

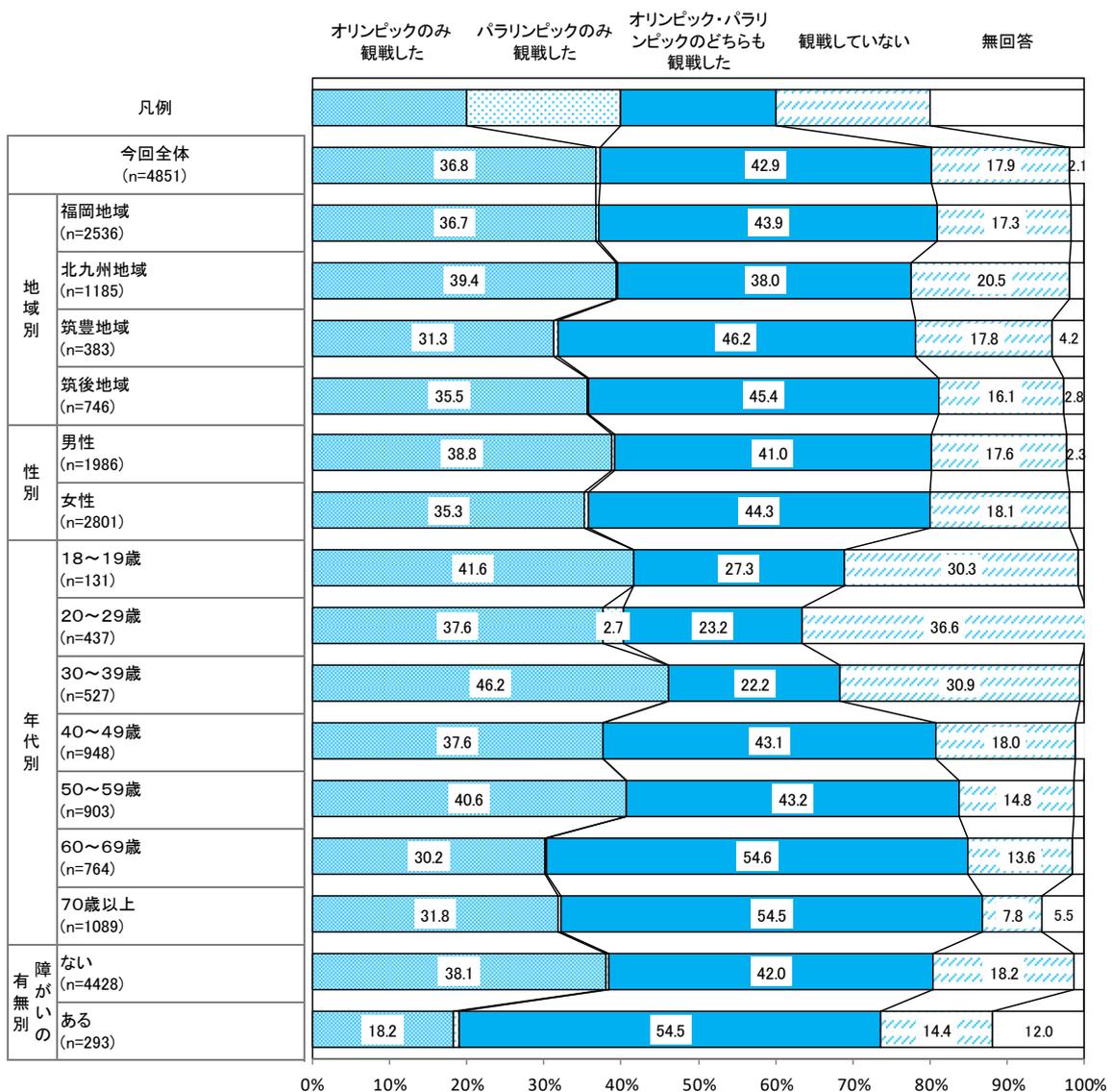
※テレビやインターネットでの観戦を含む。

「オリンピック・パラリンピックのどちらも観戦した」が42.9%、「オリンピックのみ観戦した」36.8%、「観戦していない」が17.9%で、8割程度の人が東京オリンピック・パラリンピックの少なくともいずれかを観戦している。

年代別では、年代が高くなるほど「オリンピック・パラリンピックのどちらも観戦した」の割合が上昇し、60代、70歳以上で「オリンピック・パラリンピックのどちらも観戦した」の割合が5割を超えている。

障がいの有無別では、障がいのある人で「オリンピック・パラリンピックのどちらも観戦した」(54.5%)の割合が5割を超え、障がいのない人を12.5ポイント上回っている。

「東京オリンピック・パラリンピック」の観戦の有無



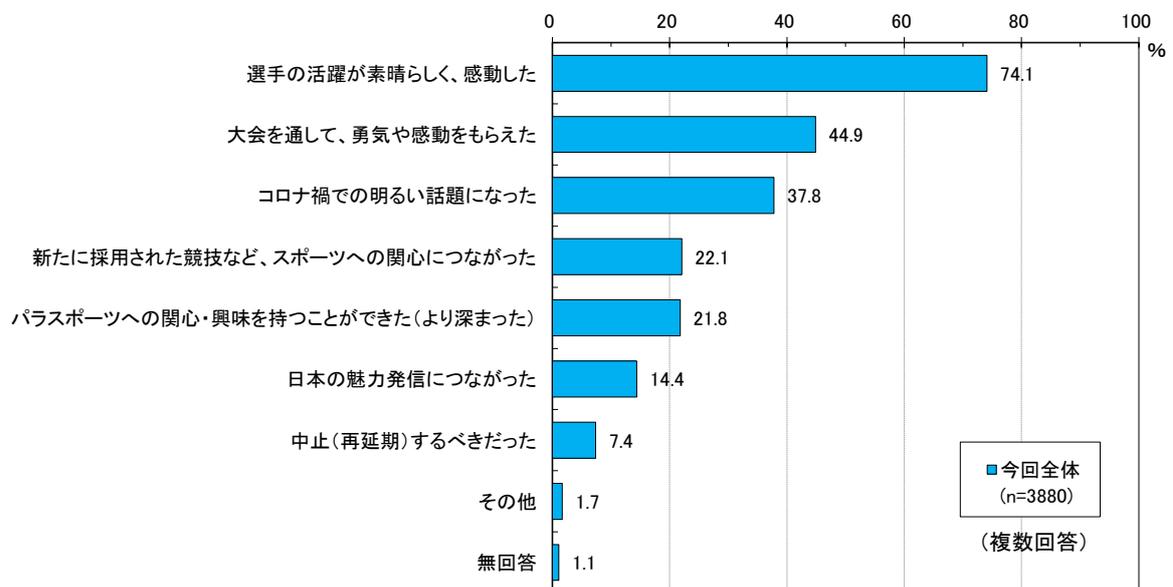
(2)「東京オリンピック・パラリンピック」を観戦して感じたこと

「選手の活躍が素晴らしく、感動した」(74.1%)が最も高く、次いで「大会を通して、勇気や感動をもらえた」(44.9%)、「コロナ禍での明るい話題になった」(37.8%)、「新たに採用された競技など、スポーツへの関心につながった」(22.1%)、「パラスポーツへの関心・興味を持つことができた(より深まった)」(21.8%)となっている。

年代別では、18～19歳で「選手の活躍が素晴らしく、感動した」(82.1%)、「大会を通して、勇気や感動をもらえた」(53.5%)の割合が高い。20代では「コロナ禍での明るい話題になった」(42.6%)、「日本の魅力発信につながった」(21.2%)の割合が高い。70歳以上では「パラスポーツへの関心・興味を持つことができた(より深まった)」(25.5%)が「新たに採用された競技など、スポーツへの関心につながった」(19.5%)を上回っている。

障がいの有無別では、障がいのある人は障がいのない人に比べて「大会を通して、勇気や感動をもらえた」(53.8%)、「パラスポーツへの関心・興味を持つことができた(より深まった)」(30.4%)、「日本の魅力発信につながった」(20.3%)の割合が高い。

「東京オリンピック・パラリンピック」を観戦して感じたこと



「東京オリンピック・パラリンピック」を観戦して感じたこと

(%)

	サンプル数	選手の活躍が素晴らしく、感動した	大会を通して、勇気や感動をもらえた	コロナ禍での明るい話題になつた	新たに採用された競技などに、スポーツへの関心に	興味を深まった（より深まった）	パラスポーツへの関心につながつた	日本の魅力発信に	中止（再延期）するべきだった	その他	無回答
今回全体	n=3880	74.1	44.9	37.8	22.1	21.8	14.4	7.4	1.7	1.1	
地域別	福岡地域	n=2054	73.7	44.3	36.5	23.7	21.4	14.6	8.3	1.8	0.3
	北九州地域	n=921	73.3	44.9	42.8	18.5	19.9	14.1	6.2	1.5	2.1
	筑豊地域	n=299	75.3	42.8	34.1	22.7	22.4	13.0	7.4	3.7	1.0
	筑後地域	n=605	76.1	48.0	36.4	22.2	25.6	15.1	6.3	0.9	2.3
性別	男性	n=1590	70.3	40.8	38.6	17.9	20.4	16.2	7.3	2.0	0.7
	女性	n=2242	77.3	48.0	37.3	24.9	22.8	13.4	7.6	1.3	1.3
年代別	18～19歳	n=90	82.1	53.5	34.9	13.0	18.9	19.0	-	1.1	-
	20～29歳	n=277	74.2	42.6	42.6	21.5	19.3	21.2	5.8	1.9	1.0
	30～39歳	n=361	78.7	35.7	37.8	28.4	14.0	7.9	9.7	0.3	-
	40～49歳	n=765	73.9	45.0	32.2	24.1	22.0	9.7	6.1	1.7	1.1
	50～59歳	n=757	76.3	48.6	39.2	22.5	22.5	15.2	5.6	1.8	0.1
	60～69歳	n=648	69.4	40.2	36.8	21.3	21.7	12.9	8.8	2.7	1.1
	70歳以上	n=944	73.9	48.8	41.3	19.5	25.5	19.1	9.3	1.7	2.4
障がいの有無別	ない	n=3560	74.9	44.2	38.4	22.3	21.4	14.3	7.0	1.7	1.0
	ある	n=216	68.9	53.8	31.9	18.7	30.4	20.3	9.6	3.7	1.6
運動頻度別	週に3日以上	n=894	74.4	45.3	40.6	21.5	25.6	16.9	10.5	2.4	1.2
	週に1～2日	n=923	74.4	42.5	32.2	21.8	22.9	12.3	7.7	2.0	1.1
	月に1～3日	n=621	74.0	47.6	41.3	26.1	22.0	14.5	5.2	0.2	0.6
	3か月に1～2日	n=285	71.7	44.6	43.8	22.8	15.4	14.9	9.5	0.4	-
	年に1～3日程度	n=281	80.8	50.3	40.4	26.0	22.2	12.8	5.4	0.7	1.0
	まったく行わなかった	n=826	73.5	42.6	34.3	18.9	18.2	13.9	6.0	2.8	1.3

(注)属性ごとに、全体(平均)よりも高い数値に薄い青色、最も高い数値に青色を付している。

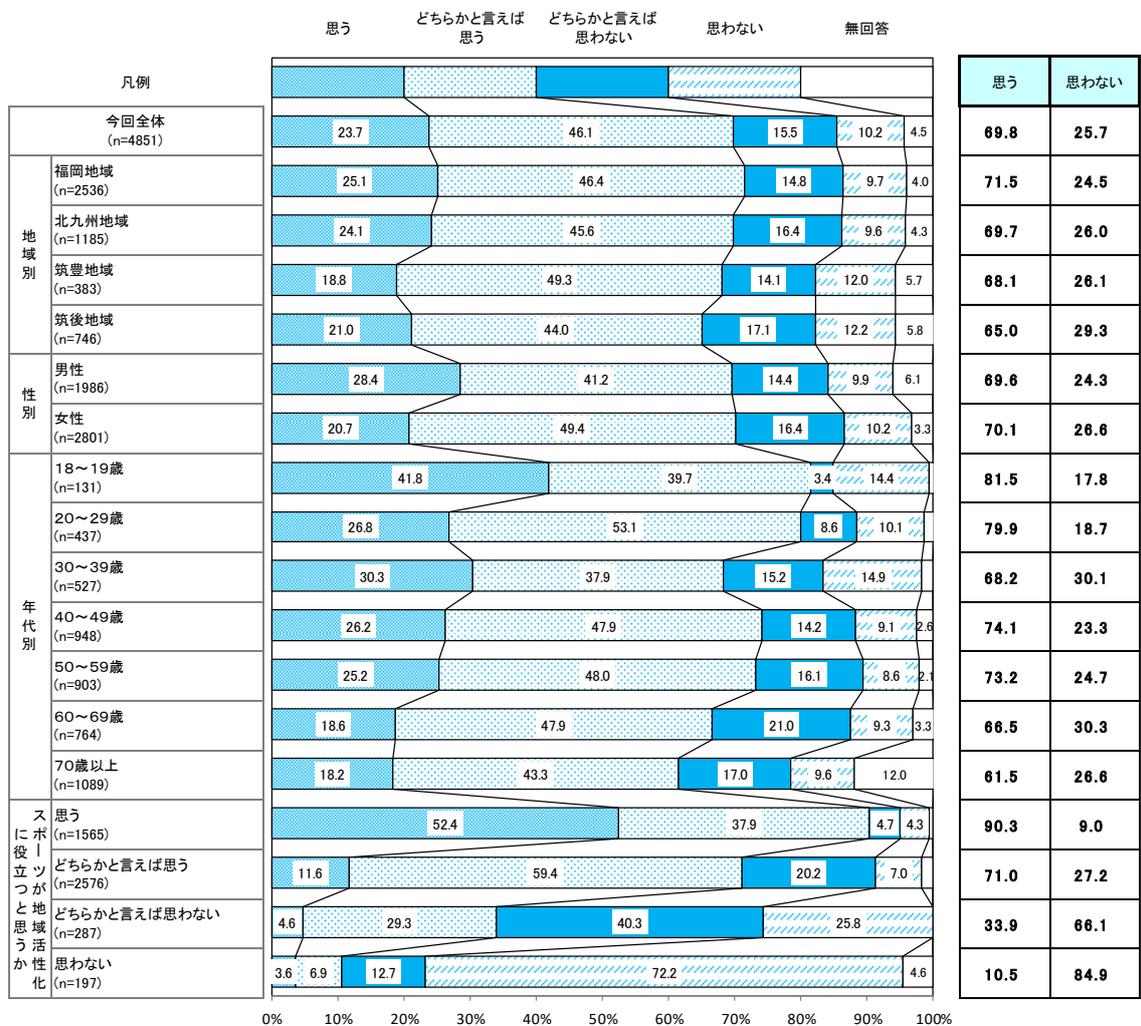
(3) 福岡県内で大規模国際スポーツ大会を継続的に開催することへの賛否

『継続的に開催してほしい』（「思う」23.7%、「どちらかと言えば思う」46.1%）が69.8%、『継続的に開催してほしいとは思わない』（「どちらかと言えば思わない」15.5%、「思わない」10.2%）が25.7%で、約7割が県内で大規模国際スポーツ大会を継続的に開催してほしいと考えている。

年代別では、18～19歳、20代で『継続的に開催してほしい』の割合が高く、約8割に達している。

スポーツが地域活性化に役立つと思う人ほど『継続的に開催してほしい』の割合が高いなど、運動やスポーツを肯定的にとらえている人ほど、継続的な開催を期待している。

福岡県内で大規模国際スポーツ大会を継続的に開催することへの賛否



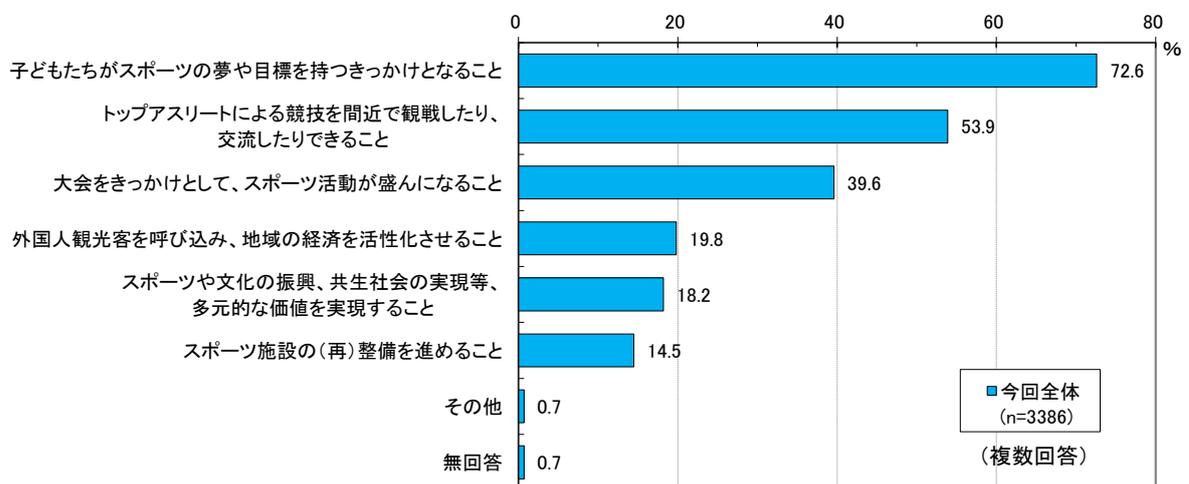
(4) (継続的な開催を望む人のみ) 大規模国際スポーツ大会に期待すること

「子どもたちがスポーツの夢や目標を持つきっかけとなること」(72.6%)が最も高く、次いで「トップアスリートによる競技を間近で観戦したり交流したりできること」(53.9%)、「大会をきっかけとして、スポーツ活動が盛んになること」(39.6%)となっている。

年代別では、他の年代に比べて30代で「子どもたちがスポーツの夢や目標を持つきっかけとなること」(83.3%)が、70歳以上で「スポーツや文化の振興、共生社会の実現等、多面的な価値を実現すること」(28.8%)の割合が高い。

運動頻度別では、運動頻度が高いほど「スポーツや文化の振興、共生社会の実現等、多面的な価値を実現すること」の割合が高い傾向がある。

(継続的な開催を望む人のみ) 大規模国際スポーツ大会に期待すること



(継続的な開催を望む人のみ) 大規模国際スポーツ大会に期待すること

(%)

	サンプル数	子どもたちも目標を持つきっかけとなること	交流したり近でき観戦したり、競技を間近で観戦すること	トップアスリートによるスポーツ活動が盛んになること	大会をきっかけとして、スポーツ活動が盛んになること	外国人観光客を呼び込ませる地域経済活性化させること	共生社会の実現等、多元的な価値を実現すること	スポーツや文化の振興、スポーツ施設の(再)整備を進めること	その他	無回答
今回全体	n=3386	72.6	53.9	39.6	19.8	18.2	14.5	0.7	0.7	
地域別	福岡地域	n=1814	71.4	51.6	38.3	21.2	18.3	15.3	0.6	1.2
	北九州地域	n=826	69.9	56.2	38.2	19.3	17.3	14.4	0.7	0.3
	筑豊地域	n=261	79.7	51.0	40.6	15.3	21.8	15.3	0.4	0.4
	筑後地域	n=485	78.0	60.3	45.7	17.7	17.7	11.0	1.1	-
性別	男性	n=1382	69.1	56.3	40.9	22.3	19.0	18.6	1.0	0.4
	女性	n=1964	75.8	52.3	39.0	18.1	17.6	11.6	0.2	1.0
年代別	18～19歳	n=107	57.2	67.3	51.3	20.1	3.2	22.6	0.9	-
	20～29歳	n=349	70.8	50.5	41.9	24.5	15.1	10.1	1.5	0.8
	30～39歳	n=360	83.3	63.1	41.2	20.0	9.4	11.2	0.5	-
	40～49歳	n=703	73.1	61.8	36.2	21.7	12.4	12.4	1.4	-
	50～59歳	n=661	77.4	57.8	34.3	23.4	15.7	15.2	-	0.2
	60～69歳	n=507	72.3	46.5	42.6	10.4	27.4	18.8	-	-
	70歳以上	n=669	67.1	41.8	43.0	19.0	28.8	15.2	0.7	3.2
運動頻度別	週に3日以上	n=785	69.4	53.9	42.1	20.1	23.7	10.5	0.6	-
	週に1～2日	n=745	70.3	56.9	42.5	20.3	18.3	14.6	1.1	2.3
	月に1～3日	n=579	71.3	54.1	43.7	18.2	16.1	16.8	0.5	-
	3か月に1～2日	n=306	81.8	51.8	33.5	27.2	17.7	13.8	0.6	-
	年に1～3日程度	n=255	75.1	61.9	37.4	22.7	10.2	12.3	-	-
	まったく行わなかった	n=680	74.2	48.2	35.1	16.7	16.1	16.5	0.8	1.2

(注)属性ごとに、全体(平均)よりも高い数値に薄い青色、最も高い数値に青色を付している。

9. スポーツを通じた地域活性化について

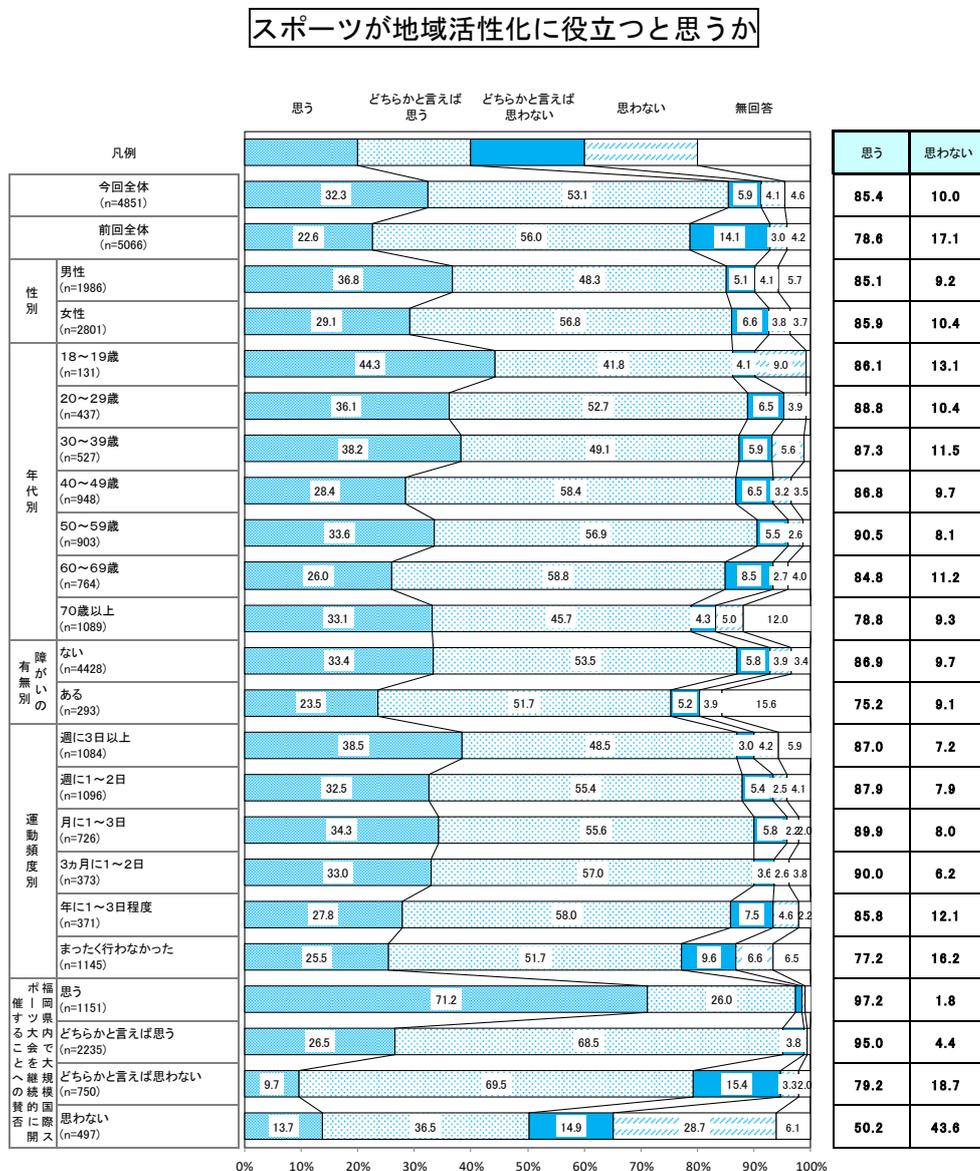
(1) スポーツが地域活性化に役立つと思うか

スポーツは地域活性化に役立つと『思う』(「思う」32.3%、「どちらかと言えば思う」53.1%)が85.4%と8割を大きく超えている。

年代別では70歳以上で『思う』の割合が僅かに80%を切っているが、70歳未満のすべての年代で『思う』の割合が8割を大きく超えている。

運動頻度別では、まったく運動を行わなかった人で『思う』の割合が僅かに80%を切っているが、頻度にかかわらず『思う』の割合が8割を大きく超えている。

大規模国際スポーツ大会の継続開催では、継続開催に肯定的な人で『思う』の割合が9割を超えるなど、非常に高くなっている。



(注) 「思う」は前回「よく思う」、「どちらかと言えば思う」は前回「まあまあ思う」、「どちらかと言えば思わない」は前回「あまり思わない」と表現が違うが、参考までに前回数値を掲載している。

(2) スポーツを活かした方策として地方自治体に期待すること

「子どものスポーツ機会の充実」(52.7%)が最も高く、次いで「国際スポーツ大会やキャンプ地の誘致」(27.3%)、「高齢者世代のスポーツの機会の充実」(25.5%)、「学校やスポーツ施設などの活用と充実」(24.8%)、「トップアスリートと住民との交流機会の提供」(24.5%)、「働き盛りや子育て世代のスポーツの機会の充実」(21.0%)となっている。

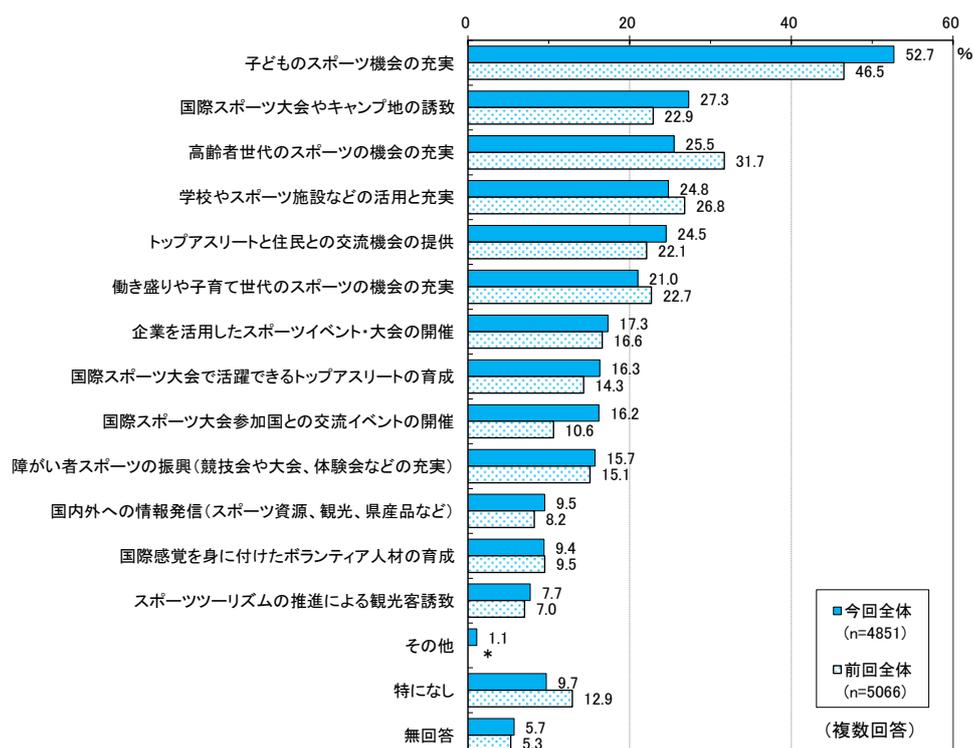
前回に比べて「子どものスポーツ機会の充実」は6.2ポイント、「国際スポーツ大会やキャンプ地の誘致」は4.4ポイント上昇した。

年代別では、他の年代に比べて18～19歳で「学校やスポーツ施設などの活用と充実」(32.2%)、「国際感覚を身に付けたボランティア人材の育成」(17.1%)、「国内外への情報発信(スポーツ資源、観光、県産品など)」(14.4%)の割合が高い。他の年代に比べて30代で「働き盛りや子育て世代のスポーツの機会の充実」(34.3%)の割合が高い。

50代では、他の年代に比べて自治体に期待することが多くあげられており、「国際スポーツ大会やキャンプ地の誘致」(39.3%)、「トップアスリートと住民との交流機会の提供」(31.8%)、「企業を活用したスポーツイベント・大会の開催」(23.4%)、「国際スポーツ大会参加国との交流イベントの開催」(20.2%)、「国際スポーツ大会で活躍できるトップアスリートの育成」(20.0%)が他の年代の中で最も高い。

障がいの有無別では、障がいのある人で「子どものスポーツ機会の充実」(44.9%)に次いで「障がい者スポーツの振興(競技会や大会、体験会などの充実)」(29.7%)の割合が高く、障がいのない人を14.6ポイント上回っている。

スポーツを活かした方策として地方自治体に期待すること



スポーツを活かした方策として地方自治体に期待すること

		(%)																				
		サンプル数	子どものスポーツ機会の充実	国際スポーツ大会やキャンプ地の誘致	高齢者世代のスポーツの機会の充実	学校やスポーツ施設などの活用と充実	トップアスリートと住民との交流機会の提供	動き盛りや子育て世代のスポーツの機会の充実	企業を活用したスポーツイベント・大会の開催	トップアスリートの育成	国際スポーツ大会で活躍できる	国際スポーツ大会参加国との交流イベントの開催	国際スポーツ大会参加国との交流	障がい者スポーツの振興（競技会や大会、体験会などの充実）	観光、県産品など	国内外への情報発信（スポーツ資源、人材の育成）	国際感覚を身に付けたボランティア	観光客誘致	スポーツツーリズムの推進による	その他	特になし	無回答
今回全体		n=4851	52.7	27.3	25.5	24.8	24.5	21.0	17.3	16.3	16.2	15.7	9.5	9.4	7.7	1.1	9.7	5.7				
前回全体		n=5066	46.5	22.9	31.7	26.8	22.1	22.7	16.6	14.3	10.6	15.1	8.2	9.5	7.0	*	12.9	5.3				
地域別	福岡地域	n=2536	53.4	27.6	25.3	26.4	23.0	20.5	16.9	16.0	16.5	16.2	9.5	8.6	6.5	1.5	8.2	5.7				
	北九州地域	n=1185	52.2	28.7	25.7	25.1	26.4	23.9	19.6	16.6	15.3	14.4	10.7	11.4	10.5	0.9	10.7	4.3				
	筑豊地域	n=383	55.1	25.3	26.6	22.5	27.9	18.8	15.1	15.9	17.2	15.9	7.6	11.0	5.7	0.5	10.4	7.8				
	筑後地域	n=746	50.2	24.9	25.3	20.5	25.1	19.1	16.4	17.1	16.6	16.1	8.8	8.1	8.5	0.5	12.4	6.9				
性別	男性	n=1986	50.8	33.3	23.8	24.2	27.1	17.3	18.1	17.9	15.8	14.8	9.7	9.1	8.4	1.0	9.0	5.9				
	女性	n=2801	54.6	23.6	26.9	25.3	22.9	23.7	17.1	15.5	16.7	16.6	9.6	9.7	7.3	1.2	9.7	5.5				
年代別	18～19歳	n=131	47.9	23.3	9.5	32.2	23.9	13.1	23.1	7.7	12.3	17.7	14.4	17.1	11.0	-	17.2	0.8				
	20～29歳	n=437	46.9	25.9	14.8	22.7	23.5	32.5	18.0	15.7	19.9	13.3	7.8	11.4	12.6	1.2	11.2	1.2				
	30～39歳	n=527	58.3	29.7	13.1	30.9	28.4	34.3	20.7	13.8	16.0	12.5	9.7	2.9	8.8	3.2	11.2	0.7				
	40～49歳	n=948	57.8	31.1	21.0	27.2	28.2	26.6	17.6	14.0	15.2	16.8	8.2	7.4	10.5	1.8	8.4	3.8				
	50～59歳	n=903	52.8	39.3	27.8	25.3	31.8	18.8	23.4	20.0	20.2	18.3	11.0	11.7	10.6	1.0	9.6	1.4				
	60～69歳	n=764	59.0	20.1	36.7	22.1	19.2	18.1	15.7	14.6	16.3	17.5	8.8	8.2	3.7	-	9.0	5.5				
	70歳以上	n=1089	44.8	20.1	32.7	21.7	17.7	10.5	11.2	19.5	13.0	14.1	10.3	11.9	3.2	0.5	7.8	15.9				
障がいの有無別	ない	n=4428	53.8	28.3	25.9	25.7	25.5	21.6	18.1	16.6	16.5	15.1	9.9	9.9	7.9	1.2	9.3	4.5				
	ある	n=293	44.9	17.8	22.8	15.4	14.8	15.7	10.4	12.9	13.5	29.7	7.1	6.0	6.2	-	12.1	19.6				
運動頻度別	週に3日以上	n=1084	50.9	33.2	28.7	19.8	25.2	15.7	16.6	18.7	17.3	17.5	10.1	9.7	8.9	0.2	9.0	5.7				
	週に1～2日	n=1096	55.4	27.5	30.3	23.9	25.6	20.7	13.7	13.3	14.7	17.0	9.1	9.9	8.1	1.1	8.2	4.8				
	月に1～3日	n=726	57.5	28.8	21.0	31.6	27.0	24.3	21.5	22.1	19.7	14.0	9.9	8.5	9.0	0.6	6.5	2.1				
	3か月に1～2日	n=373	60.1	35.0	14.9	34.4	30.7	29.3	24.0	15.9	18.0	11.2	11.7	7.6	9.3	2.9	3.4	4.5				
	年に1～3日程度	n=371	47.6	28.1	21.8	30.9	24.8	30.6	15.7	13.0	13.0	15.0	9.4	10.1	6.5	3.6	9.2	2.6				
	まったく行わなかった	n=1145	48.1	17.6	25.0	20.9	19.4	18.4	17.5	13.5	15.2	15.9	7.6	9.3	5.4	0.9	16.0	9.6				
(今後の運動やスポーツの実施意向)	ぜひしてみたい(続けたい)	n=1808	56.2	34.7	27.5	24.4	29.4	25.6	18.1	16.0	18.1	16.2	8.9	10.5	10.9	1.4	6.3	2.9				
	どちらかといえばしてみたい(続けたい)	n=2221	55.1	26.2	26.6	27.9	24.4	21.8	19.4	17.4	16.9	16.3	11.2	9.6	7.2	0.9	9.2	4.2				
	どちらかといえばしたくない(続けたくない)	n=447	42.5	19.5	18.6	19.7	16.8	10.1	10.9	11.5	11.7	13.5	3.6	8.3	2.8	0.4	18.8	9.1				
	したくない(続けたくない)	n=232	32.8	9.0	20.5	14.3	14.1	10.0	10.8	13.3	11.0	13.6	11.2	6.2	2.8	2.7	22.4	18.7				
活気やスポーツが地域に思わぬか	思う	n=1565	63.3	42.3	29.9	31.4	36.3	29.4	25.4	23.7	25.9	22.3	13.0	14.5	11.9	0.9	2.7	1.2				
	どちらかと言えば思う	n=2576	54.0	24.5	25.8	24.6	22.5	18.9	16.2	15.1	13.3	14.1	9.5	8.5	6.9	0.9	8.3	2.1				
	どちらかと言えば思わない	n=287	35.9	4.0	20.3	16.3	9.0	12.5	5.9	7.7	7.8	8.7	1.9	3.4	2.4	2.5	34.4	8.1				
	思わない	n=197	20.1	7.2	11.4	12.3	5.8	9.7	2.3	0.5	9.6	5.0	3.6	-	2.7	5.1	50.1	10.1				

(注)属性ごとに、全体(平均)よりも高い数値に薄い青色、最も高い数値に青色を付している。

10. 障がい者スポーツについて

(1) 障がい者スポーツへの関心の有無

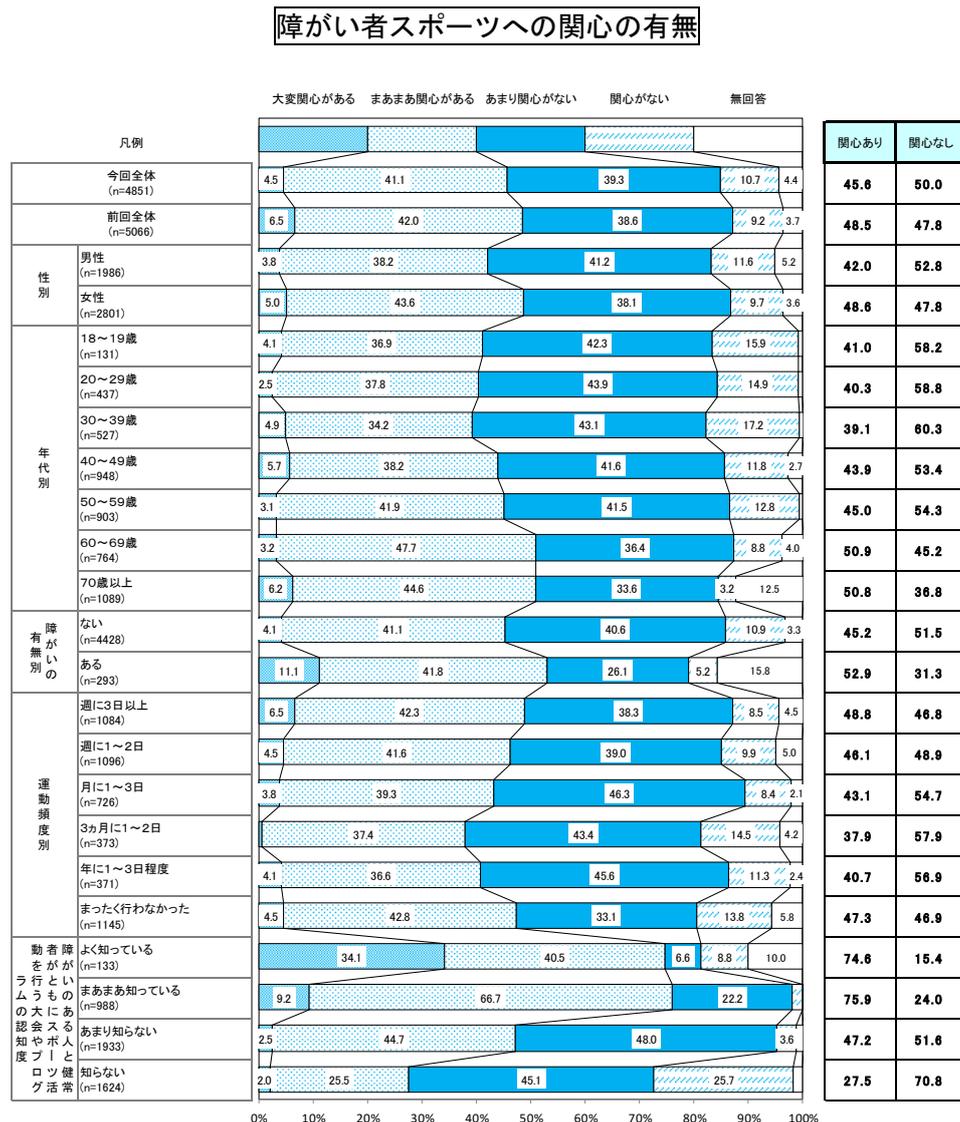
障がい者スポーツに『関心がある』（「大変関心がある」4.5%、「まあまあ関心がある」41.1%）が45.6%で、『関心がない』（「あまり関心がない」39.3%、「関心がない」10.7%）の50.0%を下回っている。

前回と比べると『関心がある』の割合は2.9ポイント減少した。

年代別では、年代が高くなるほど『関心がある』の割合が上昇する傾向があり、60歳以上では『関心がある』の割合が5割を超えている。

障がいの有無別では、障がいのある人で『関心がある』（52.9%）が5割を超えており、障がいのない人の『関心がある』（45.2%）を上回っている。

障がいのある人と健常者がともにスポーツを行う大会等の認知度別では、よく知っている、まあまあ知っている人で『関心がある』の割合が7割を超えており、よく知っている人では「大変関心がある」（34.1%）という強い関心を持つ人の割合が3割を超えている。



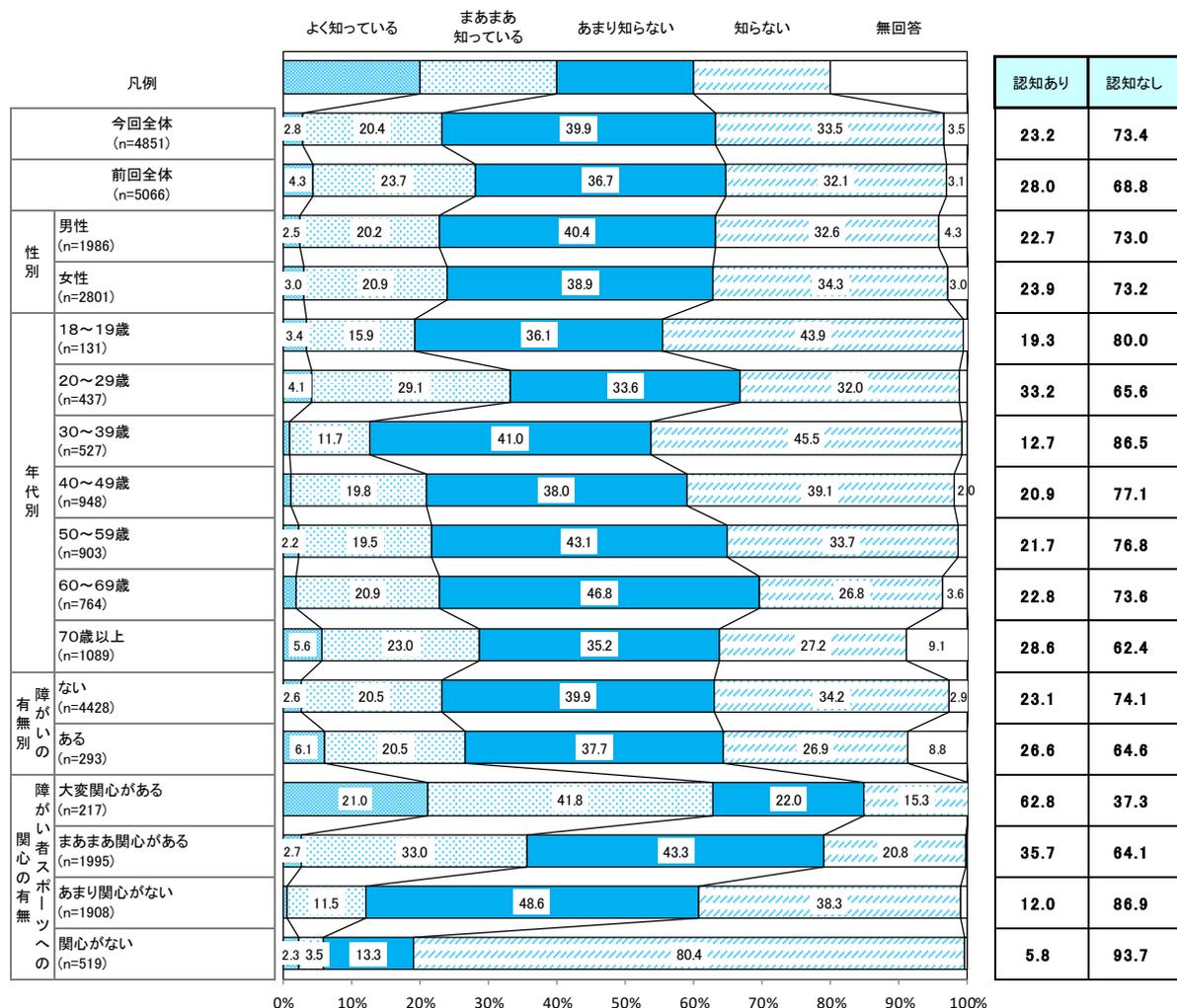
(2) 障がいのある人と健常者がともにスポーツ活動を行う大会やプログラムの認知度

障がいのある人と健常者がともにスポーツ活動を行う大会やプログラムを『知っている』（「よく知っている」2.8%、「まあまあ知っている」20.4%）が23.2%、『知らない』（「あまり知らない」39.9%、「知らない」33.5%）が73.4%である。前回に比べて認知度は4.8ポイント低下した。

年代別では18～19歳、30代の認知度が低い。

障がい者スポーツへの関心度では、関心が高い人ほど認知度も高く、大変関心がある人の認知度は6割を超えている。

障がいのある人と健常者がともにスポーツ活動を行う大会やプログラムの認知度



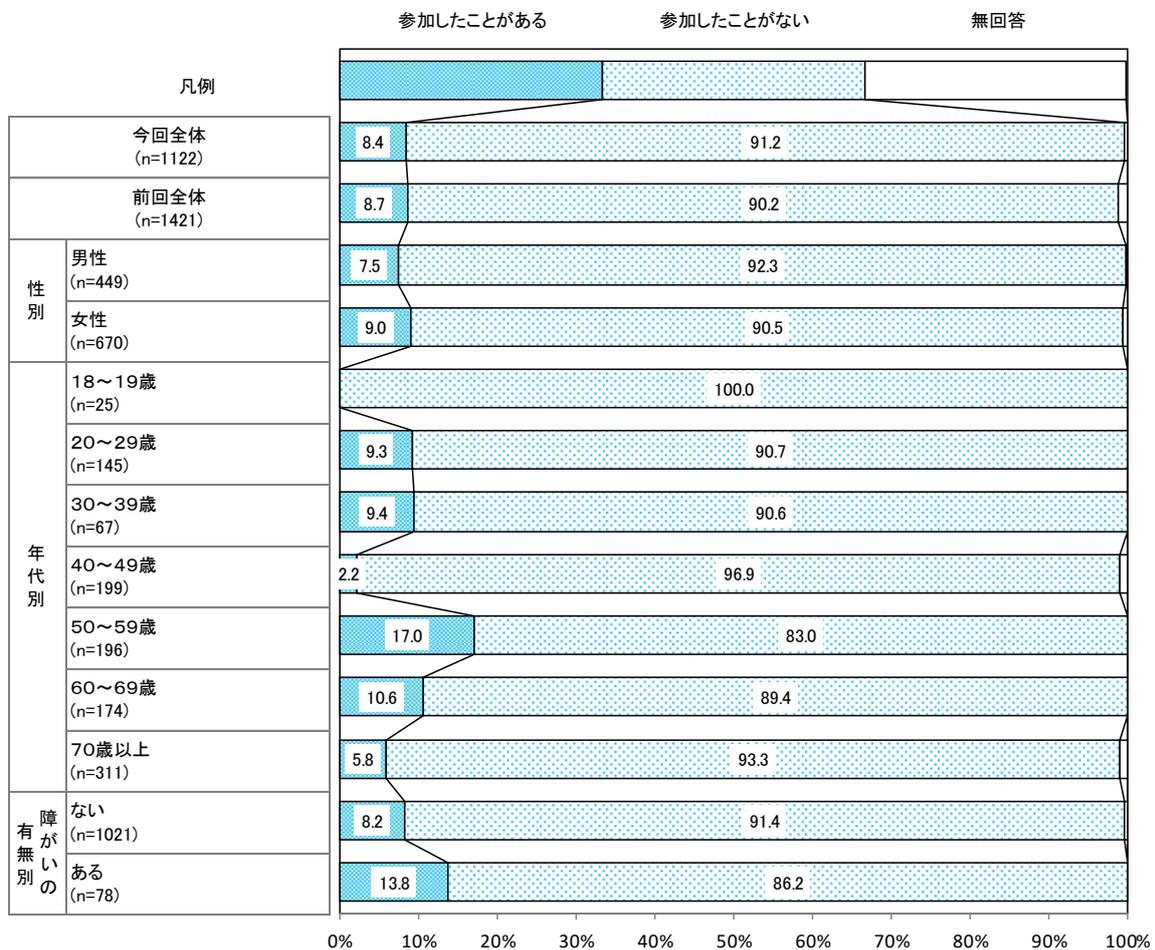
(3) (認知者のみ) 障がいのある人と健常者がともにスポーツ活動を行う大会やプログラムへの参加の有無

障がいのある人と健常者がともにスポーツ活動を行う大会やプログラムに「参加したことがある」は8.4%で、前回とほぼ同程度である。

年代別では、50代、60代で参加率が高い。

障がいのある人で「参加したことがある」割合は13.8%で、障がいのない人の「参加したことがある」割合を5.6ポイント上回っている。

(認知者のみ) 障がいのある人と健常者がともにスポーツ活動を行う大会やプログラムの参加の有無



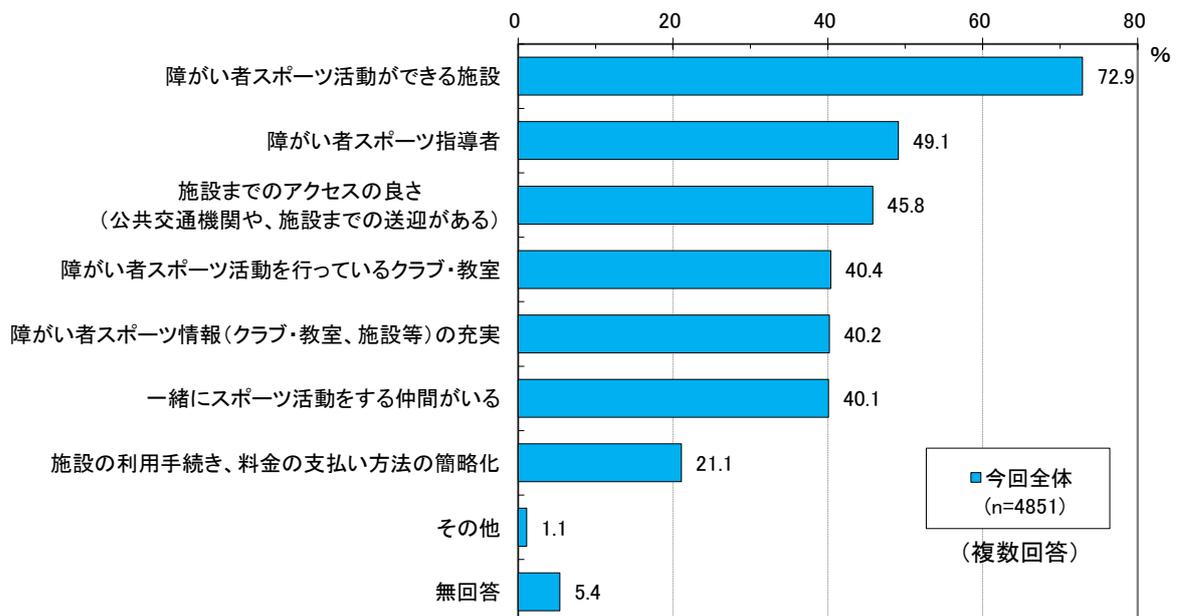
(4) 障がいのある方が、よりスポーツ活動に参加できるようにするために必要なこと

「障がい者スポーツ活動ができる施設」(72.9%)が最も高い。次いで「障がい者スポーツ指導者」(49.1%)、「施設までのアクセスの良さ(公共交通機関や、施設までの送迎がある)」(45.8%)、「障がい者スポーツ活動を行っているクラブ・教室」(40.4%)、「障がい者スポーツ情報(クラブ・教室、施設等)の充実」(40.2%)、「一緒にスポーツ活動をする仲間がいる」(40.1%)、「施設の利用手続き、料金の支払い方法の簡略化」(21.1%)となっている。

年代別では、若い年代ほど「障がい者スポーツ活動ができる施設」「施設までのアクセスの良さ(公共交通機関や、施設までの送迎がある)」の割合が高い。一方、「障がい者スポーツ指導者」は年代が高くなるほど割合が高くなる傾向がある。

運動頻度別では週3回以上運動やスポーツを行っている人で、「障がい者スポーツ指導者」(55.5%)、「障がい者スポーツ情報(クラブ・教室、施設等)の充実」(43.5%)の割合が高い。

障がいのある方が、よりスポーツ活動に参加できるようにするために必要なこと



障がいのある方が、よりスポーツ活動に参加できるようにするために必要なこと

(%)

	サンプル数	障がい者スポーツ活動ができる施設	障がい者スポーツ指導者	の(施設までの公共交通機関や、施設までの送迎がある)	行障がっているスポーツクラブ・教室	の(クラブ・教室、施設等)の充実	障がい者スポーツ情報	仲間にスポーツ活動をする	支払いの方法の簡略化	施設の利用手続き、料金の	その他	無回答
今回全体	n=4851	72.9	49.1	45.8	40.4	40.2	40.1	21.1	1.1	5.4		
性別	男性	n=1986	74.1	48.1	40.8	37.8	39.4	39.1	22.4	0.7	5.6	
	女性	n=2801	72.2	49.5	49.3	42.4	41.1	41.0	20.5	1.4	5.2	
年代別	18～19歳	n=131	84.1	35.6	56.7	36.4	39.0	42.6	18.5	-	0.8	
	20～29歳	n=437	78.7	49.1	53.3	44.0	39.8	43.6	32.1	0.6	0.8	
	30～39歳	n=527	73.2	44.4	46.2	51.0	44.1	48.7	25.1	2.7	1.7	
	40～49歳	n=948	70.9	42.5	51.0	43.4	45.3	47.6	26.1	0.9	2.0	
	50～59歳	n=903	79.2	51.8	47.2	39.9	43.4	38.5	19.1	1.9	1.4	
	60～69歳	n=764	73.7	57.8	41.3	41.3	39.4	36.7	13.9	0.4	5.0	
	70歳以上	n=1089	64.9	49.4	38.7	32.3	32.5	32.0	18.2	0.7	16.2	
障がいの有無別	ない	n=4428	73.8	49.4	46.4	41.7	41.2	41.2	21.6	1.0	4.4	
	ある	n=293	59.2	43.2	42.5	29.4	31.7	32.7	17.8	3.4	15.5	
運動頻度別	週に3日以上	n=1084	72.4	55.5	43.6	42.3	43.5	39.6	17.3	0.3	6.5	
	週に1～2日	n=1096	71.6	46.8	46.6	40.4	38.0	39.6	18.6	1.0	5.4	
	月に1～3日	n=726	74.7	49.8	43.4	43.2	42.6	40.2	18.9	1.2	2.8	
	3か月に1～2日	n=373	79.7	47.1	53.0	38.9	42.6	54.5	27.9	2.2	2.8	
	年に1～3日程度	n=371	78.1	37.8	41.4	43.7	36.9	39.4	28.7	0.5	2.2	
	まったく行かなかった	n=1145	70.1	49.2	48.4	36.0	37.5	37.0	24.9	1.8	7.5	

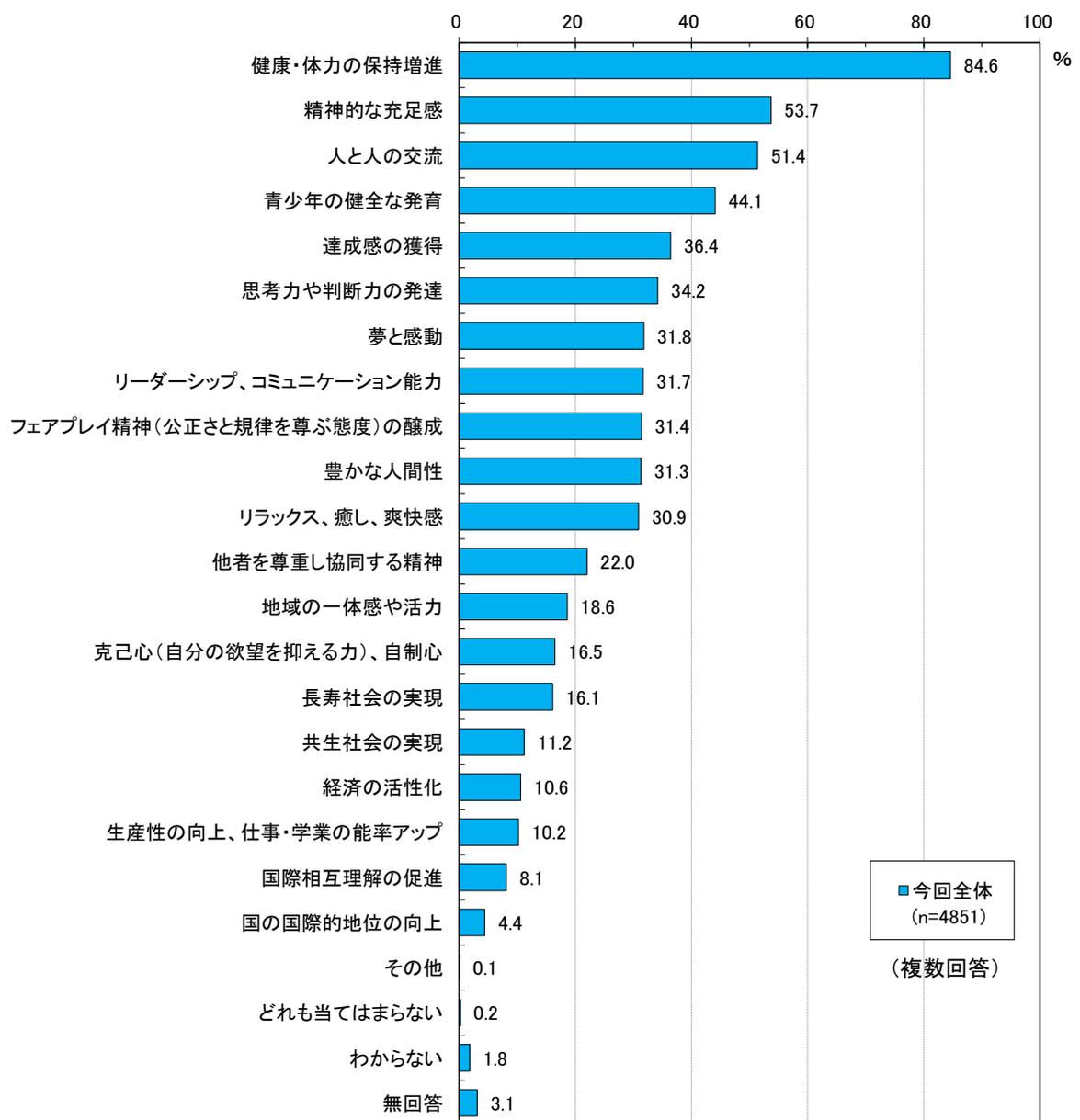
(注)属性ごとに、全体(平均)よりも高い数値に薄い青色、最も高い数値に青色を付している。

11. スポーツの価値について

(1) スポーツが個人や社会にもたらす効果

「健康・体力の保持増進」(84.6%)が最も高く、次いで「精神的な充足感」(53.7%)、「人と人の交流」(51.4%)、「青少年の健全な発育」(44.1%)、「達成感の獲得」(36.4%)、「思考力や判断力の発達」(34.2%)、「夢と感動」(31.8%)、「リーダーシップ、コミュニケーション能力」(31.7%)、「フェアプレイ精神(公正さと規律を尊ぶ態度)の醸成」(31.4%)、「豊かな人間性」(31.3%)、「リラックス、癒し、爽快感」(30.9%)となっている。

スポーツが個人や社会にもたらす効果



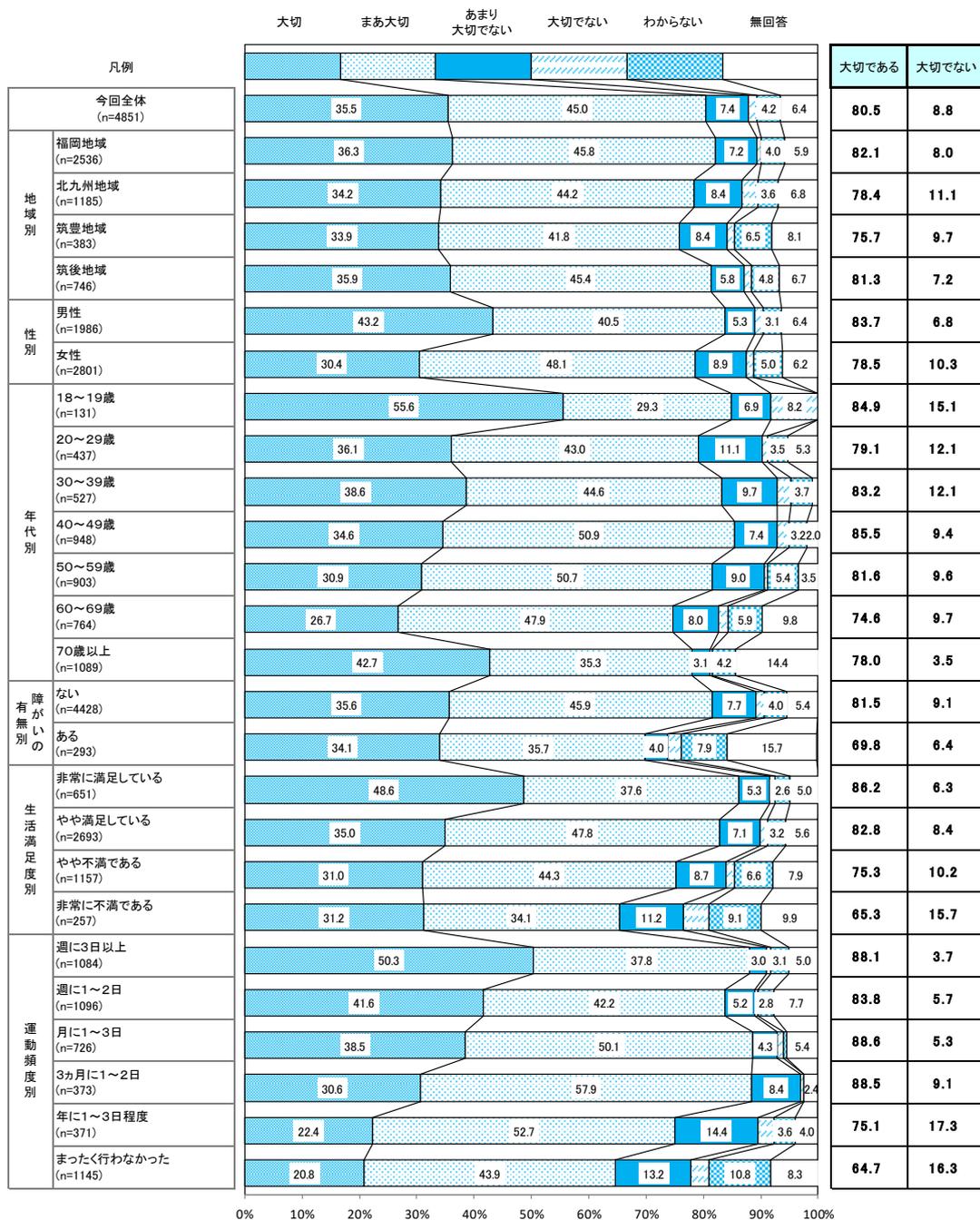
(2) 運動・スポーツへの価値観

運動・スポーツは『大切である』（「大切」35.5%、「まあ大切」45.0%）が80.5%、『大切でない』（「あまり大切でない」7.4%、「大切でない」1.4%）が8.8%で、8割の人が運動・スポーツに価値を感じている。

年代別では、18～19歳と70歳以上の両端で「大切」の割合が高く、18～19歳で55.6%、70歳以上で42.7%に達している。

生活満足度が高い、運動頻度が高い人ほど運動・スポーツに価値を感じる人の割合が高い。

運動・スポーツへの価値観

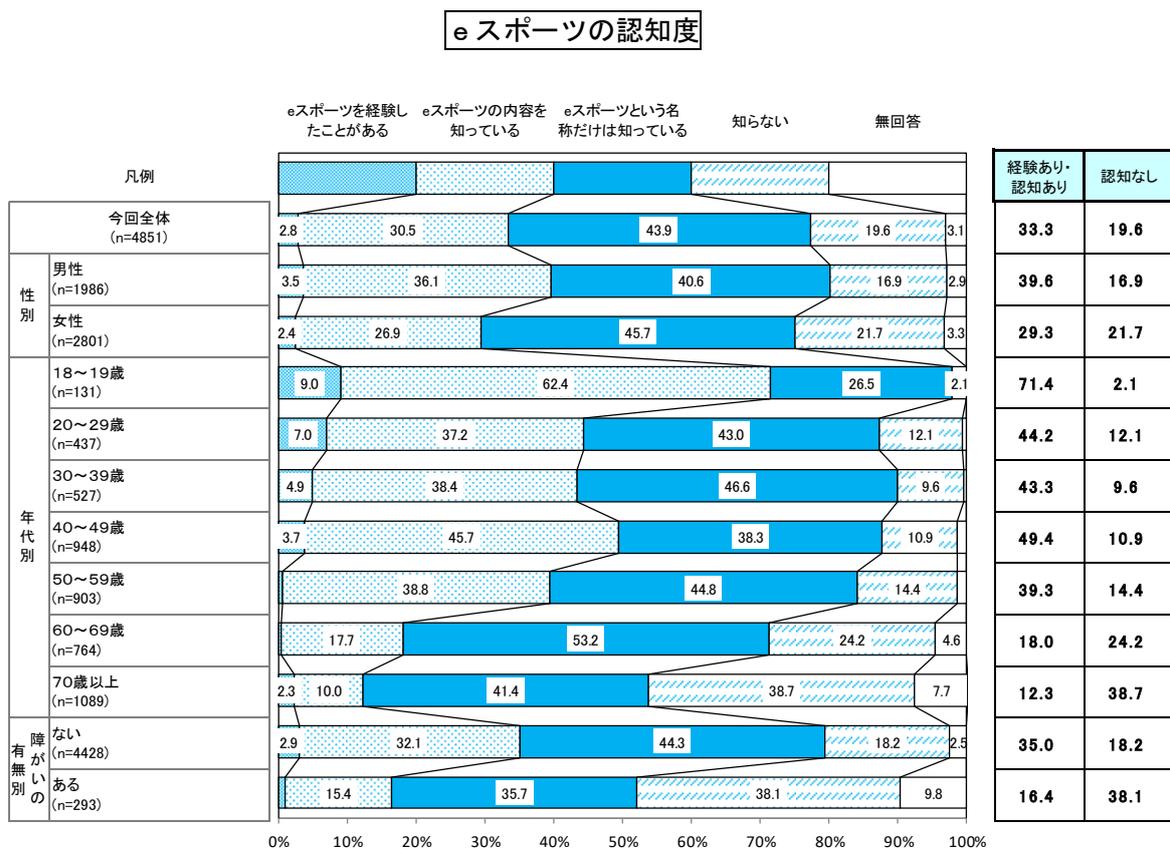


12. eスポーツについて

(1) eスポーツの認知度

「eスポーツという名称だけは知っている」(43.9%)が最も高く、eスポーツの『経験あり・認知あり』(「eスポーツを経験したことがある」2.8%、「eスポーツの内容を知っている」30.5%)は33.3%、「知らない」が19.6%となっている。

年代別では50歳未満で『経験あり・認知あり』の割合が4割を超えている。eスポーツ経験者の割合は18～19歳で9.0%、20代で7.0%、30代で4.9%、40代で3.7%である。

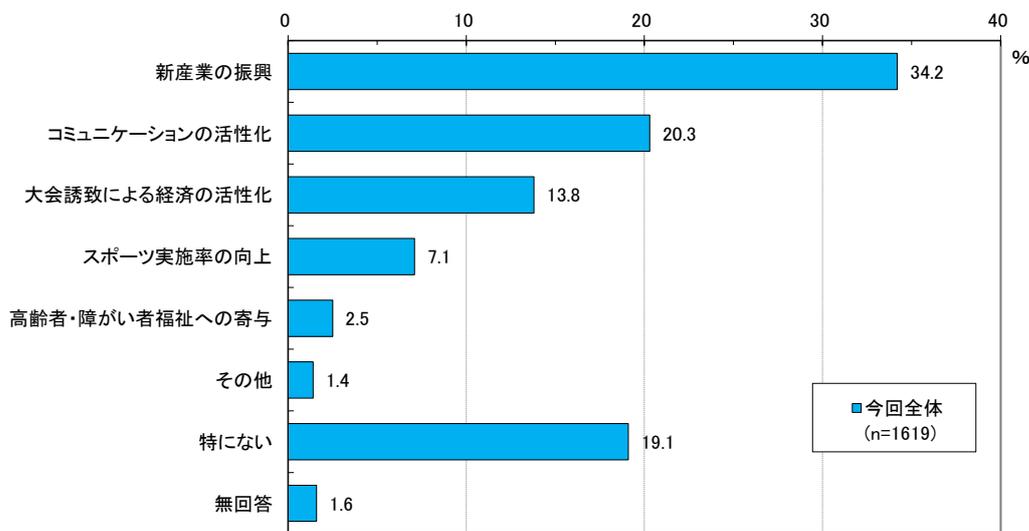


(2) (eスポーツ経験者、内容まで知っている人のみ) eスポーツの有益性

「新産業の振興」(34.2%)が最も高く、次いで「コミュニケーションの活性化」(20.3%)、「大会誘致による経済の活性化」(13.8%)、「スポーツ実施率の向上」(7.1%)、「高齢者・障がい者福祉への寄与」(2.5%)となっている。

年代別では、若い年代ほど「コミュニケーションの活性化」「大会誘致による経済の活性化」の割合が高い傾向がある。

(eスポーツ経験者、内容まで知っている人のみ) eスポーツの有益性



(eスポーツ経験者、内容まで知っている人のみ) eスポーツの有益性

		サンプル数	新産業の振興	コミュニケーションの活性化	大会誘致による経済の活性化	スポーツ実施率の向上	高齢者・障がい者福祉への寄与	その他	特になし	無回答
今回全体		n=1619	34.2	20.3	13.8	7.1	2.5	1.4	19.1	1.6
性別	男性	n=785	37.9	19.0	11.6	8.4	3.3	1.7	16.9	1.2
	女性	n=820	31.3	21.1	16.3	5.9	1.8	1.2	20.6	1.8
年代別	18～19歳	n=94	24.1	31.5	22.2	1.1	-	-	21.2	-
	20～29歳	n=193	33.5	23.8	13.9	14.1	0.9	2.8	11.1	-
	30～39歳	n=228	33.9	13.1	12.2	7.9	1.2	1.5	29.1	1.2
	40～49歳	n=469	37.6	24.3	14.1	4.8	1.5	0.4	16.0	1.4
	50～59歳	n=355	36.8	16.6	15.1	5.9	4.1	2.1	18.1	1.5
	60～69歳	n=137	35.7	17.6	13.5	7.1	7.1	1.3	15.7	2.0
	70歳以上	n=134	25.4	14.8	8.1	11.3	3.3	2.8	28.3	6.0

(注)属性ごとに、全体(平均)よりも高い数値に薄い青色、最も高い数値に青色を付している。

県民の運動・スポーツに関する調査報告書

令和5年3月

福岡県人づくり・県民生活部スポーツ局 スポーツ企画課

福岡市博多区東公園7番7号

TEL (092) 643-3407

FAX (092) 643-3408

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/>

